

ロ、岩石に粘着するもの、足絲と稱する纖毛を分泌して海岸又は海底の礫岩に附着す。イガヒ類ヒバリガヒ、クジヤクガヒ、アカバヒ一種、アコヤガヒ類ウケヒス、マベ、シユミセン、アフリガヒ類、

ハ、貝殻に附着するもの、殻の外面或は死殻の殻口内に附着す、スバメガヒ類、

ニ、肉絲を出して礫岩に附着す。ナミマカシハ類、

ホ、殻軸に附着す、死殻の殻軸に附着し貝殻屈曲す。ヘノジガヒ (Tellimya)

二、穿入性を有するもの、

A、岩石に穿孔するもの、一種の作用を以て岩石に穿孔し、終生岩石内に棲息す。イシマテ類、カモメガヒ類、

マツカゼ、セミアサリ、(Venerupis, Petricola) ヤクウメ (Diplodonta) 類

B、貝殻に穿孔するもの、前種よりは小形貝であつて貝殻、殊に鮑、法螺貝等

に穿入する。イシワリ、カモメガヒの一種、

C、木材に穿孔するもの、木造船の船板、杭等に穿孔して大害を興へる、左の二屬を含む。

イ、フナクヒムシ (Teredo.)

動物の末端にあるパレット (Pallet.) 矢筈形を爲す。

ロ、キシロトリア (Xylotria.)

パレットの形漏斗を積重ねたるが如く、動物も前種より大きい。

D、貝殻(死殻)に穿孔して内面に棲を作り其中に棲む。

イ、ハヒガヒに穿孔して棲を作る、Cuculbitula. (Pl. II. B)

三、潜人性を有するもの、

A、海濱の泥砂中に潜入するもの、

カニモリガヒ類、ツメタガヒ類、

キセワタ (Philine)

B、泥土中に直角的潜入して、

イ、體の三分二を潜入して固定的、

タヒラギ類、纖毛を出して周囲の泥砂に附着し顛倒を防ぐ、

ツ、カキ 基部の小孔より肉絲を出して泥砂に附着し顛倒を防ぐ、

ロ、長き水管を有し、深く泥土中に潜入す、

オホノガヒ、ウミタケ、ミルクヒ、ムラサキガヒ、マテガヒの類、

マテカヒの足は特殊の機能を有し、潜入性と跳躍力を持つて居るのは人が能く知るところである。

C、海綿中に潜入するもの、

ホウワウガヒ (Vulsella.) は海綿中に潜入して群を爲す、丁度貝に海綿が附

着した様に見ゆる。

四、水面下を匍匐するもの、

モノアラガヒ、ヒラマキガヒ (淡水産)

Columbella, Archytea, Cecum. (海産) 等の類は水面下を匍匐し、粘液を分泌して水中に垂下する事もある。

蛤の幼貝が粘液を分泌して其上昇力を利用して居所を移動すると云ふ。

五、匍匐性の退化せるもの、

ツメタガヒの如き足の異常に発達せしものは別として、砂洲地に棲息するものは足が能く発達して居る、之れに反して極端に退化せるものは (Strombidae) 袖貝科に屬するものである。其退化せる足は匍匐する事が出来ない迄に細く、

丁字形に分岐せる端に、柳葉状の唇があつて、此唇を巧に操縦して海底を蹴り、體を蹙動する様甚だ滑稽である。

## 六、活動的の貝類

A、浮游生活をなすもの、

イ、薄き貝殻を有し、體は薄膜状にして常に海面に浮游するもの、

カメガヒ、ウキヅ、ガヒの類、

ロ、薄き貝殻を有し、浮囊を分泌し其浮揚力を利用して海面に浮游するもの、

アサガホガヒ、ルリガヒの類、

B、活躍を爲すもの、

イ、継続的に不斷飛躍するもの。雙殻を互に烈しく開閉して前進する。

ホタテガヒ、イタヤガヒ、ツキヒガヒ、

ロ、斷續的に飛躍するもの。前種と同様の飛躍を爲し、休止せんとする時、足絲を出して附着して更に飛躍を試みんとする時は足絲を抜取る。

ヒアフギの類 (Chlamys.)

ハ、飛躍する力は強からず、斷續的のもの、

ミノガヒの類

全體雙殻類は俗に舌と稱する足を以て徐々に移動するに留まり、腹足類の如く活潑且つ迅速に匍匐することが無きにも係らず、前記の如き活動的に飛躍する貝のあることは甚だ珍らしきことである。

## 七、貝の保護色

貝類の堅固なる貝殻と特殊の突起物は外敵の襲來に備へ、體色を利用して擬體をなし自體を保護するものがある。

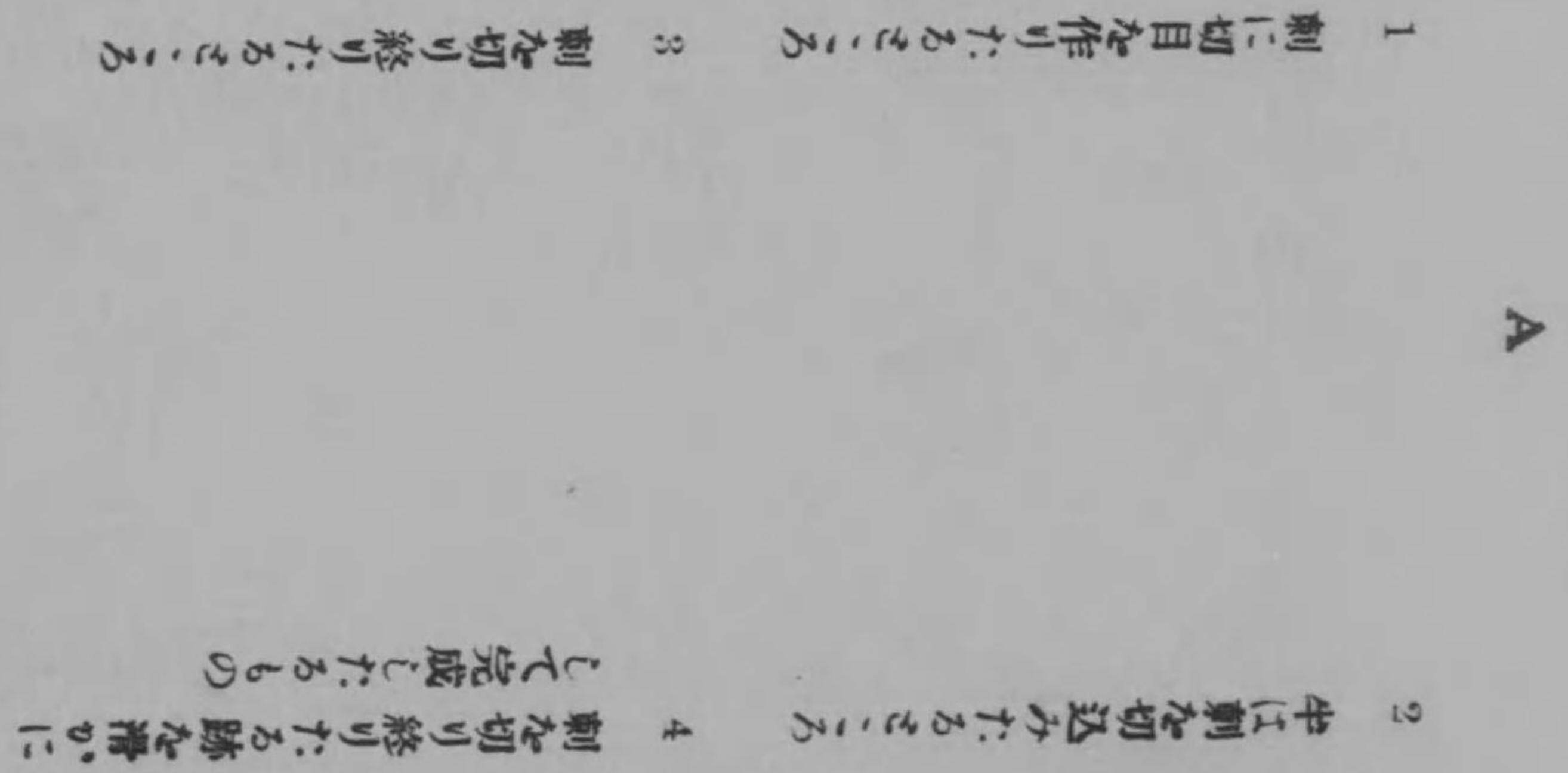
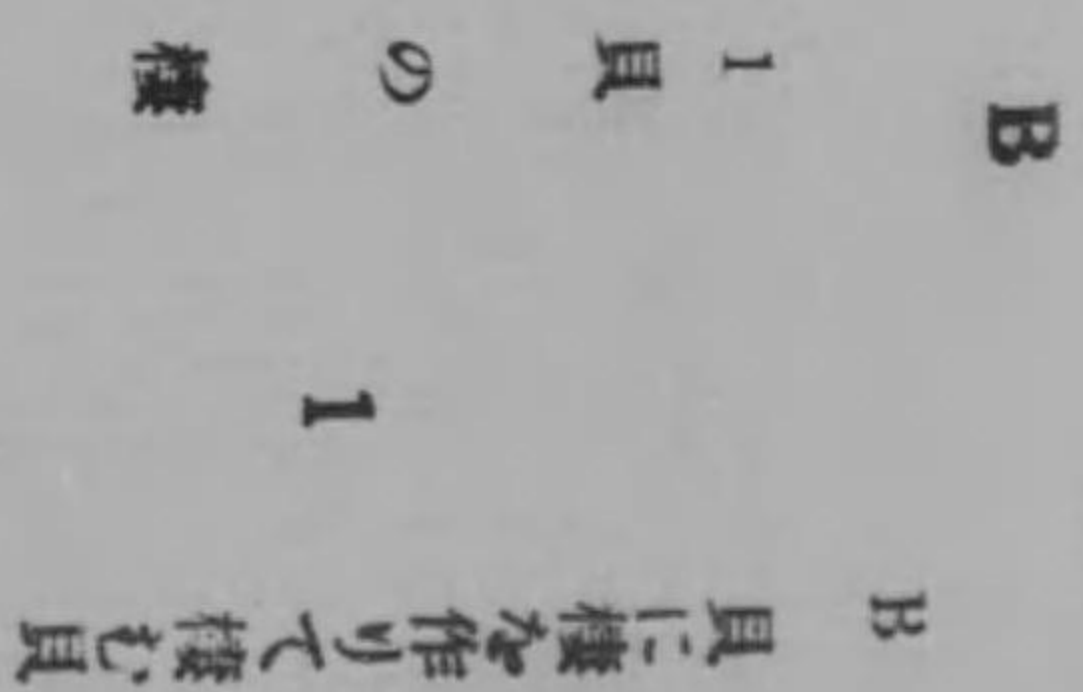
ツグチガヒ (Ovula) がヤギ (珊瑚類) に附着し、クマサカマヒが周圍にある死

殻を集めて體に粘着せしめ、何れも巧に保護色を利用すること甚だ奇態を極めて居る。

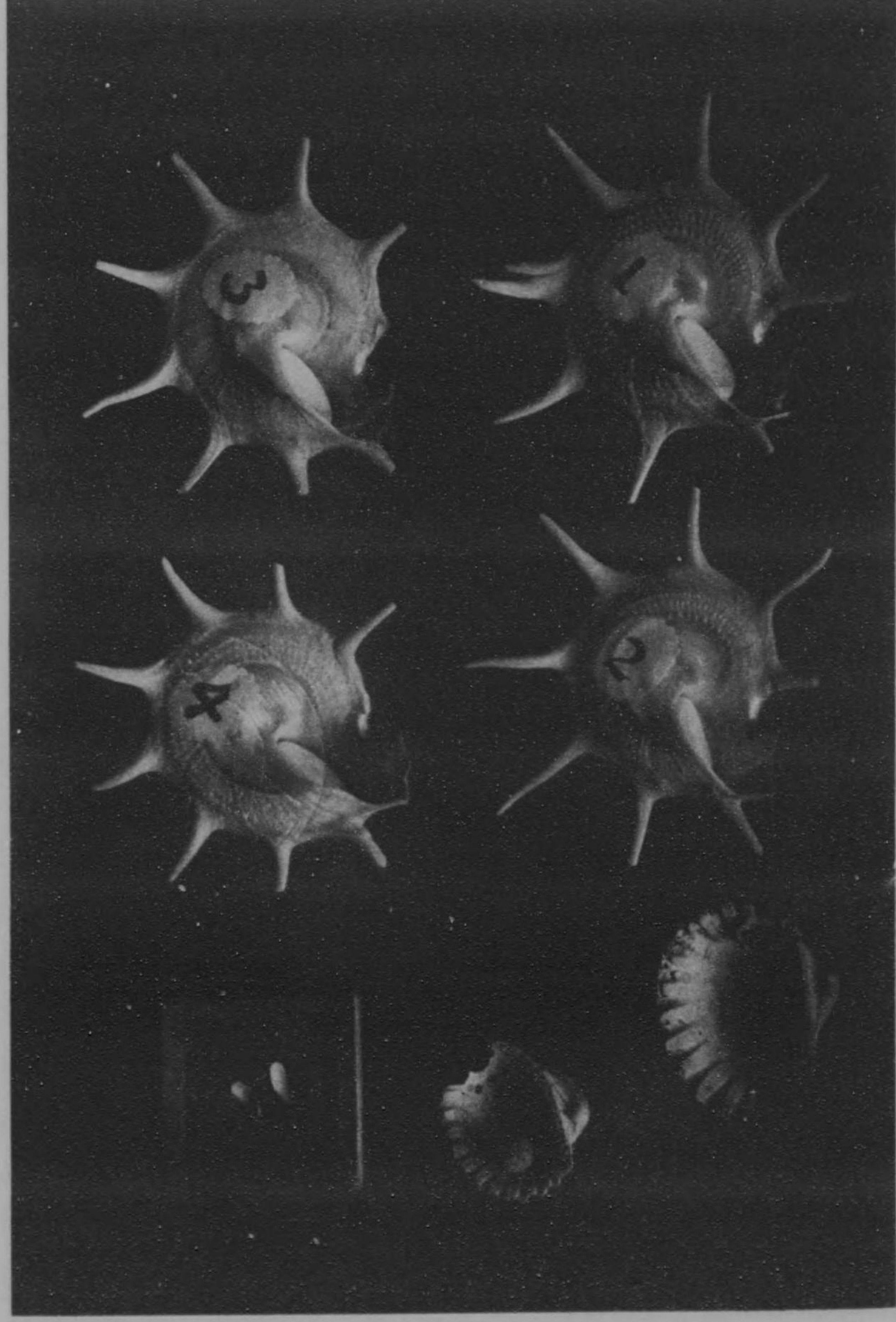
八、奇なる貝の習性、

リンボウガヒ (Astraea.) の周縁にある刺狀突起物は貝殻の發育と共に構作さるゝ、周縁一部の特化物質に外ならぬのである。

螺層の發育に伴ひ殻口の近接(殻口が延長する故)にある刺狀突起は、貝の構成に障害となるので、動物體よりある一種の液を分泌して其基部に浸蝕して切目を作り(一)更に深く浸入して(二)遂に一刺を切り取つて仕舞ふ。(三)其痕蹟は分泌液により滑かとなし、全く切取り作業を完成するのである。(四)斯くて充分の發育を遂げたるものは休止するのである。幼貝より數々其作用を繰返したる痕蹟を縫合に於て認知する事が出来る。(圖版第十一版A)



2  
1. Cuculbitula.



1 腹二四目が折れけるもの  
2 腹が折れぬもの

A

3 中に腹が折れけるもの  
4 腹が折れぬもの

A 腹が折れぬもの

B

1 貝の類

I

B 貝二類が折れて居る貝

I. Cucullifera

S

### 日本産左巻の貝類

現世界の産貝數萬種の内、左巻（殻軸の左方に殻口を有するもの）となれるものは甚だ尠く漸く數百種に過ぎないのである。素左巻の貝は其特性を以て生れ、左巻を繼承して居るものと、右巻が偶然左巻に變化する場合もある、が後者は突發的で其例甚だ稀に生するのである。

印度及び西亞弗利加のプリンス島では宗教上に左巻の貝類を崇敬するのである。或る印度人の話によると婚禮又は葬儀の有つた場合に、親戚、知人に左巻貝を配分するを名譽とするさうである、印度人の崇敬するシャンク貝 (*Xancus pyrum* Linne) の左巻となつたのは珍中の珍とし、同量の黄金と同價を有すると云ふことで、同國の某寺院に一個の左巻シャンクを藏し、崇敬の中心となつて居ると云ふ事である。

トラバンコール(印度の南端)は此シヤンク貝を國章とし、同國發行の金、銅貨幣及び郵便切手には此貝の國章を附してある。

北米フロリダ海に産するライトニング、セル(Busycon perversus L.)は高さ一五五ミリ(約四寸九分)内外、大なるものは約一フートあり、世界的左巻貝の代表種であつて印度人の崇敬するものである。又亞弗利加西部の左巻蝸牛(Achatina bicarinata Brug.)はプリンセス島土人の崇拜するもので有名である。

日本にては左巻貝に關する傳説は無い、左巻のものは甚だ尠い、産貝三千五百種の内漸く二百七十餘種に過ぎないのである。

陸産 四屬 二百五十

*Palaina.* (ヒダリマキゴマガヒ) 四種

*Eulota (Euhadra)* 二百二十餘種中 十三種

<i>E. quasisita</i> Desh.	ヒダリマキマイン
<i>E. "</i> <i>perryi</i> Jay.	クロスヂヒダリマキマイン
<i>E. "</i> <i>montium</i> Marts.	チヤイロヒダリマキマイン
<i>E. "</i> <i>decorata</i> Pils. & Hir.	カザリヒダリマキマイン
<i>E. grata</i> Gude.	
<i>E. "</i> <i>zonata</i> Gude.	オホタキマイン
<i>E. scevola</i> Marts.	タカヤマヒダリマキマイン
<i>E. "</i> <i>mikawa</i> Hir.	カドヒダリマキマイン
<i>Conglobus perversa</i> Pils.	リウキウヒダリマキマイン
" <i>pancala</i> Schm & Bttg.	
" <i>formosensis</i> Pfeiffer.	
" <i>jaeyanensis</i> Pils.	クロイハヒダリマキマイン

*Coniglobus contraria* Pils. & Hir.

サカマキイナイ

” *pekanensis* Rolle.

ヒダリアキクライナイ

*Clausilia*. (キセルガヒ全部) 二百三十餘種

淡水産 二屬 二種

*Bullinus nipponensis* Hirase.

ヒダリアキモノアラガヒ

*Campoceras Hirasei* Walker.

カハネジガヒ

海産 二屬 二十餘

*Triphora*. (キリオレガヒ) 二十餘種

*Antiplanes vinosa* Dall.

ヒダリアキイダチ

### 日本の名を負へる貝類

日本産貝類中にて Japonica, Nipponica. 等日本の名を負へる貝は、亞種、變種を通じて合計百十種及び擬軟體動物一種を加へ百十一種となる。

内 譯

	卷 貝	二枚貝	小 計
陸 産	四〇	一	四〇
淡 水 産	一六	九	二五
海 産	三〇	一五	四五
擬軟體動物	〇	一	一



*Pupisoma japonicum depressum Pils. & Hir.*

ヒメヒラドマルナタネ

*Ganesella japonica Pfr.*

ニホンマイマイ

*G. j. satsuma Pils.*

サツマニホンマイマイ

*G. j. heteroglypta Pils.*

コニホンマイマイ

*G. j. granulosa Pils.*

スダイリニホンマイマイ

*G. j. carinata Pils. & Gulick.*

カドバリニホンマイマイ

*Eulota (Euhadra) callizona nipponensis Kob.*

ハリママイマイ

*Clausilia japonica Crosse.*

ナミキセル

*C. j. perstriata Pils.*

アラスジナミキセル

*C. j. perobscura Pils.*

オボロナミキセル

*C. j. okinoshimana Pils.*

オキノシマキセル

*C. j. interplicata Pils.*

オウウナミキセル

*C. j. hilgendorfi Marts.*

オホナミキセル

*C. j. vespertina Pils.*

ユフグレナミキセル

*C. j. kobensis Smith.*

シロナミキセル

*C. j. ultima Pils.*

ヒメナミキセル

*Vertigo japonica Pils. & Hir.*

ヤマトキバサナギガヒ

陸 産 (40)

*Waldemaria japonica A. Ad.* ヤマキサゴ

*W. j. echigoensis Pils.* エチゴヤマキサゴ

*W. j. uzenensis Pils.* ウゼンヤマキサゴ

*W. j. reinii Kob.* モミヂヤマキサゴ

*W. j. expolita Pils.* ヌリツヤヤマキサゴ

*Georissa japonica Pils.* ゴマヲカタニシ

*Diplommatina nipponensis Mlldff.* ニホンゴマガヒ

*Arinia japonica Pils. & Hir.* シリプトゴマガヒ

*Spirostoma japonicum A. Ad.* ヤマクルマ

*S. j. tsushimaenum Pils. & Hir.* ツシマヤマクルマ

*S. j. chejuensis Pils. & Hir.* サイシウヤマクルマ

*Blanfordia japonica A. Ad.* サドラカマメタニシ

*Acmea japonica Pils. & Hir.* ヒメクビキレガヒ

*Omphalotropis japonicus Pils.* ヘソカドガヒ

*Otesia japonica Mlldff.* レンズガヒ

*Pristiloma japonica Pils. & Hir.* エゾエンザ

*Punctum japonicum Pils.* ハリマナタネ

*Pupisoma japonicum Pils.* ヒラドマルナタネ

*Planorbis compressus japonicus Marts.*

ヒラマキミヅマイマイ

*Choanomphalus japonicus Preston.*

カドヒラマキガヒ (新稱)

*C. j. perstriatulus Preston.*

*C. j. biwaensis Preston.*

*Bulimus striatulus japonicus Pils. マメタニシ*

---

<i>Anodonta japonica Marts.</i>	タガヒ
<i>Nodularia japonensis Lea.</i>	マツカサガヒ
<i>N. j. jokohamensis Iher.</i>	ヨコハマシバラ
<i>N. j. haconensis Iher.</i>	ハコネシバラ
<i>Corbicula nipponensis Pils.</i>	ニホンシバミ
<i>C. n. delicata Pils.</i>	ヒメニホンシバミ
<i>Corbicula japonica Prime.</i>	ヤマトシバミ
<i>Musculium japonicum Westl.</i>	ドブシバミ
<i>Corneocyclas japonicum Pils. &amp; Hir.</i>	マメシバミ

*Vertigo japonica coreana Pils.*

*V. j. tosana Pils.*

*Cassidula labrella japonica Mlldff. シヒノミミ、ガヒ*

*Carychium hachijoense nipponense Pils. & Hir.*

ヒメケシガヒ

淡水産 (25)

<i>Viviparus japonicus Marts.</i>	オホタニシ
<i>V. j. iwakawa Pils.</i>	カクタニシ
<i>Stenothyra japonica Hirase.</i>	ミヅゴマツボ
<i>Assiminea japonica Marts.</i>	カハサンセウ
<i>A. j. iyoensis Pils.</i>	イヨカハサンセウ
<i>A. j. hiradoensis Pils. &amp; Hir.</i>	ヒラドカハサンセウ
<i>Thiara nipponica Smith.</i>	ヤマトカハニナ
<i>T. n. biwæ. Kob.</i>	チクブカハニナ
<i>Lymnæa japonica Jay.</i>	モノアラガヒ
<i>Omia japonica Preston.</i>	アフミガヒ
<i>Bullinus nipponensis Hirase.</i>	ヒダリマキモノアラガヒ

<i>Latrunculus japonicus</i> Sowb.	バ イ
<i>Cyllene japonica</i> Pils.	シレネガヒ(新稱)
<i>Nassarius japonicus</i> A. Ad.	キヌボラ
<i>Pyrene pardarina japonica</i> Rve.	シママツムシ
<i>Aesopus japonicus</i> Gould.	コハナマツムシ(新稱)
<i>Tritonaria japonica</i> Dkr.	エゾヤウラク
<i>Cōralliophila japonica</i> Dkr.	テンニヨノカムリ
<i>Psephæa japonica</i> Hirase.	シマヒタチオビ(新稱)
<i>Olivella fortunei japonica</i> Stearns.	クリイロホタル
<i>Clathrodrillia japonica</i> Lisch.	ヲハグロシヤチク
<i>Maculotriton japonica</i> A. Ad.	カゴメツクシ(新稱)
<i>Scaphander japonicus</i> A. Ad.	スイフガヒ
<i>Cylichnella japonica</i> A. Ad.	
<i>Philine japonica</i> Lisch.	キセワタ
<hr/>	
<i>Yoldia japonica</i> Ad. & Rve.	ベツカフキラ、
<i>Nucula nipponica</i> Smith.	リルミガヒ
<i>Atrina japonica</i> Hanl.	タヒラギ
A. j. <i>lischkeana</i> Clessin.	リシケタヒラギ

海 産 (45)	
<i>Cryptoplax japonicus</i> Pils.	ケムシヒザラガヒ
<i>Liolophura japonica</i> Lisch.	ヒザラガヒ
<i>Haliotis japonicus</i> Rve.	トコブシ
<i>Stomatella nipponensis</i> Pils.	クロアシヤガヒ
<i>Cantharidus japonicus</i> A. Ad.	チクサガヒ
<i>Enida japonica</i> . A. Ad.	
<i>Astræa</i> ( <i>Pachypoma</i> ) <i>japonica</i> Dkr.	
	ヒラサバエ
* <i>Cocculina japonica</i> Dall.	シロカサガヒ
<i>Strombus japonicus</i> Rve.	シ ド ロ
<i>Merria japonica</i> Pils.	シロネヅミガヒ(新稱)
<i>Sinum japonicum</i> Lisch.	ヒメツ、ミガヒ
<i>Phalium japonicum</i> Rve.	ウネウラシマ
<i>Epitonium japonicum</i> Dkr.	ヒメネヂガヒ
<i>Fusinus nipponicus</i> Smith.	アラレナガニシ
<i>Vexillum japonicum</i> A. Ad.	ナガツクシ
<i>Buccinum nipponense</i> Dall.	イトカケバイ(新稱)

<i>Amusium japonicum Gmel.</i>	ツキヒガヒ
<i>Brachydontes japonicus Dkr.</i>	ヤマホト、ギス
<i>Laternula japonica Lisch.</i>	オキナガヒ
<i>Trapegium japonicum Pils.</i>	ウネナシトマヤガヒ
<i>Kellia japonica Pils.</i>	ドブシバミモドキ
<i>Solecardia vitrea japonica Pils.</i>	
<i>Dosinia japonica Rve.</i>	カバミガヒ
<i>Mya arenaria japonica Jay.</i>	オホノガヒ
<i>Panope japonica A. Ad.</i>	
<i>Diplodonta semiaspera japonica Pils.</i>	
	ヤヘウメ
<i>Teredo japonica Clessin.</i>	フナクヒムシ

---

BRACHIOPODA.

*Crania japonica A. Ad.*

### 日本産蜆の新研究

蜆は古く之々美、四時美、などの字を用ひた、蛤、淺喇、蠣等よりも一層普遍的に分布するが爲に却つて注意を惹く事が尠く、日本の古き學者も研究を等閑に附して居つた、否寧ろ氣が附かなかつたと云ふ方が適切であるかも知れぬ。

米國の淡水貝類學者テンプル、プライム (*Temple Prime*) 氏は千八百六十四年(慶應元年) マシバミ、ヤマトシバミの二種を發表した。實に日本産蜆に就ての最初の研究者であつた、次でラインハート (*Reinhardt*) 氏は千八百七十八年セタバミを發表した、又ビルスブリー (*Henly. A. Pillsbury*) 氏は東京帝室博物館採集の標本に基き、千九百一年アハヂシバミ、サドシバミを、千九百七年オグラシバミ、ムラサキシバミ、ニホンシバミ、ヒメニホンシバミの六種を發表し、且つ蜆の研究索引を記

載せられたので研究上多大の利益を得る事となつた。

爾來理學士岩川友太郎氏及び平瀨與一郎氏の研究に伴ひ新規採集品を合し、現在内地、臺灣を通じて十四種を算し尙此他産地的變種のもの數種を含んで居る。

蜆は卵三角形の貝殻を有し、黒き表皮を被り、荒き渦脈を有し、内面多くは淡紫色を呈し、兩側齒長く鑿狀の齒を有すると齒丘面廣く、鞞帶尖出せるが主なる特長である。先づピルスブリー氏の索引を左に掲ぐ、

一、齒丘は強固にして粗糙なり。

A、殻は卵圓形、渦脈荒し、蝶番線曲る。

B、窩心部は白或は帶莖色、外套膜線外は濃き莖色、殻頂可なり突出し殼中型。

マシ ヲミ

B'、内面紫、殻頂低し、上縁少しく屈曲殼は小且つ美し。

アハゲシ ヲミ

A'、殻亞三角形、殼邊は殻頂より直線に傾斜す側齒長く直線、渦脈光澤あり美し、大型。

オケラシ ヲミ

二、齒丘滑かに近く僅か粗なり。

A、表皮滑か、殼の中央部突出す。

B、殻卵圓三角形。

ヤマトシ ヲミ

B'、殻三角形、殻頂突出し蝶番強し。

セタシ ヲミ

A'、渦脈荒く内面莖色、窩心部帯白又は蒼白色、主齒傾斜す。

ムラサキシ ヲミ

B、殻長橢圓形、殻頂低く蝶番線僅か屈曲、

サドシ ヲミ

B'、殻亞三角形、殻頂著し蝶番線角張る、

ニホンシ ヲミ

### 日本産蜆の新索引

一、殻は卵三角形、漆黒の表皮を被り滑か、幼貝の時多く放射狀斑線を有す、

齒丘滑かに近く側齒短し、内面淡紫色又は白色。

A、殻は栗實狀三角、渦脈密、漆黒の艶あり、内面淡紫色、齒丘廣く滑か。

ニホンシバミ

A'、殻稍橢圓、側齒灣曲。

サドシバミ

A''、殻小形、渦脈密、側齒細し。

ヒメニホンシバミ

B、殻卵三角形、渦脈不明瞭漆黒の艶あり、内面多く乳白色窩心部に紫斑を有す、側齒僅灣曲、前側齒長し。

ヤマトシバミ

B'、殻卵三角形殻頂突出、渦脈不明瞭茶褐色、内面白色、側齒太く、貝殼厚し。

サツマシバミ(新稱)

B''、殻卵三角形殻頂突出、渦脈荒く茶褐色、内面紫、側齒太し。

セタシバミ

B'''、前種より稍橢圓、少しく小形、内面濃紫色、側齒細し。

ムラサキシバミ

二、殻亞三角形、渦脈荒く稍粗なり、幼貝の時黒斑又は雲紋帶を有し、内面紫色、側齒長く殆んど長線、齒丘粗糙なり。

C、殻大小不同あり、齒丘粗糙、内面濃紫色。

マシバミ

C'、前種より大きく鋭三角形、殻頂著し、内面淡紫色側齒長し。

オグラシバミ

C''、殻薄く小形橢圓形、側齒灣曲。

アハヂシバミ

D、殻亞三角形、渦脈荒く稍粗なり、内面淡堇色。

カネツケシバミ

D'、殻厚く渦脈滑か、殻頂尖る内面淡堇色。

タイワンシバミ

三、殻亞三角形大型、渦脈不明瞭漆黒の艶あり、内面乳白色、外套膜線外帯黄。

オホシバミ

本索引は元平瀬貝博黒田助手の發案になれるものに小生の意見を加味し、以下解説は原記載を基礎としたるも總て標本に就て解し易き様其特長のみを摘要したものである、結論は小生の兼て研究せる貝塚の蜆に準據したものである。

*Corbicula nipponensis* Pils. ニホンシバミ(岩川)

殻は栗實の如き三角形である、貝殻は薄き方で幼貝の時は帶黄褐色で、黒き同心雲紋帯を有し放射條紋が有る、渦脈滑か内面白色であるが老成すれば漆黒の如き艶を有し渦脈密集して前丘は明瞭である。内面は堇色を呈する事もある、兩側齒は九十度の角を有し前側齒の末端は肉柱に添ひ少しく灣曲して居る、齒丘は廣く滑かなるが特長である。本種は東北地方の特産であるが本土、四國、九州迄分布して居る、地方によりては多少型を異にし變種と見べきものもある。(圖版第十二版第一圖)

長さ 四六、〇 高さ 四一、〇 幅 二五、〇 ミメ

*Corbicula nipponensis sadouensis* Pils. サドシマミ(岩川)

ピルスブリー氏は種として記載されたが前種の産地的變種である、前種より稍低く、渦脈幾分か粗糙で貝殻厚さ方である、此種のもは各地に分布する。

(圖版第十二版第二圖)

長さ 三六〇 高さ 三三〇 幅 二一〇

*Corbicula nipponensis delicata* Pils. ヒメニホンシマミ(岩川)

前種よりは小形で稍丸味を帯び、發育の状態は前二種と同様である、渦脈は細密で愛らしく、内面淡堇色又は白色で窩心部に紫斑を有する事がある。本種は加賀河北潟が模式産地である、中部地方、中國、四國、東北地方にまで分布する。(圖版第十二版第三圖)

長さ 三四〇 高さ 三三〇 幅 二〇〇

*Corbicula japonica* Prime. ヤマトシマミ(岩川)

殻は卵三角形で殻頂能く膨れ、幼貝の時は帶黃褐色で放射線條を有し、生長すれば黒褐色の雲紋帶を有し、老成すれば漆黒の麗はしき艶を有し、渦脈は荒く不明瞭で中央部消滅する事がある。前端は丸く後端は少しく突出し前丘は明瞭である、蝶番線は狭き方で前側齒は輕微の孤線を書き後側齒よりも長い、齒丘は滑かに近く、内面は普通乳白色で窩心部に紫斑を有するか、淡堇色である。本種は近畿地方を中心として相當廣く分布して居る。(圖版第十三版第四圖)

長さ 四一〇 高さ 三七〇 幅 四二〇

*Corbicula sandai* Reinh. セタシマミ

殻は銳三角形で殻頂著しく突出し、幼貝より老貝に至るまで表皮色彩の變化多く



種々の稱呼を附せられて居る、最幼貝で帶黃綠色、内面白色のものはマワタガヒ、  
稍微紅色を呈したるものはベニガヒ、放射條紋を有するものはシマガヒ、褐色のは  
ベッコウガヒ、茶褐濃色のものはヤシマガヒ、漆黒色のものはクロガヒと云ひ、産  
地により色彩に多少の相違を來たす。

渦脈荒く明瞭で、前端は丸く後端長く、内面窩心部は乳白色、外套膜痕外は濃紫  
色を呈し、蝶番線は太く前側齒の末端は肉柱に添ひ灣曲し、後側齒は長く殆んど直  
線である、齒丘は滑かに近く、韌帶強く且突出して居る、蛻屬中の最も特長明瞭な  
るものである、本種は琵琶湖の特産である。(圖版第十二圖第五圖)

長さ 三四、〇 高さ 三一、〇 幅 二〇、〇

□薩摩川内川せんだいかわに一種大形なる蛻がある、卵三角形で貝殻厚く茶褐色で渦脈不明  
瞭、内面白色、兩側齒短く前側齒の方が後側齒よりも稍長い、ヤマトシヅミの

産地的變種であらうと考へる。ビルスブリー、岩川兩氏の記載に薩摩川内川よ  
りセタシヅミを産する由述べられて居るが、採集數尠く僅かに數個の幼貝に附  
て記載せられたるが如く、平瀬氏の標本に就て見るに明かに本種の幼貝である。

(圖版第十三版第六圖)

長さ 四六、〇 高さ 三九、〇 幅 二七、五

本種を便宜上サツマシヅミと命名した。

*Corbicula sandai viola* Pils. ムラサキシヅミ(岩川)

セタシヅミより殻小さく、稍橢圓形を帯び、兩側齒僅かに灣曲して細きが特長で  
ある。要するに本種はセタシヅミの變種に過ぎない、且つ本種はセタシヅミ中に僅  
かに混じて産し其區別の明確なるもの尠く鑑定は甚だ困難である。ビルスブリー氏  
は本種の幼貝に就て種と鑑定せられたものであるが誤りである。併し變種として充

分特長を供へたるものは存在を認めて差支へないと思ふ。(圖版第十三版第七圖)

長さ 三九、〇      高さ 二九、〇      幅 一九、〇

*Corbicula leana* Prime.      マシバミ(岩川)

殻は略三角形、殻頂稍前方に傾き後端は少しく長い、渦脈明瞭で稍粗糙である、幼貝の時は淡青色で殻頂には褐色の斑點あり、老成したるものは黒色となる。兩側齒長く約六十度を開き、前側齒の末端は少しく上部に於て屈曲し、後側齒は長く直線である、齒丘には荒き縮皺の彫刻を有するが特長である、内面は濃紫色で窩心部の方は淡い、本種も本邦産蜆中の普通種で有つて最も廣く分布して居る。

(圖版第十四版第八圖A)

本種には二つの型がある、殻頂の稍前方に偏したるものは殻薄く幾分か横長で、産地により大小の不同が甚だしい、多く小川に棲息するものは本型に屬する。一は殼

頂中央に位置し貝殻能く膨れ、前種よりは殻厚く斑點一層明瞭である、又内面淡堇色で光澤あり美しい。湧泉、池等に産するものは本型に屬する。

(圖版第十四版第八圖B)

長さ 四四、〇      高さ 三九、〇      幅 二五、〇

*Corbicula leana orthodonta* Pils.      ナリヒラシバミ(方言)  
オグラシバミ

前種より貝殻大きく鋭三角形である、幼貝の時は黒色の斑紋帯を有し、老成したるものは黒色となる、渦脈細く美しく光澤あり、内面は通例淡紫色を呈し、貝殻薄きが特長である。原産地は東京隅田川の特産であつたが現今殆んど絶滅したと云ふ事である、諏訪湖及び其附近にも分布す。本種の模式型を除きたるものはマシバミとの差別甚だ不明瞭である、要するに本種は、マシバミの産地的場所により良好に發育したるものであつてマシバミの變種となるべきものである。(圖版第十四版第九圖)

長さ 五〇、五 高さ 四六、〇 幅 二七、五

*Corbicula awajiensis* Pils. アハヂンバミ(岩川)

殻橢圓著しく小形である、渦脈荒く明瞭、帯黄綠色で殻薄く、後端の方丸く且つ短かい、内面は紫色、兩側齒灣曲せると齒丘に明瞭なる彫刻を有するが特長である素と本種は南淡路野田の小河より發見せられたもので模式標本は幼貝である。

マシバミの幼貝と本種とは産地により殆んど差別し難きものがある、併し前者は貝殻厚く、兩側齒太く直線であるのと、内面濃紫色なる故に識別する事が出来る、要するに本種はマシバミの産地的發育不完のものと思ふのである。

(圖版第十五版第十圖A)

長さ 二〇、〇 高さ 一五、〇 幅 九、〇

小生の山形市より採集したる標本は、前種より大きく圓三角形に近く、渦脈不正形に竝列し、往々黒斑を有するものあり、前背縁は稍直線に傾斜し、後縁は短く孤線を書き、後端は丸きに比し前端は切て後半よりも長く突出して居る。兩側齒細く灣曲す。(圖版第十五版第十圖B)

長さ 二九、〇 高さ 二六、〇 幅 一八、五

*Corbicula producta* Marts. カネツケシバミ(平瀬)

マシバミに能く似て小さく、渦脈密、殻頂部に黒斑を有し、内面は淡紫又は乳白色で兩側齒細さが特長である、臺灣の南部に産す、但し本種は幼貝に依て記載した。(圖版第十五版第十一圖)

長さ 三八、〇 高さ 三三、〇 幅 二二、〇

*Corbicula fluminea* Mill.

タイワンシバミ(平瀬)

殻三角形、殻頂尖り渦脈荒く、幼貝は淡青色、中貝は茶褐色を呈し殻頂に黒斑を彩り、老成すれば黒色となる、前後兩線は殆んど直線に傾斜し、後端は少しく切られ、内面は淡華色で内外共に艶麗しさが特長である、臺灣全島に亘り産する。

(圖版第十五版第十二圖)

長さ 五七、〇      高さ 四一、〇      幅 二七、〇

*Corbicula maxima* Prime.

オホシバミ(平瀬)

殻は圓三角形で前端は大きく圓形を爲し後端は少しく突出し腹線の孤線は強い、殻頂能く膨れ稍前方に傾く、渦脈殆んど滑かに近く幼貝の時は帶黄綠色で、老成したるものは漆黒の艶がある、内面の周縁は黄色、窩心部は白色である、兩側齒割合に

短く前側齒の末端は少しく灣曲して、齒丘殆んど滑かに靱帶頑丈である、本種の大なるものは蛤の如く、蜆屬中の最大なるもので臺灣淡水川の特産である、又本種はニホンシバミとマシバミとの中間系統に屬するもので亞屬を設定する必要がある。

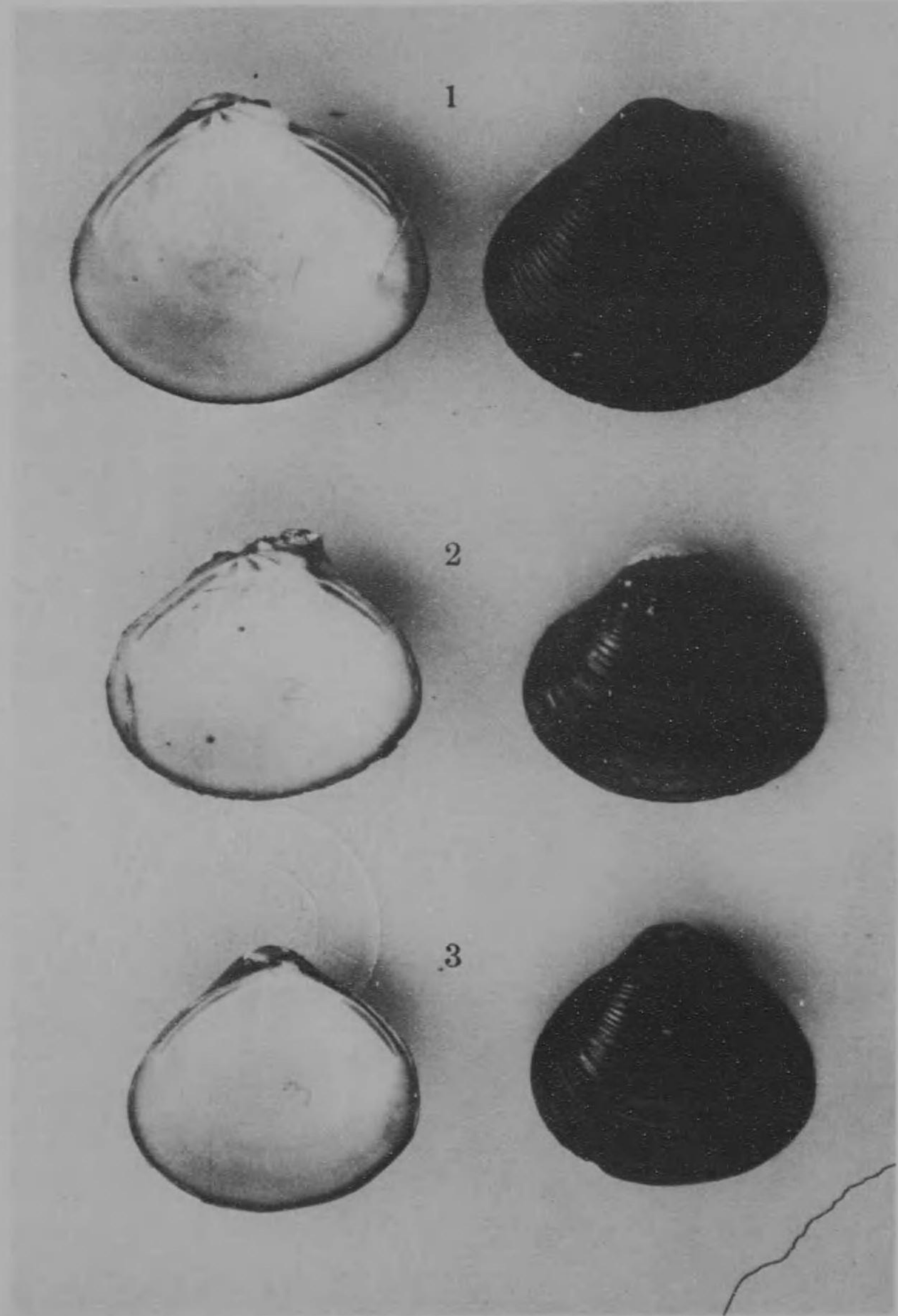
(圖版第十六版第十三圖)

長さ 八、七五      高さ 七八、〇      幅 四一、五

△結論 要するに、

一。ニホンシバミの系統に變種サドシバミ、ヒメニホンシバミがあり、筑後川(筑後)足守川(備中)産のチクゴシバミ(岩川氏の新種)も畢竟ニホンシバミの産地的變型に過ぎない。

二。ヤマトシバミ系は素とニホンシバミの産地的變型が久しき年代の間に獨立の型を生じたものである。併し模式標本を除きてはヤマトシバミとニホンシバミとの



1. *Corbicula nipponensis* Pils.  
 2. " " *sadoensis* Pils.  
 3. " " *delicata* Pils.

日本産蜆の新研究 (一)

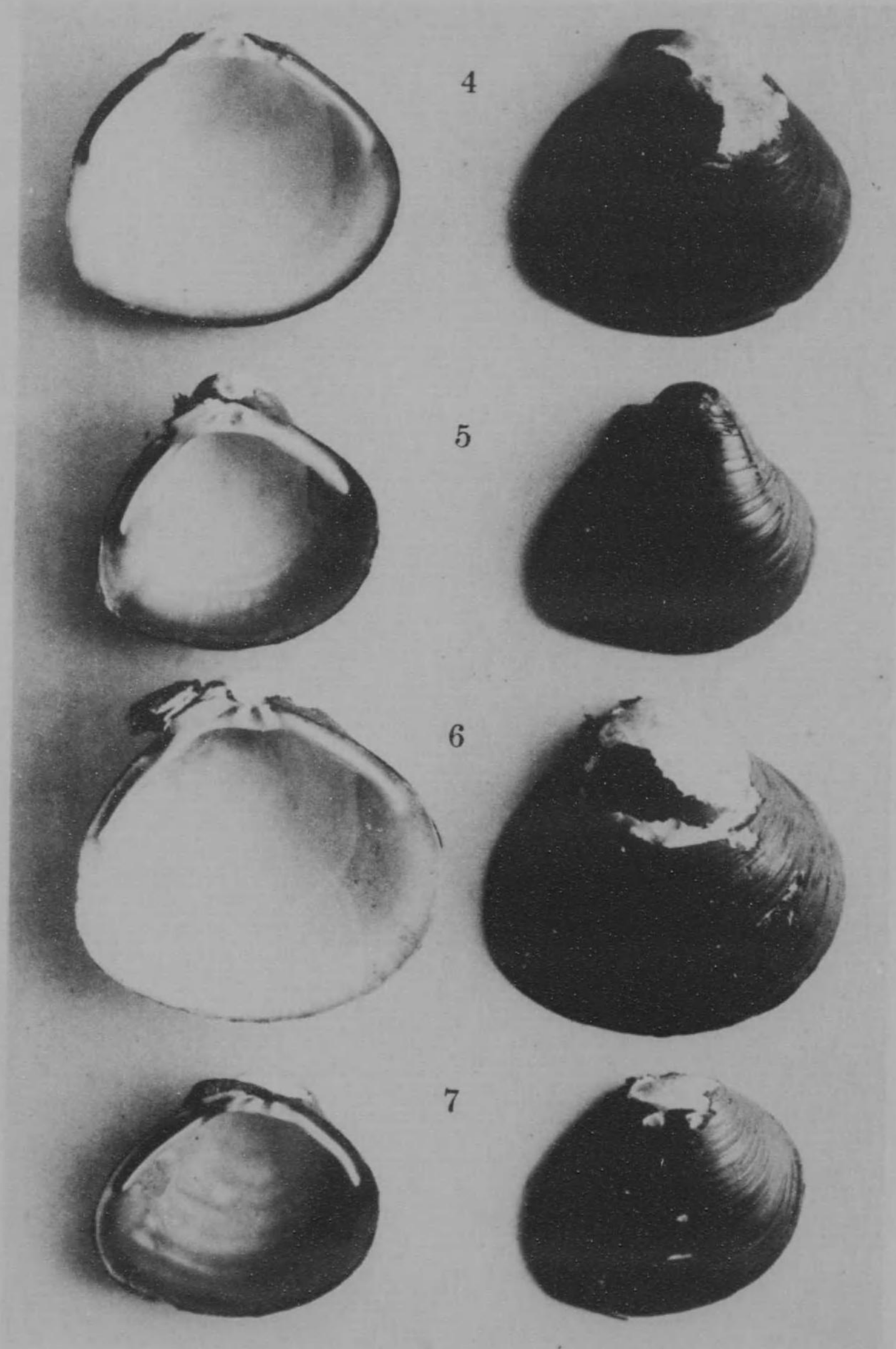
判然たる區別を附ける事は困難である。セタシバミもヤマトシバミの産地的發育を遂げ、一の異りたる型を生じたものである。ムラサキシバミは其變種である。

三、マシバミの産地的に發育したものがオグラシバミである。アハヂシバミはマシバミの産地的型の退化により變形したものに外ならぬのである、カネツケシバミもマシバミとは近き關係がある様である。

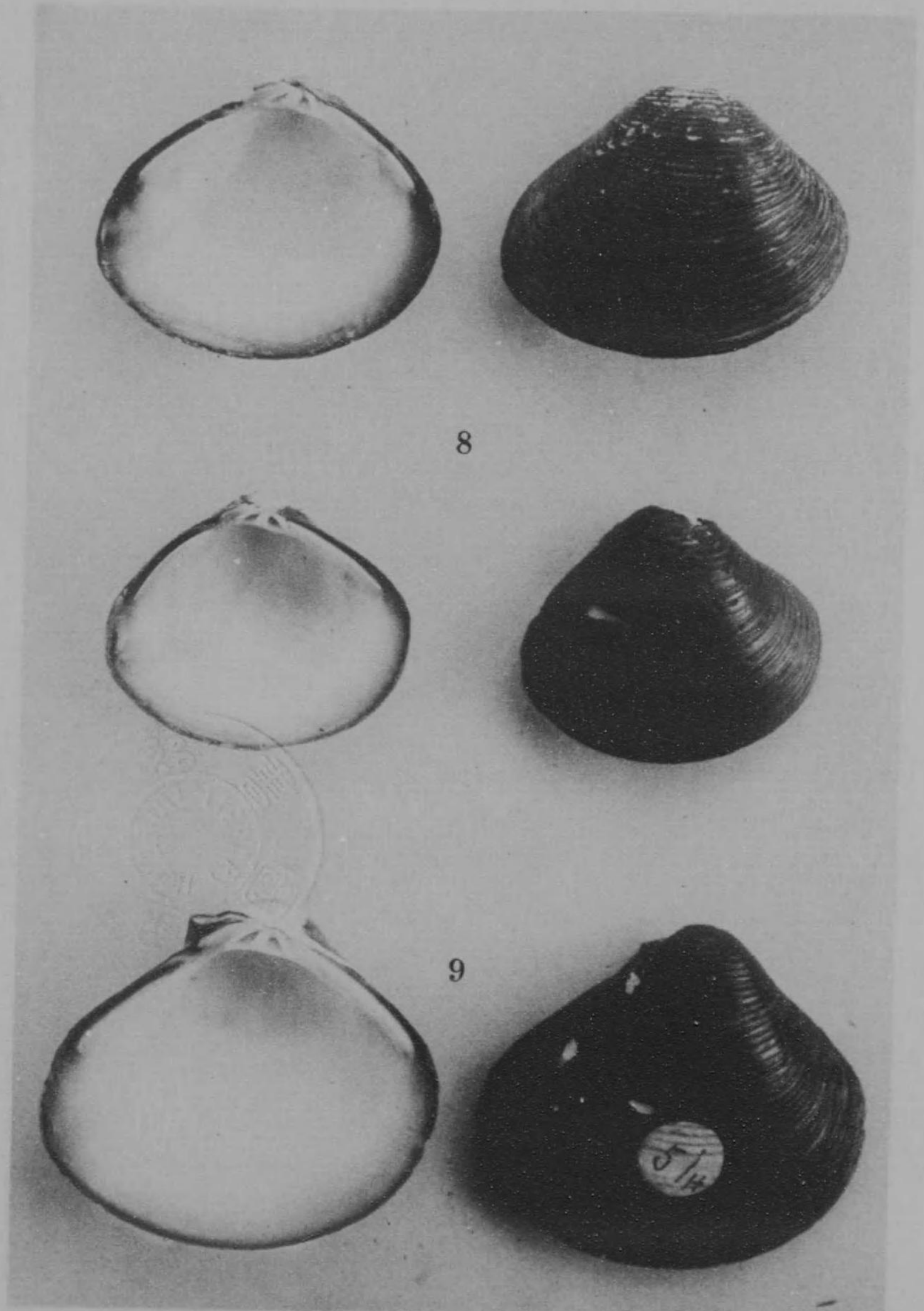
四、オホシバミは全く異りたる特長を有し、一見蜆で無い様にも見わけるが、兩側齒に鑿目の彫刻を有するから、蜆屬に入るべきものであるが、亞屬を設定すべきものであると思ふ。

参考 蜆の採集地

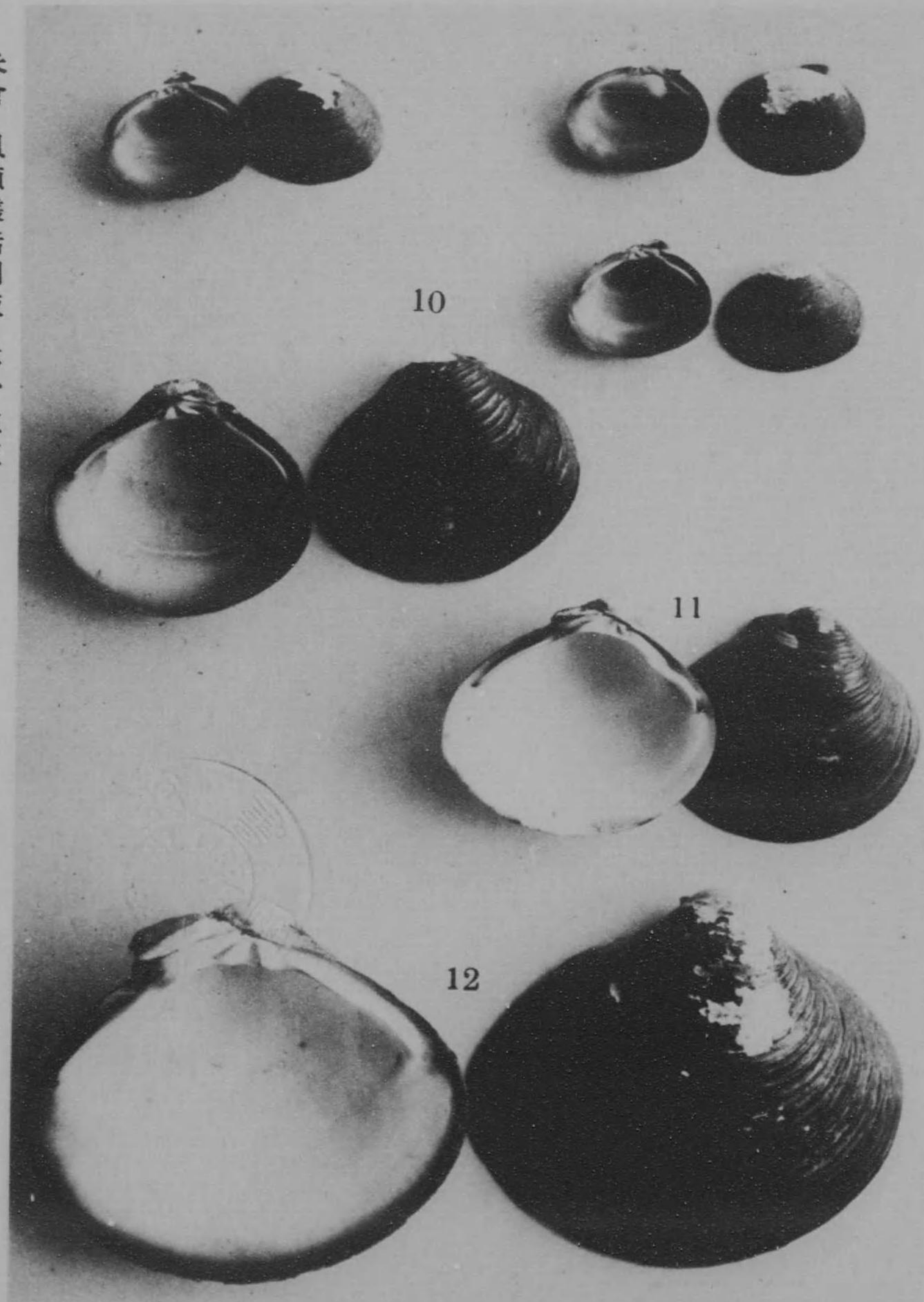
A、ニホンシバミ	陸前(小友)	阿波(徳島)
變型	越後(直江津)	羽前(酒田)
	伊豫(今治)	但馬(圓山川)
		肥前(長崎)
サドシバミ	佐渡(國府川)	
		武藏(中川)
		相模(逗子)
		日向(宮崎)



- 4. *Corbicula japonica* Prime.
- 5. " *sandai* Reinh.
- 6. " *japonica* Prime. var. ?
- 7. " *sandai viola* Pils.



8. *Corbicula leana* Prime.  
 9. " " *orthodonta* Pils. 東京産



10. *Corbicula awajiensis* Pils.  
11. " *protracta* Marts.  
12. " *fuluminea* Müll.





*Corbicula maxima* Prime.

- ヒメニホンシヅミ  
 加賀(河北湯) 能登(七尾) 越中(東水橋) 遠江(中泉)
- 變型  
 三河(前芝) 磐城(中村) 攝津(尼崎)
- チクゴシヅミ  
 筑後(筑後川) 備中(足守川) 肥前(浦上)
- B、ヤマトシヅミ  
 志摩( ) 伊勢( ) 伊豫(今治) 阿波(徳島)
- 變型  
 遠江(中泉) 肥前(佐世保)
- セタシヅミ  
 近江(瀬田、膳所、松原、沖島)
- △ラサキシヅミ  
 近江(瀬田)
- サツマシヅミ  
 薩摩(川内川)
- C、マシヅミ  
 伊勢(三宅) 羽前(吹浦) 遠江(西貝) 近江(彦根) 三河(岡崎)
- 駿河( ) 攝津(尼崎) 播磨(明石) 備中(西大島) 伊豫(今治)
- 越後(阿賀川) 筑後(下廣川) 紀伊(鳴神) 但馬(香住)
- 山城(巨椋池) 河内(道明寺)
- B 型  
 オグラシヅミ  
 武藏(東京) 信濃(諏訪湖) 肥前(旭)
- アハザシヅミ  
 淡路(野田) 羽前(山形)
- D、カネツケシヅミ  
 臺灣(臺南)
- E、タイロンシヅミ  
 臺灣(臺南、臺北)
- F、オホシヅミ  
 臺灣(淡水川)

## 貝製勾玉の研究

余の大正二年五月入手した貝製勾玉は、去明治二十七年五月秋田縣羽後國河邊郡四小屋村字小阿地通稱倉地野の遺蹟地より出土したるものである。勾玉は全長一寸七厘、前後の徑六分二厘、厚三分二厘五毛、孔は稍後方に偏して穿たれ、右半面は虫喰多く左方は平滑である、質堅緻で多少汚色を呈し、尾部の右尖端と左少しく上方後部に貫通せる眞珠光澤を微かに認むる事が出来る。

余の寡聞なる未だ貝製勾玉の類品あるを知らぬ、要するに適當なる材料を得ることが困難であるからである、何貝より此厚き材料を得る事が出来るか、此眞珠光澤の存することが鑑定に最も苦心を要したのであつた。其質の堅緻なるにより巻貝であることは明らかである。而して巻貝中で厚き貝殻のものはタウカンムリ (*Cassis*

*cornuta* L.) の殻口部か、袖貝屬 (*Strombus*) 中のラクダガヒ、スイジガヒの殻口部に過ぎないのである。併し上古に於て斯かる日常生活と没交渉なる貝を利用することは逆も想像の及ばぬ處であつたと思ふ。

偶々大正七年三月、支那川南省より出土せる、貝製の玉(直徑一寸七厘、七分五厘、六分七厘)及び紡錘車(?) (直徑一寸六分七厘)を得た。玉の外面は著しく腐蝕せるも微かに光澤を存し、微細なる貝類特有の條理を有し且つ上下に螺旋を現はして居るので、疑ひもなく巻貝の殻軸部で作つたものである事が分つた。余は直覺的に夜光貝の殻軸であらうと思つた、夫は夜光貝は古く食用とし貝殻を利用することを知つて居たからである。

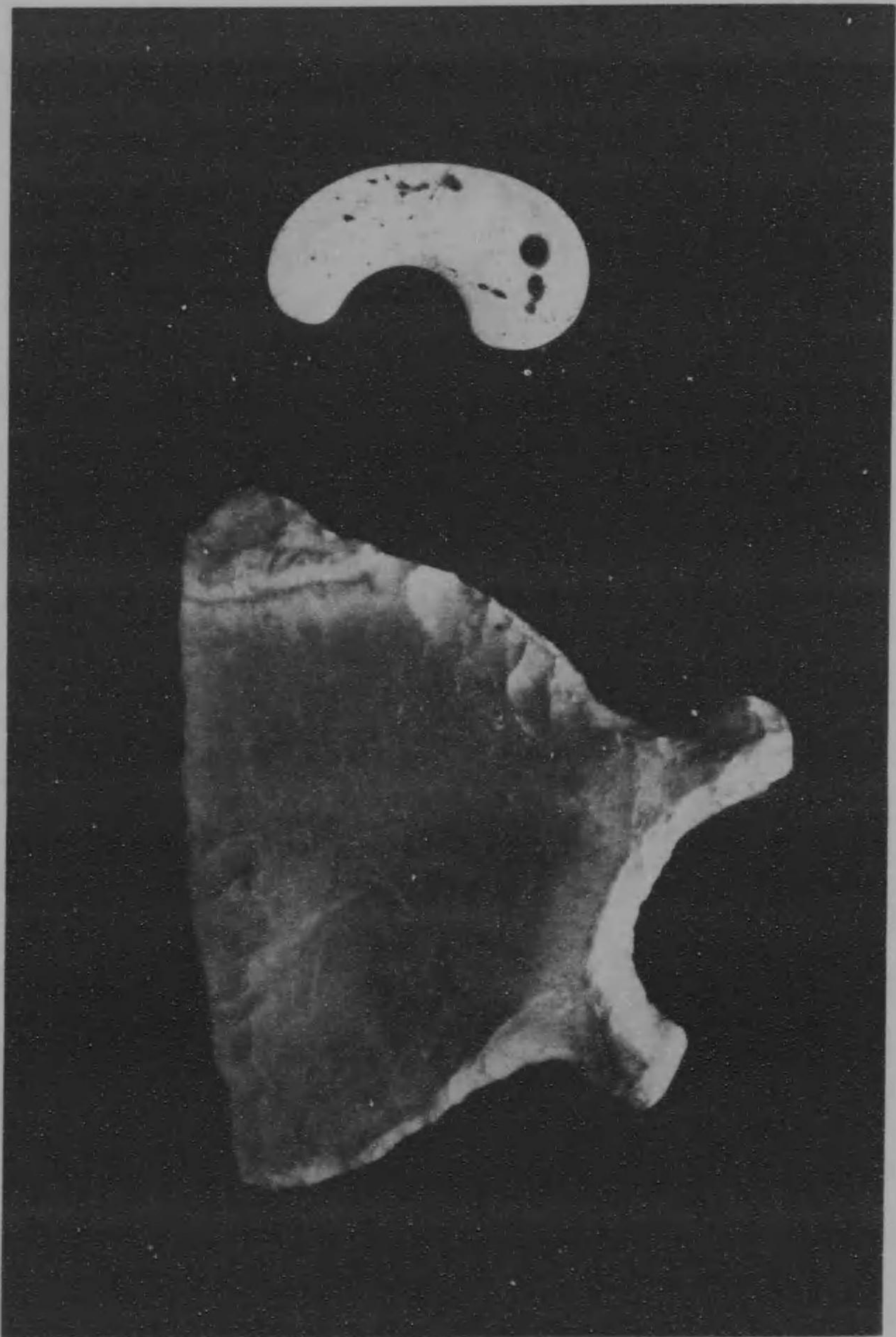
併し夜光貝の殻軸から是丈の大なるものを取る事が出来るか、又螺旋を有するかを試験する必要を感じた、即ち大なる夜光貝數個を切斷して漸く直徑一寸一分ある玉を一個得た、併し螺旋がないので甚だ落膽をした。余は更に研究を進めた結果殻

軸の上部の中心は螺旋する事を知り得た。左れば此上部の殻軸にて前述の如き大形なるを取ることは、實に稀有の大形なる夜光貝を要するものである事は推定し得るのである。尙ほ前記の紡錘車が灣曲して居るのは明かに夜光貝の螺層の灣曲部を其儘利用したものである確證を得た譯で、要するに支那發掘の玉及び紡錘車は夜光貝で作つたものである事が明瞭となつた。

前記の事實に徴して夜光貝の殻軸から大なる玉を作り得ること、夜光貝の素質なる茶褐色が久しき年代を経て乳白色に變化すること、所謂アクが抜けること等を知り得たのである。然らば此貝勾玉は矢張り夜光貝の殻軸の下部を斜に利用して作つたものであると斷定するのである、殻軸は餘程堅固であるから製作には大なる努力を要したことゝ推察する。

夜光貝の産地は琉球、臺灣及び南洋方面であるから、發見地との關係上どうしても或る地方で製作され交換的に發見地に輸入せられたものであることは勿論である。

貝製勾玉の研究



土出村屋小ツ四後羽 玉勾貝

(土出田藤新田秋後羽) (銀石)

奈良朝には夜光貝を各種の美術品に利用して居る、其技術は支那より傳習を受けたものであるから、夫れ以前——金石併用時代——偶然産地よる得たる原貝を試作したものでは無からうか、發見數の稀尠なるに徴して而か推定するのである。

(圖版第十七版)

(大正十一、八、五)

## セタシ、ミの研究

△歴史。セタシ、ミは戸田左門一西、膳所に築城後某地より移植したものと傳へられて居る、一西は三州の人、慶長六年二月膳所に封せられ、同九年七月卒去したのだから、此年間に出身地の蜆を移植したものでなからうかと察せられる。舊記に現はれたる所によれば元祿年間後に於て繁殖の成績を挙げたものと思はれる、當時は左門蜆と通稱したらしく、數々舊藩へ献上した由であるから、既に美味を以て有名であつたに違ひない。セタシ、ミの名は近來命名されたものである。今や年産額製造物を合して參萬圓を超過し、縣外へ多額輸送する有様である、以て如何に琵琶湖がセタシ、ミの發育に適應したるかゞ立證された次第である。

△發育。六七月頃産卵し、幼貝は略三角形を爲すが稍發育すれば鋭三角形を呈し、老成に至るまで表皮の色彩及び形態にも數々變化を來たすのがセタシ、ミの特有で

あつて、其時代によつて異りたる名を稱するのである。

幼貝の表皮帶黃蒼色のものはマワタガヒ。稍茶紅色を呈するはベニガヒ、表皮に綠色を加へ放射線條を有し、内殼紫色を呈するものはシマガヒ。著しく發育して帶綠褐色を呈するものはセタガヒ。更に茶褐濃色のものはベツカフガヒ。茶褐色更に濃厚なるものはヤシマガヒ。漆黒色の表皮を有するものはクロガヒと云ふ。尙ほ一種クロガヒとヤシマガヒとの中間に屬するものがある。A、

此色彩は産地即ち棲息の場所によりて多少の變化を生ずるものである、細砂の湖底にあるものは色澤共に麗はしく自然品質良好のものであるが、泥土地のものも形態發育せるも表皮暗黒色を呈し品質も劣り、標本としての價值も等差を生ずるのは止を得ない次第である。

△分布。セタシ、ミは琵琶湖の特産であつて他に其分布を見ないのは注意すべきことである、殊に膳所附近より瀬田川に至る間は理想的の産地で、品質の良好なる

と産額の豊富なるとは實にセタシヰミの名に背かざる所以である。其他分布地を列記すれば栗太郡北山田より野洲郡赤野井に至る間(貝曳網禁止區域)滋賀郡堅田及小松沖、蒲生郡沖島附近、愛知郡柳川沖、犬上郡多景島附近(品質良好なるも禁漁區域)、坂田郡長濱沖、東淺井郡尾上沖、高島郡大溝、針江、濱分、知内等である、湖底の關係上西湖岸及北方湖岸には分布は尠いのである。

△セタシヰミの型 フォーム 最も完全に發育したるものは貝殼銳三角形を爲し、殼頂著しく突出して表皮に荒き竝行したる渦脈を有し、漆黒色である、靱帶強く突出し、前端丸く後端は長く尖つて居る、蝶鉸線太く齒丘は殆んど滑かで兩側齒は急に曲折し後側齒の方は尠しく長い、外套膜痕以外は濃紫色で内部は稍薄いのが普通である。前述せし如く棲息の場所に據る多少形態の變化はあるとしても、幾多の標本に就て觀察するに、大要左記の如く三種の型があることを認むるのである。

A。殼銳三角形、殼頂能く尖り前方に傾く、前後背縁は殆んど直線に傾斜し、前

端稍丸く後端は長く突出して斜三角を呈して居る。稍幼貝は茶褐色を混じたる輪狀帶を有するも、老成したるものは黒色を呈して貝殼は薄い。

蝶鉸線は廣く齒丘は滑かである、前側齒の末端は肉柱に沿ふて尠しく灣曲し、後端は長く直線である、外套痕外は淡紫色を呈し、窩心部は白層を被つて居る。

長さ 四〇、五      高さ 三八、〇      幅 二三、五

A'。前種と同型である、只貝殼厚く表皮は漆黒色を呈し、蝶鉸線稍太きが相違して居るのみで、要するに前種の一層發育したものである。

長さ 三六、〇      高さ 三六、五      幅 二二、〇

B。前種よりは小さいが貝殼は厚い。殼頂は丸く突出して表皮は茶褐色である。前端は丸く後端は稍突出し且つ殼頂より後背縁に沿ひ走れる隆起線がある。渦脈は荒く不規律に竝行して居る。

蝶鉸線は廣く齒丘は微かに粗糙である、前側齒の末端は尠しく灣曲し、後側齒は

尠しく長く直線で且つ頑丈である。外套痕以外は濃紫色で窩心部は白層を被つて居る。

長さ 三四・五      高さ 三三、〇      幅 二二、〇

B'。前種より稍幼貝である、殻頂は殆んど中央に位し突出は前種程著しくはない、表皮は帶黄蒼色である、殻の中央は稍平かで後隆起は角張つて見ゆる。

蝶鉸線は廣く齒丘は微かに粗糙である、前側齒の末端は緩く灣曲し、後側齒は尠しく長く頑丈である、内殻は薄紫色を呈し且つ齒丘部に紫斑點を有するのが普通である。

長さ 三三、〇      高さ 三一、五      幅 一九、〇

C。前種の老成して少しく變化せしものである、殻頂は稍前方に傾き殼の中央部稍膨れ表皮は暗黒色を呈して居る、前後背縁は微かにカーブを有し後端の突出は尠い、蝶鉸線は細く齒丘は殆んど滑かに近く、前側齒細く末端は尠しく灣曲し、後側

齒は細くして緩きカーブを爲し尠しく長い、外套膜痕以外は濃紫色で窩心部は白層を被つて居る。

長さ 三三、〇      高さ 三〇、〇      幅 一九、五

C'。前種よりは稍丸味を帯び、渦脈は密に竝列し、前端は背縁より腹縁に通じて丸く、後背縁もカーブを爲し、右殼の後隆起が腹縁に終る所に至りて微角を爲して止む。

蝶鉸線は細く齒丘は微かに粗糙である、兩側齒共細く灣曲し、且つ紫色を帯びて居る、外套痕以外は暗紫色で窩心部は帶紫白色を呈して居る。

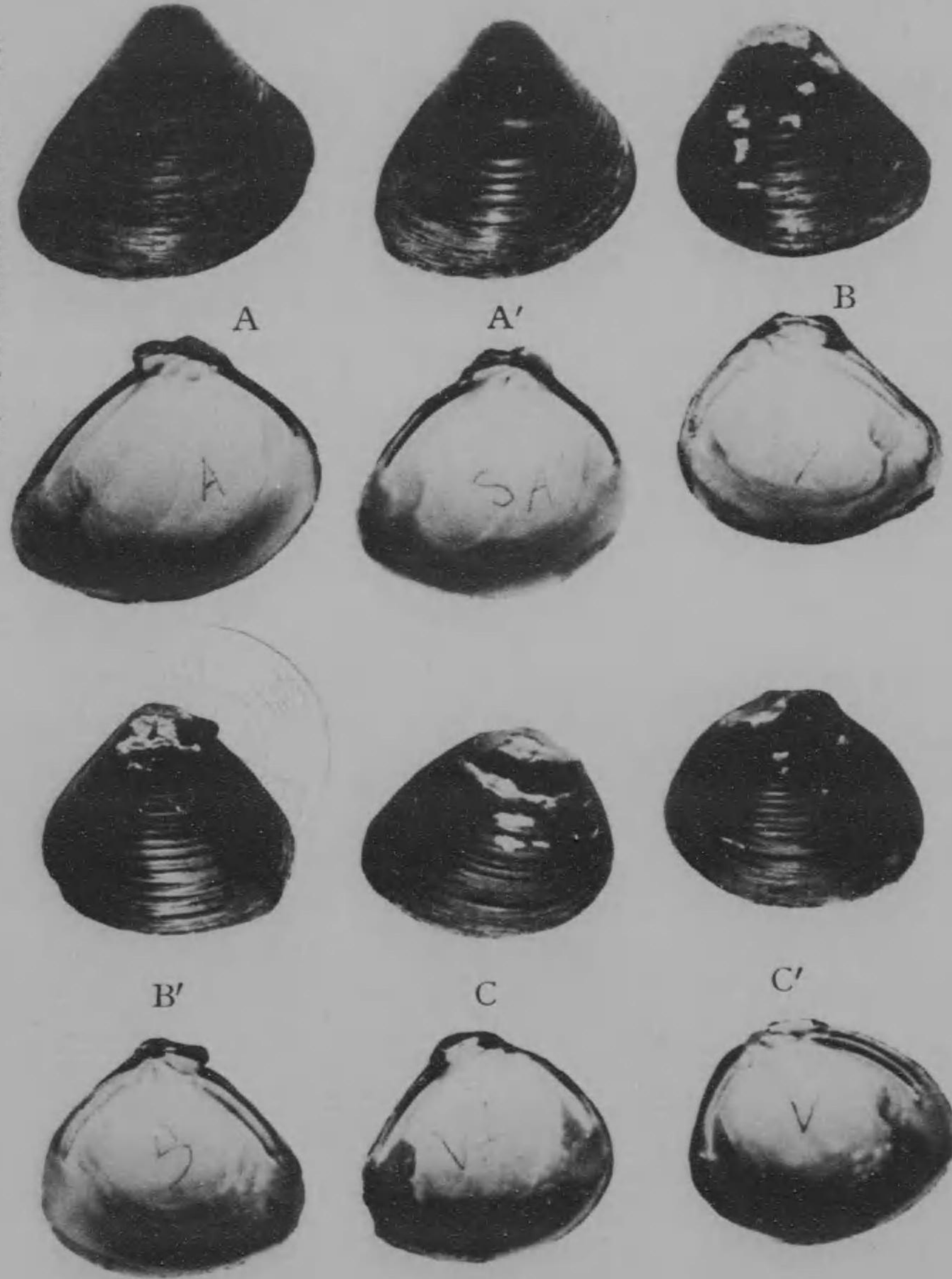
長さ 三四、〇      高さ 三〇、〇      幅 一九、〇

註 本種の幼貝は所謂ヒルスプリー氏の *C. Viola Pils.* ムラサキシヤミである。

### △型の比較

セタシヤミの大部分はB型である、而して老成したる漆黒色のもの



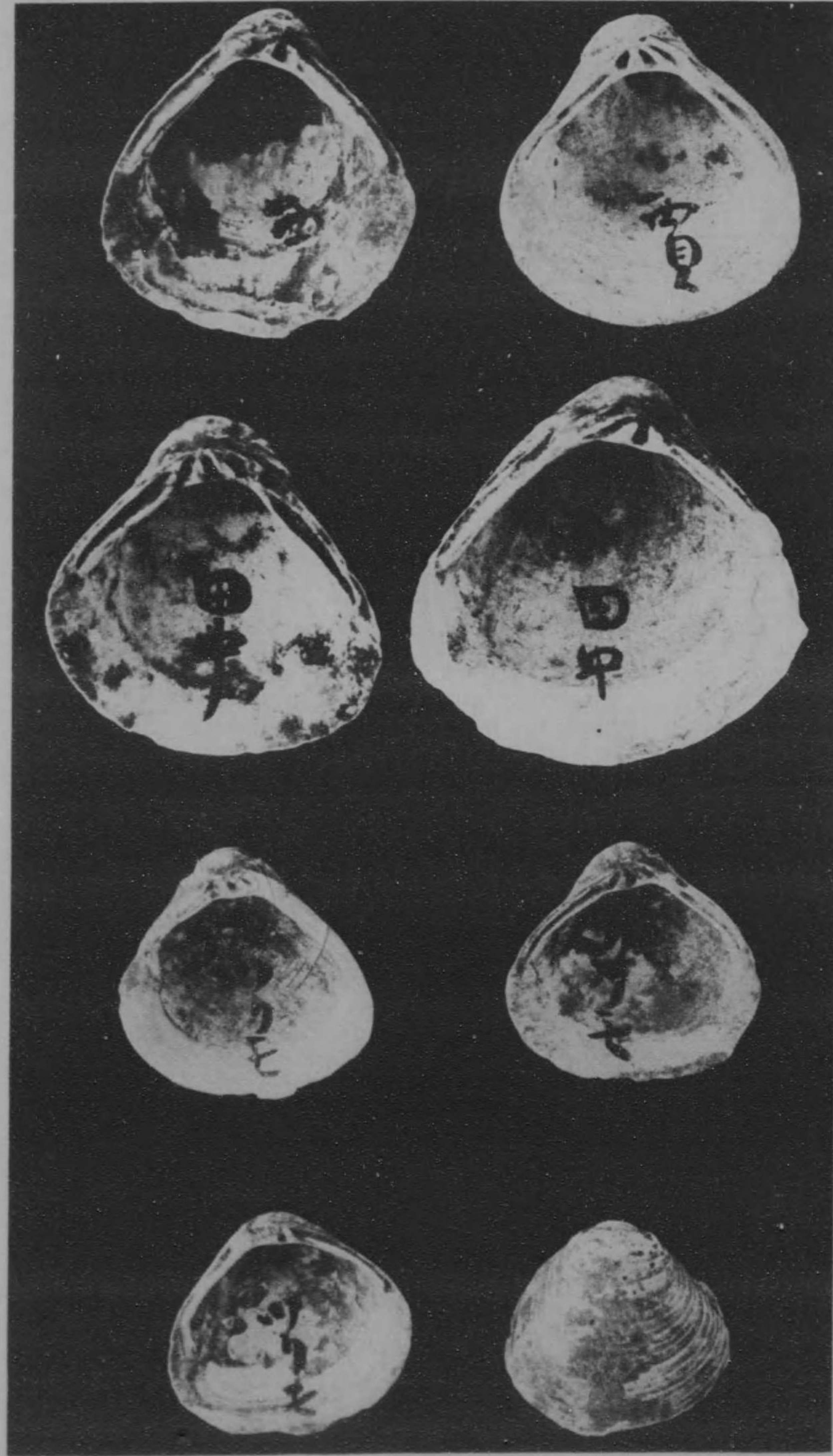


セタシマミの研究 (一)

型のミマシタセ

の尠いのは、漁獲が頻繁に行はれる爲め老成するを待たぬ故である、併し此頻繁なる漁獲は却て貝類の繁殖を輔けセタシマミ今日の隆盛を來たし、著しき増殖を遂げたものであると考へられる。A型は河水の疏通宜敷所に棲息するものと察せらる、C'型と共に尠しく混交して居る、此AとC'とを對照すれば全く別種の様に感じ、AとB若くはBとCとを比較するに變種と認むべき差は充分ある様に思はれるのである。併し中間種なるA'、B'、C'、を加へて全體を對照する時は各種互に共通せる點を見出すべく、A乃至C'の標本は全く連續する事となる、斯はセタシマミに限らず他の貝類にも現はるゝものであるが、要するに幾多のセタシマミも此ABCの三型に歸着するのである。(圖版第十八版)

△石器時代の蜆。貝塚の散在數が甚だ多いのに蜆を包含せるものは甚だ尠い、漸く數ヶ所の貝塚が殆んど蜆を包含して居るに過ぎないのである。蜆の種はニホンシマミ及變種、ヤマトシマミ及變種に限ざられ、現今の蜆と比較して餘り大差は認め



セタシヅミの研究 (二)

貝塚の蜆

遠江中江遠  
江中江遠  
西田泉中  
貝塚雲津  
貝塚

ぬが、遠江濱名郡入野村蜆塚、同國磐田郡西貝村、同國磐田郡中泉附近田中森の三貝塚は全部蜆の包含層より成り、貝殻大きく頑丈である計りでなく、種々の型を有して居る、殊に注意を惹くものはセタシヅミのA型及びB型に最適したるものを包含して居ることである、其特長は現世種に比し貝殻の重厚且つ大きなこと、殻頂鋭く突出して居ること及び渦脈の密なることが多少相違して居るのである、又備中國淺口郡西大島の津雲貝塚のものはセタシヅミ型である。前記の各種は一見セタシヅミであると思はるゝのであるが、能く考査を爲し研究し得たる結果、前種はヤマトシヅミの原型で、後者はヤマトシヅミの幼貝に過ぎないことが明瞭となつた。そこで此時代の蜆はニホンシヅミが普通に分布して居つたのが産地によりて種々の型を作り、ヤマトシヅミの原種を作り更に此セタシヅミ型を生む様になつた、現生種の著しく貝殻薄く小さくなつたのは、時代の變遷により漁獲の影響を受けたことも尠くないのである。(圖版第十九版)

前述の結果に基き左の如く論断し且つ其比較研究を左に記載して擲筆することゝする。

石器時代には蜆は餘り多く分布して居なかつた、其種類も尠くニホンシヅミ及びヤマトシヅミの原型二種に止まつて居た、而して相當變種を作つた、貝殻も概して頑丈であつた、現生のセタシヅミはヤマトシヅミの産地的變型により、特殊の獨立したる種を作つたものである。

△ヤマトシヅミとの比較

琵琶湖松原沖(細砂底)より得たる幼貝

	長さ	高さ	幅	高さの長さに對する比
甲 一	八、〇〇	七、〇〇	五、五〇	一一、四〇
二	一二、二五	一二、〇〇	九、〇〇	一〇、二〇
三	一五、〇〇	一五、〇〇	一〇、二五	一〇、〇〇
四	二一、五〇	二一、〇〇	一三、五〇	九、七六
乙 一	九、〇〇	九、〇〇	七、〇〇	一〇、〇〇

同上の生長したる貝	長さ	高さ	幅	高さの長さに對する比
二	一〇、〇〇	九、五〇	七、二五	一〇、五〇

同上(泥土底)より得たる幼貝				
A	二五、〇〇	二四、〇〇	一六、〇〇	一〇、四〇
B	二七、五〇	二四、〇〇	一五、〇〇	一一、四〇

同上沖島(泥土底)より得たる幼貝				
一	一三、〇〇	一二、〇〇	九、五〇	一〇、八〇
二	一五、〇〇	一六、〇〇	一一、〇〇	九、三〇
三	一八、〇〇	一八、五〇	一三、〇〇	九、七〇
A	二六、五〇	二七、〇〇	一八、五〇	九、八〇

同上瀬田川産成長のもの				
一	一〇、二五	一〇、二五	八、五〇	一〇、〇〇
二	一二、〇〇	一二、〇〇	九、〇〇	一〇、〇〇
三	一五、五〇	一六、〇〇	一二、〇〇	九、三〇
四	一六、〇〇	一五、五〇	一一、二五	一〇、三〇
A	三一、五〇	三二、〇〇	二一、〇〇	九、八〇

A	二八、五〇	二九、〇〇	一九、五〇	九、六〇
B	三一、〇〇	二九、五〇	一八、二五	一〇、五〇

琵琶湖瀬田川産ムラサキシヅミ(小型)

一	二七、〇〇	二三、〇〇	一六、〇〇	一一、七〇
二	二六、五〇	二四、〇〇	一六、〇〇	一一、〇〇

同上疏水一乗寺村産(幼貝)

一	二六、〇〇	二三、〇〇	一五、五〇	一一、七〇
二	二三、〇〇	二一、〇〇	一三、五〇	一〇、九〇

ヤマトシヅミの幼貝

一	一六、〇〇	一五、五〇	一一、〇〇	一〇、三〇	河波?
二	一九、〇〇	一七、五〇	一二、二五	一〇、八〇	同
三	三一、五〇	三〇、〇〇	二〇、五〇	一〇、五〇	伊勢
四	三七、〇〇	三六、〇〇	二三、〇〇	一〇、三〇	伊豫

セタシヅミ幼貝の發育に二種の行程がある。甲は淡綠色を呈するもので、稍生長して放射條を現はすも、乙は帶黃綠色のものである。又前記松原沖産の標本を検す

るに矢張A、Bの二型を有しB型はC型に近いものである。沖島沖産のものに於てはA型に發育すべきものであつた、近年疏水線路にセタシヅミを産する様になつた。貝殻は薄く延び所謂ムラサキシヅミ(C型)に屬すべきものである。要するに産地によつて斯の如く型を變ずる様になりヤマトシヅミの幼貝及生長したる貝殻と比較して其間著しき測定の等差を認めぬのであるから、余はセタシヅミはヤマトシヅミの移殖により相當久しき年代の間に於て、漁獲の頻繁なる作業によりて自然に型を變化したるものであると斷定するものである。

(大正十一、八、一五)

圖版及特種の貝類解説

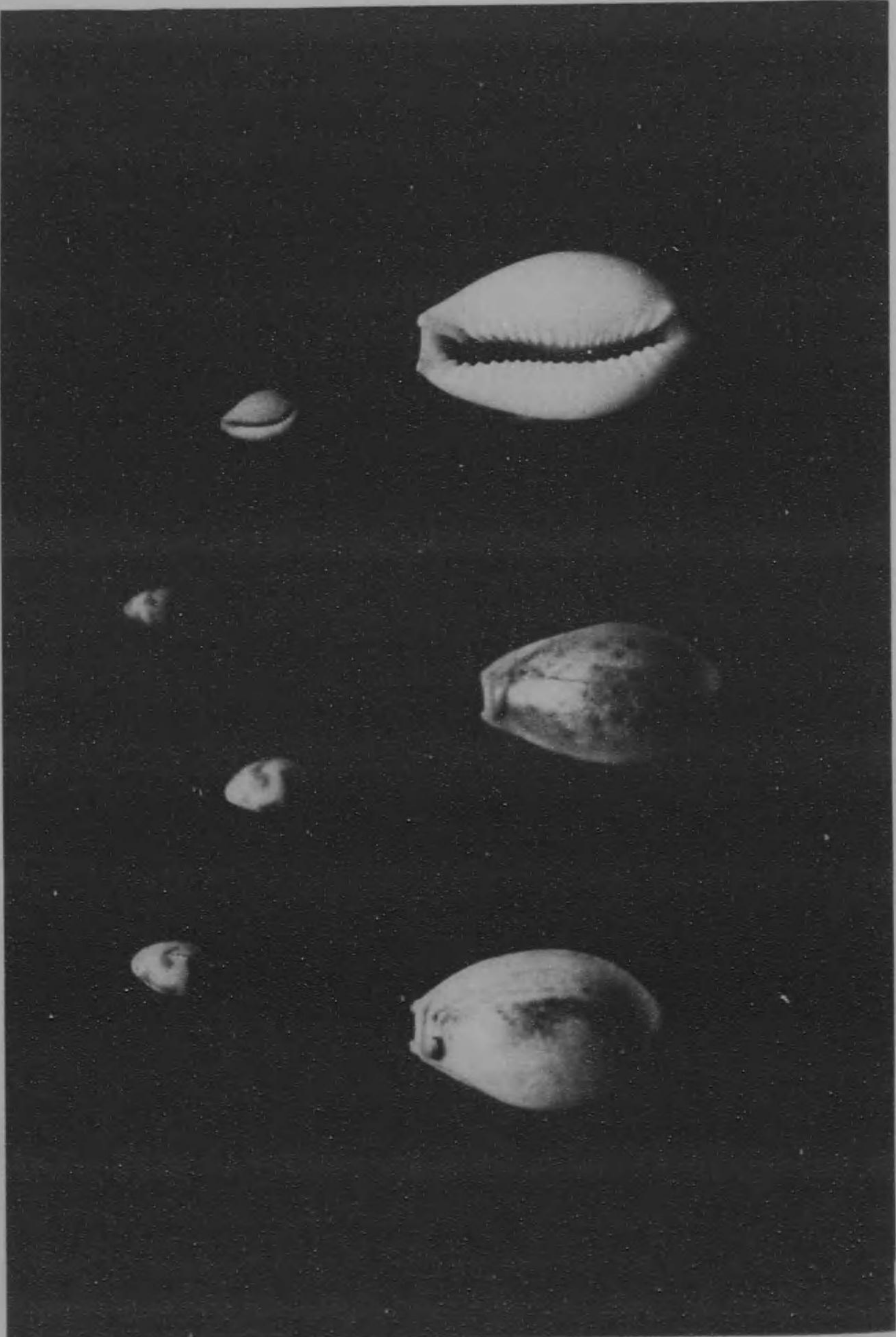
*Cypraea (Erosaria) gangraenosa* Dillw. ハナカスミタカラ(矢倉)

殻長橢圓形、内外内唇には乳白色で磁器の如き光澤がある、外唇の後溝部突出し殻口に沿ふて隆起を形成して居る、殻頂は凹み暗褐色の汚點を印し背面(體層に當る)を前溝に走れる線がある、又背面は帶黃褐色で、微細なる小白點紋を撒布し、且つ莖色に中心暗紫色の魚眼狀の斑紋が有る、老成した貝は滑層を被り、斑紋は朦朧として幽に透見し得るのみ、美しく且つ愛らしき貝である。(圖版第二十版A)

高さ 三〇、〇 幅 一九、〇

産地 安房

□本種と最も近似のものはコモンガロ(*C. grossa* L.)の幼貝である、後者には魚狀の斑紋なく、兩唇の



A. *Cypraea gangraenosa* Dillw. (倉矢) ちかたみすかなは  
B. *Cypraea (Cyprædia) adamsoni* Sowb. (倉矢) ちかたぶつぎむ

齒荒く、帯鼠色の雲紋を有するのこ、兩唇の後部に著しき隆起がある等が主な相違である。

*Cypraea (Cyprædia) adamsoni* Sowb. ムギツブメカラ(矢倉)

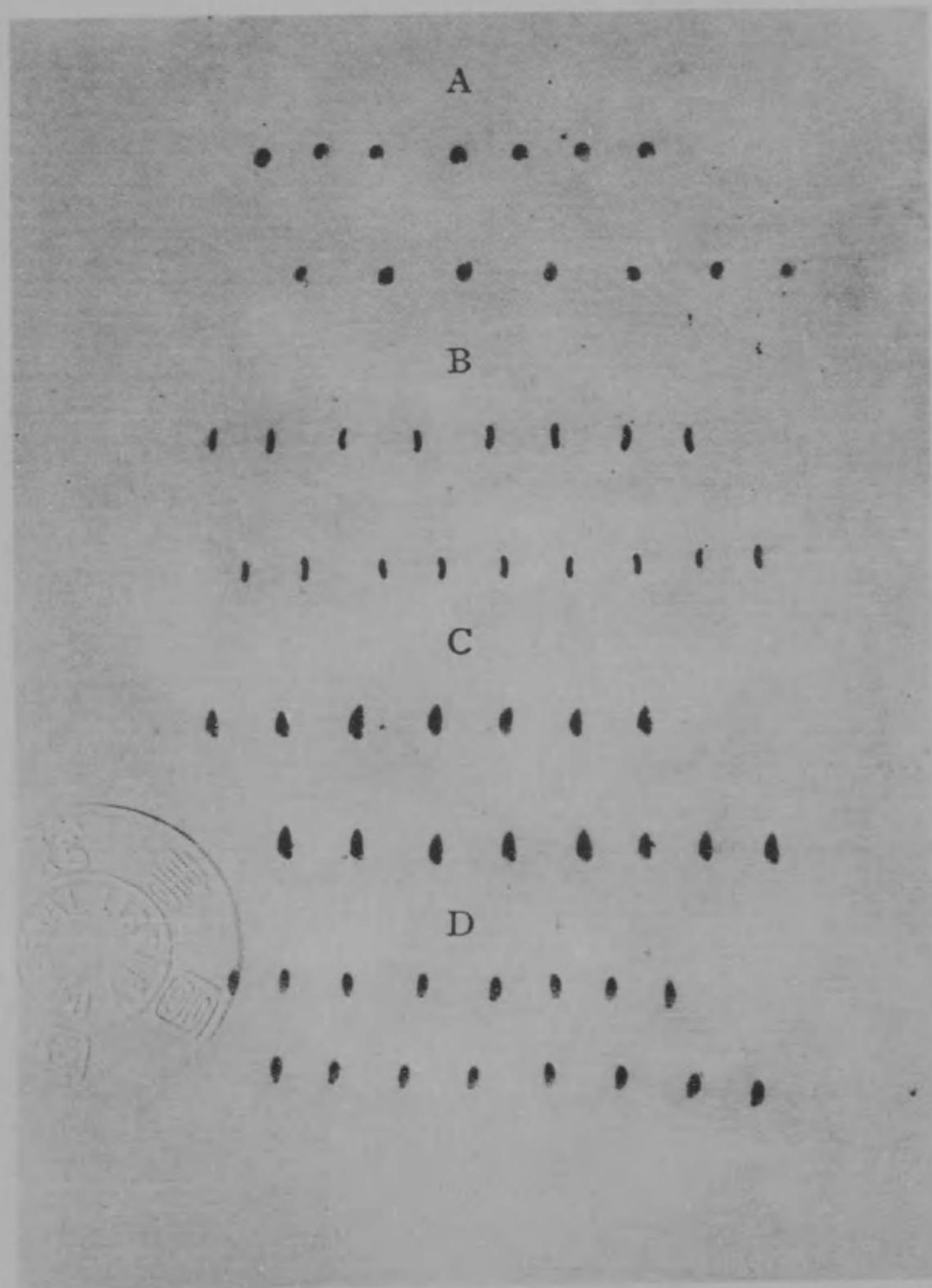
殻小形、Trivia. 状である。殻口の齒長く各二十個、螺脈四十條内外、背面には茶褐色の雲紋がある。(圖版第二十版B)

高さ 九、五〇 徑 六、二五

産地 紀伊

*Archylaea diaphanum* A. Ad. イソコハクガヒ(矢倉)

殻微小で脆弱、殆んど透明に近い、螺塔低く三卷四分三、小蝸牛状である、臍口大きく殻底に鈍角を有し殻口は丸い。動物の體は淡き乳白色を呈し、突出せる吻と、先の方が稍太くなり先端に五六の



A. *Archytea diaphanum* A. Ad.  
 (倉矢)ひかくはこそい  
 B. *Cecum* sp.  
 (瀬平)ひがゝつんぢみ  
 C. *Alvania tokyoensis* Pils.  
 (瀬平)ぼつそつりうやきうこ  
 D. *Palaina pusilla* Marts.  
 (瀬平)ひがまごひまりだひ

小刺突起を有する觸角と、其基部に眼がある、足は幅廣く前後の兩端は矢筈形となつて居る、其後端の中央には觸角と同様の一本の觸手がある、匍匐することは活潑である、海濱小岩石の下に附着して居る。

(圖版第二十一版A)

高さ 〇、六〇 直徑 〇、八六

産地 淡路福良

*Cecum* sp.

ミジンツ、ガヒ(平瀬)

殻微小、殻頂少しく細き稍灣曲した圓管狀である、幼貝の時は殻頂尖つて旋回して居るが、成長に伴ひ尖端折れて圓管狀となるのである、即ち(*Cecum*)の名のある所以である、貝殻は薄く茶褐色で殻口には唇を持つて居る。

圖原作者 大倍六十四





動物の體は薄き乳白色を呈し、觸角の形は略ぼ前種と同じである、吻は扁平で足は細長い、時々水面下を匍匐することがある。(圖版第二十一版B)

高さ 二、〇 徑 〇、五

產地 淡路福良、但馬竹野

*Rissoina tokyoensis* Pils. トウキヤウリツソツボ(平瀬)

殻微小紡錘狀、螺塔高く、螺層膨れ、茶褐色を呈し、縦助と螺脈と交叉して籠目状を爲して居る、殻口は缺圓形で外唇は反曲し白色である。(圖版第二十一版C)

高さ 三、〇 徑 一、二五

產地 但馬竹野、武藏東京灣

*Palaina pusilla* Marts. ヒダリマキゴマガヒ(平瀬)

殻微小且つ脆弱、俵形の荒き左巻である、帯黄白色で、螺層には細き縦助がある、殻口は丸く滑かで口内に齒がある。(圖版第二十一版D)

高さ 二、〇 幅 一、〇

産地 淡路福良

*Tornus planus* A. Ad.      イソマイマイ(平瀬)

殻乳白色、螺塔低く殆んど扁平に近く四巻、螺脈十二三條を繞らし、縫合に沿ひたる螺脈は太く、周縁には鈍角を有して居る、殻口は斜に下方に向ひ橢圓形である。磨滅したる標本漸く一個を得たのみである。(圖版第二十二版A)

高さ 九、〇 径 三、七五

産地 紀伊



*Tornus planus* A. Ad.      (瀬平)いまいまそい  
*Atlanta peroni* Lesueur.      (倉矢)ひがきうれきちく  
*Crescis acicula* Rang.      (瀬平)ひかのつきう

*Atlanta peroni* Lesueur.

クチキレウキガヒ(矢倉)

殻薄く脆弱、透明且つ扁平である、螺層水平に荒く渦巻状を爲し、終螺層に至り俄に郭大して殻口に終つて居る、周縁には鋭き龍骨を有し且つ薄刃状の突起物を繞らし、殻口に近き部分は缺如し深き切れ込みがある。

本種は大洋の暖海産である、初めて不完全なる標本一個を採集した。

(圖版第二十二版B)

高さ 一、〇 長径 八、〇 短径 六、〇

産地 紀伊田邊沖

*Oreseis acicula* Rang.

ウキツノガヒ(平瀬)

殻薄く前種と同様、圓筒状で殆んど直線である。死殻漸く數個を採集したるのみである。(圖版第二十二版C)

口徑 〇、七五 全長 九、〇

産地 但馬竹野濱

*Zafra subovirena* Smith. ノミニナモドキ(矢倉)

殻微小、紡錘形七卷半、胎殻より二卷半は滑かであるが、他の螺層には荒き縦助がある、體層には十五を有し殻口に近き部分の數條は消滅して滑かである、殻口は狹長で全殻長の五分二に當り、水管口は反曲して居る、全體帯黄色であるが縫合に近く暗褐色の帯を有し、體層では中央に位置し、後溝の下部以下は一帯に暗褐色を彩ざり、綑帯には數條の彫刻を有して居る。

動物の水管は長く殻長の五分二にあつて、白色に黒の斑紋を有し、短かき圓筒狀の觸角の基部に眼がある、足は細く殻長の三分二に伸張し、匍匐は速かである、粘液を分泌して側壁に垂下し或は水面下を匍匐し、時としては水面下より垂下して俄

に沈降することがある。

高さ 五、二五 直徑 一、七五

産地 淡路福良、播磨舞子、但馬竹野

□ノミニナ (*Z. pumila* Dkr.) と異なる點は後者に在りては殻厚く、螺層膨れ茶褐色で幾分か螺塔低きこと縦助密、十七を數ふる等の相違がある。斑紋の有無により直に識別することが出来る。

高さ 五、〇 徑 二、〇

産地 淡路福良

*Plamrbis (gyranlus) bivaensis* Preston. ビンコヒラマキガヒ(矢倉)

ヒラマキミヅマイマイより大きく、螺層旋回数三、殻口に近づき擴大し、殻口は少しく斜に下方に向ひ、臍口の大きいのが著しい特長である。

高さ 四、〇 長徑 一一、〇 短徑 九、〇

産地 近江琵琶湖

日本の瓣鳃類

LAMELLIBRANCHIA. (=PELECYPODA.

瓣鳃類又斧足類、單に雙殼類又二枚貝とも稱す、斧狀の足を以て匍匐し、雙殼を以て體を保護するが故に名づく。

瓣鳃類は左右相稱の貝殻を有し、貝殻は靱帶により結合せられて體を保護す、間々左右不同なるもの、靱帶を有せず皮膚により結合せらるゝものもあり。

動物は齒舌を有せず、觸唇(Labial palpi)と稱する突起物を有する口ありて微細なる食物を攝取す、足は斧狀を爲し匍匐の用を爲す、著しく退化したるもの又は足絲を出して他物に附着するものもあり、或ものは固着生活を爲して全く匍匐せざるもの

もあり。

鳃は内臓の兩側を掩ひ、外套膜は其外側を掩ひ體を保護する外、貝殻を分泌し美麗なる色彩、斑紋を有するものを生ず、後端は水管を形成し、長さあり短きあり、或は缺如す、又前後兩端に近く肉柱を有し貝殻の開閉を司る、單一なるもあり。鳃の構造により下の四大目に區分す。

- |            |          |
|------------|----------|
| 1. 原 鳃 目   | 2. 絲 鳃 目 |
| 3. 正 瓣 鳃 目 | 4. 隔 鳃 目 |

1. ORD. PROTOBRANCHIA. 原 鳃 目

左右相稱の殻を有し、鳃は凡そ直角に傾斜せる二列を有し、雌雄異體なり。

Solenomyidae. キヌタレガヒ科

Solenomya. キヌタレガヒ屬

殻長く、外套膜は後腹癒合す、主齒なく表皮厚し、觸唇癒合せり。(キヌタレガヒ)

Nucula.

キラ、ガヒ屬

殻の前端丸く後方は切らる、殻頂著しく後方に傾偏し、黒き皮膚を掩ひ中央より前後斜に放射せる彫刻を有し、内靱、其左右に鋭き櫛齒狀の齒列を有し、殻内は美麗なる眞珠光澤を有す、觸唇接せず外套の後方水管を作る、心臟は直腸の背後に位す、深海産なり。(キラ、ガヒ、オホキラ、ガヒ)

Nuculanidae.

ゼンロクツデガヒ科

Nuculana. (=Leda)

ゼンロクツデガヒ屬

殻の前端丸く、後方は突出し渦脈を有す、内靱櫛齒狀の鋭齒あり、觸唇癒合し外套膜は水管を作る、心臟は直腸により旋回す。(ゼンロクツデガヒ)

Yoldia

ベツカフキラ、屬

殻は Nuculana. に似たり表面滑か、水管長く筒狀觸手を有す。(ベツカフキラ、)

## 2. ORD. FILIBRANCHIA. 絲 鰓 目

左右相稱若くは一部不同の貝殻を有し、鰓列は其末端上方に反曲し、纖毛を以て聯結す、足は發達し足絲を有す。

Anomiidae.

ナミワカシハ科

Anomia.

ナミワカシハ屬

殻圓形、左殻は厚く表面は歪形放射皺あり、右殻は薄く殻頂に接して橢圓形の切れ込みあり、其後方殻頂下端に靱帶を有す、内靱、石灰化する貝絲を圓孔より出し右殻を下にし他物に附着し、此貝絲の下部に二個、殻頂下の前偏に一個の肉柱を有す。(ナミワカシハ、アラナミカシハ) PL. 23, FIG. 1.

Pododesmus. (=Placunanomia.) ナミワカシハモドキ屬

前種に似て中央肉柱二個を有し或種は貝殻重厚なり。(ナミワカシハモドキ、シワ

ナミヤカシハモドキ) PL. 23, FIG. 2.

220

Placuna. (= Placenta.)

アトガヒ属

殻圓形、扁平半透明、表面に緻密なる縮緬の如き放射線あり雲母の如し、右殻頂より八字形の後方稍長き二條の強齒あり、左殻の溝と噛み合へり。左殻は表面稍膨らみを有すれども、右殻は直線にして貝殻中最も扁平なる種なり。靱帯は八字形突起に附着し、殻の中央には單肉柱あり、右殻を下にし砂地の海底に棲息す。(アトガヒ) PL. 23, FIG. 3.

Arcidae.

アカハヒ科

Arca.

殻は角張りたる横長、殻頂前方に偏す、殻頂間隔りて靱帯面廣し、強き放射隆を有す、蝶鉸は直線にして多數の細齒あり、前後に肉柱を有し觸唇は直結す足は發育せず腹線中部の窪所より足絲を出し他物に附着す。(ネヂアサリ、コベルトフネガヒ、

ワシノハ、オホタカノハ)

S. G. Barbatia.

殻丸味にて横長、纖毛を被り細き放射助を有す、殻頂前方に偏し靱帯面僅か、齒列灣曲、足絲を有す。(エガヒ、カリガネエガヒ、ベニエガヒ、ハチエガヒ)

S. G. Fossularca.

殻著しく小形、放射隆起密、纖毛を被る。(ミ、エガヒ、ヤルミ、エガヒ)

S. G. Acar.

殻小形、殻頂前方に傾き後端尖る、渦脈隆起と放射隆と交叉して籠目状を爲す、齒列灣曲、足絲を有する事同じ。(コシロガヒ)

S. G. Scapharca.

殻丸く膨れ前端は丸く後端は幾分か突出す、殻頂前方に傾き靱帯面廣からず、角張りたる放射隆起三十乃至四十内外、荒き針狀纖毛ある薄皮を被る、左右不同にし

て左殻は稍大なり。蝶鉸は直線にして多数の櫛齒状の齒列を有し、足絲を有す。  
(アカバヒ、サルボウ)

S. G. Anadara. (= Anomalocardia.)

殻は横長、左右相稱、放射助に纖毛を被り結節を有するものと然らざるとあり。

(ハヒガヒ、ハゴロモ、リウキウサルボウ)

Glycimeridae.

Glycimeris.

殻重厚正圓形に近く滑か、纖毛を被り靱帶三角形を爲し中央に位す、蝶鉸線灣曲し兩端漸次大きくなれる齒列を有す。(タキガヒ、ベンケイガヒ、ベニヅリ、トバロキガヒ、ウチハガヒ)

Parallelodontidae.

Parallelodon.

殻角張りたる横橢圓形、前端丸く後端稍突出し殻頂は前方に傾き尖れり、放射線密、蝶鉸線の前齒斜に數個、後齒は殆んど背線に並行して數個を有す。

Cucullaea.

殻角張りて深く、殻頂突出して前方に傾く、細密なる放射隆起を有し纖毛を被る、前端丸味を帯び後端は突出す、蝶鉸線著しく前方下に傾斜し、殻内面は不等邊三角状を呈す、左右端の齒列數個は蝶鉸線と並行し、中央の齒は小さく且つ不同なり、靱帶面狭く後肉柱の下端に沿ふて殻頂に向へる突起壁を具有し、周縁暗紫色を彩る、左殻の方稍大なり。(ミノメアカバヒ)

Limnopsidae.

シラスナガヒ科

Limnopsis.

シラスナガヒ屬

殻は圓く小形にして淺し、放射線と渦脈と交叉して籠目状、荒き纖毛を被り靱帶面三角形、左右端の齒列は曲折し、肉柱不同にて斜に存す。(シラスナガヒ、オホ



シラスナガヒ)

224

Mytilidae.

イガヒ科

Mytilus.

イガヒ屬

殻は長三角形にして厚けれど脆弱なり、殻頂尖りて曲る。背縁に長さ靱帯を有し漆黒の厚き表皮を被る、前肉柱は小さく殻頂部に在り後肉柱は大きく、足絲を出して他物に附着す。(イガヒ、カラスイガヒ、エゾイガヒ、クログサ)

Brachydontes.

殻は小形にて薄く脆弱なり、表皮に彫刻を有するものと滑かなるものとあり、靱帯の後部に接して數個の微齒を有す。(ホト、ギス、ヤマホト、ギス)

S.G. Hormomya.

殻は前種よりは大きく、表皮に剛毛を被る。(ケガヒ)

Septifer

クジヤクガヒ屬

殻小形、殻頂能く尖り腹縁灣曲し、表皮は放射狀彫刻を有し、殻頂の内面には薄板狀の突起物あり、足絲を有す。(クジヤクガヒ、ムラサキイソコ、ヒメイガヒ)

Modiolus.

ヒバリガヒ屬

前種より膨れ、殻頂は前極端に近く偏し(Mytilus.よりは少しく後方に在り)、前端僅に突出し後端は廣く概して圓筒狀を爲す、光澤ある表皮を被り渦脈明瞭なり、足絲を有す。(ヒバリガヒ、エゾヒバリガヒ、コゲガラス)

Adula.

殻甚だ小さく(Modiolus.)狀にして少しく灣曲し、光澤ある表皮を被る。

(マユイガヒ)

Lithophaga.

シギノハシ屬

殻は圓筒狀、殻頂前端に偏し、背縁に角を有す、渦脈著しく微細なる彫刻を有し或は滑かなるもあり、前後の肉柱は不同なり、岩石に穿孔して棲息す、ヒミズ(日見

225

ず)の名あり。(シギノハシ、クロシギノハシ、イシワリ)

Musculus. (=Modiolaria)      タマエガヒ属

殻薄く脆弱にして橢圓形、殻頂前方に偏し、前後両端には数條の放射線を有す、靱帯長く内靱、足絲を出して他物に附着す。(タマエガヒ、クロタマエガヒ)

Isognomonidae.

Isognomon. (=Perna.)

殻は扁平にして丁字形を爲し反曲す、殻頂は前端に在り、靱帯は直線なる蝶鉸上に在る十數個の溝内及び溝を横切り、表皮は茸瓦状の生長髪を有し微かに放射線を存す、殻頂下部に灣入ありて足絲を出す、其周縁に沿ふて前肉柱を有し、後肉柱は中央に在りて大なり。(シユモクラアリガヒ、アラリガヒ、シロアラリガヒ)

Vulsellidae.      ホウワウガヒ科

Vulsella.      ホウワウガヒ属

殻厚く脆弱にして歪形後方に延ぶ、殻頂尖り密接せる茸瓦状の表皮及放射隆起あり、茶褐色の條紋數條ありて不規則なる電光状を呈す、蝶鉸部は厚く溝窪ありて靱帯を藏す、背縁は開き肉柱後方に偏し足絲なく、海綿中に潜入し群集するを常とす。(ホウワウガヒ)

Pteridae.      ウグヒスガヒ科

Pteria.      ウグヒスガヒ属

殻丁字形を爲し、斜に後方に延ぶ、蝶鉸直線にして耳状突起を爲し後方は著しく長し、殻頂前端に偏し黒き表皮を被り靱帯部に沿へる長き齒状隆起線を有し、内面の眞珠層光澤美麗なり、肉柱は中央稍後方に偏し單柱なり、右殻前方には灣入あり足絲を出す、腹縁の後部は表皮層を現はし此部分は脆弱なり。(ウグヒスガヒ、フクラスバメ、モンウグヒス、ヤベ)

Pinctada. (=Meleagrina.)      アコヤガヒ属

殻厚きものと薄きものとあり、巾着形又は略圓形、蝶鉸直線耳狀突起を有す、萐瓦狀の表皮を被り、右殻前方には灣入あり足絲を出す、單肉柱は半圓形を爲し大なり、眞珠層は閃光を放ち美麗なり、周縁は帶色を常とす。(アコヤガビ、アツガビ)

Malleus.

シユモクガビ屬

殻は撞木形を呈し歪形に反曲し或は不規則に曲折す、蝶鉸直線、靱帶は其中央菱形の窪所に在り肉を藏する部分は小さく肉柱は比較的大なり、殘餘の貝殻は表皮層の延長せるものなり、足絲を有するものと然らざるとあり。(シユモクガビ、クロシユミセン、ニハトリガキ)

Amusidae.

ツキヒガビ科

Amusium.

ツキヒガビ屬

殻正圓形薄く滑かなり、前後に開き蝶番直線、耳狀突起尠し、靱帶は粒狀にして内靱(即ち軟骨)、殻の内面に放射隆起あり周縁に著し、右殻は帶黃白色、左殻は薄

老茶色にして左右色彩を異にす、肉柱は圓形中央に在り大なり。(ツキヒガビ、タカサゴツキヒガビ)

Spondyliidae.

シヤウジヤウガビ科

Plicatula.

殻小形、巾着形にて荒き鬚狀の放射隆起上に刺を有し右殻を下にし他物に固着す、殻頂尖り軟骨は蝶鉸の中央突起部の窪所に在り、左右兩殻に在る各二個の強齒と特殊の構造により噛み合へり。(ネズミノラ、ムグラノラ、ナガイシガキモドキ)

Spodylus.

シヤウジヤウガビ屬

殻歪圓形、右殻は深く他物に固着し、左殻淺く放射隆起上に刺針を有し、周縁には鈍齒あり、靱帶蝶鉸の構造 Plicatula に同じ、大小十數種あり。(シヤウジヤウガビ、ウミキク、チリボタン、ヌンガビ) Pl. 23, FIG. 4.

Pecten.

イタヤガビ屬

殻丸く蝶番直線、耳状突起を有し軟骨は其中央に在り顆粒状をなす(内鞘)、右殻は深く十數條の角張りたる放射隆起あり、左殻は扁平にして寧ろ内方に窪み右殻と噛み合ふべき放射隆起を有す。外套膜線には多數の總狀觸手と三十有餘個の眼を有し、中央稍後方に偏し大肉柱を有し、觸唇は小なり、常に右殻を下にし海中を飛躍す、眼の多きも是れが爲なり。(イタヤガヒ、ハナイタヤ)

Chlamys.

ヒアラノギ屬

殻は長圓或は巾着形のもの多し、蝶鉸直線、中央に軟骨を藏す、耳状突起は前方突出し後方は垂直に切らる、二十條内外の放射隆起上には生長線と交叉し其末端は刺針狀の反曲を爲す、色彩美麗なるもの多し、右殻前方耳状突起の下部に灣入あり數個の齒を有し、周縁部は隆起の端溝互に噛み合へり、海中を飛躍し静止する時は足絲を出して附着す。

放射隆起上に刺を有せず、縦に細線あるもの又は隆起滑かなるものあり。

(ヒアラノギ、ナデシコガヒ、チヒロガヒ、キンチャクガヒ)

Patinopecten.

ホタテガヒ屬

殻厚く大形にて殆んど圓形なり、右殻は稍深く帯黄白色、左殻は淺く海老茶色なり、各十數條の放射隆起を有し、右殻の方稍大なり、肉柱は大きく耳状突起は小さし、常に右殻を下にし海中を飛躍す。(ホタテガヒ)

Cyclopecten.

殻薄く小形、丸く白色にして表皮に微細なる密刺を有し深海産なり。(ハリナデシコガヒ)

Pedum.

ウミギクモドキ屬

殻小形歪形なり、右殻は大きく前後端は左方に反曲し、左殻は扁平にして小なり細密なる放射線あり、右殻蝶鉸部は發育し中央に深溝を刻して韌帶を有す、前端の上部には深き切れ込みありて足絲を出す。(ウミギクモドキ)

## 3. ORD. EULAMELLIBRANCHIA. 正瓣鰓目

外套膜は一ニ箇所結合し多くは二個の開閉筋を有す、鰓は外套の内側に各二列あり縦横の脈管により結合せられ格子状を爲す、上部は腔を爲す、瓣鰓類の大部分を含む。

## Limidae. ミノガビ科

## Lima. ミノガビ屬

殻は斜卵形、前方は丸く突出し後端は斜に切らる、荒く又は密なる放射隆起あり、滑かなるもあり、前後に開く、殻頂突出し蝶鉸直線、中央窪み軟骨を藏す齒なし、内外共白色又は茶の表皮を被るもあり。外套膜線には無数の長き總狀の觸手を有し足は管狀にして延長す、多く右殻を下にし雙殻を開閉して前進運動を爲す。(ミノガビ、ユキミノ、ハネガビ、オホハネガビ) PL. 23, FIG. 5.

## Ostracidae. カキ科

## Ostraea. カキ屬

殻歪形に發育するもの多し、周縁鋸齒狀に噛み合へり、左殻により他物に固着し右殻よりは深し、茸瓦狀の表皮を有し放射斑紋を有するもの多し内靱なり、肉柱後方に偏し稍大なり、足は退化し足絲を有せず、心臓は直腸の腹面に在り、雌雄異體なるものは海中にて受精し纖毛を生じ一定の期間游泳して他物に固着す、雌雄同體のものは母體內にて受精し排出せられて他物に固着す。(イタボカキ、トサカ、キ、マカキ、ケガキ、ベツカフガキ)

## Pinnidae. タヒラギ科

## Pinna. ハボウキガビ屬

長大なる楔狀を爲し殻は脆弱なり、殻頂尖り放射隆起荒く末端は消失す、表皮殆んど滑かにして荒き渦脈を有す、殻頂より縦に破れ目を呈し背縁は少しく反曲して

長き靱帯にて結合せらる、常に殻頂を下にし貝殻の三分二は泥砂中に没入し、足絲を出して周囲の泥砂に附着す、中央には大なる肉柱あり。(ハボウキガビ、スエヒロガビ、クロタヒラギ)

Atrina.

タヒラギ屬

前種よりも概して大形なり、放射隆起上には反曲せる刺針を有すると、殻頂下の破れ目なきを異れりぞす。(タヒラギ、リシケタヒラギ)

Astartidae.

Astarte.

殻厚く類三角形栗實の如し、前後丘著しく外靱なり、荒き渦脈、茶層を被り、齒丘廣く蝶紋線頭丈なり、左右二個の主齒を有し右殻の中央齒は特に大きく側齒は微小なり。(エゾシラオガビ) PL 23, FIG. 6.

Crassatellitidae.

モシホガビ科

Crassatellites.

モシホガビ屬

前種に似て殻頂突出し前後丘明瞭、荒き渦脈を有し殻厚く後端に向ふ鈍角隆あり、後腹線は尖る、主齒長く八字形を爲して前方に偏し、側齒は殻頂より直線に後方に傾斜し。内靱主齒の直後に在り、腹線細鋸狀、兩肉柱前方のもの長く其上部に足部筋を有す灣入なし。(モシホガビ) PL. 23, FIG. 7.

Cardidae.

トヤヤガビ科

Cardita.

トヤヤガビ屬

殻歪形長橢圓にして深し、殻頂前端に偏し荒き隆起上の渦脈は瘤狀を爲す、前丘を有し外靱長し、主齒各一個、側齒長し、腹線灣曲して足絲を出す後肉柱大なり。(トヤヤガビ)

Venericardia.

殻厚く圓形又は橢圓形、荒き放射隆起あり纖毛ある外表皮を被る、右殻の主齒太

く後方に傾斜し左殻のは細し、側歯なく外靱、兩柱大きく灣入なし。(ファミガヒ、外  
數種)

Pleurophoridae.

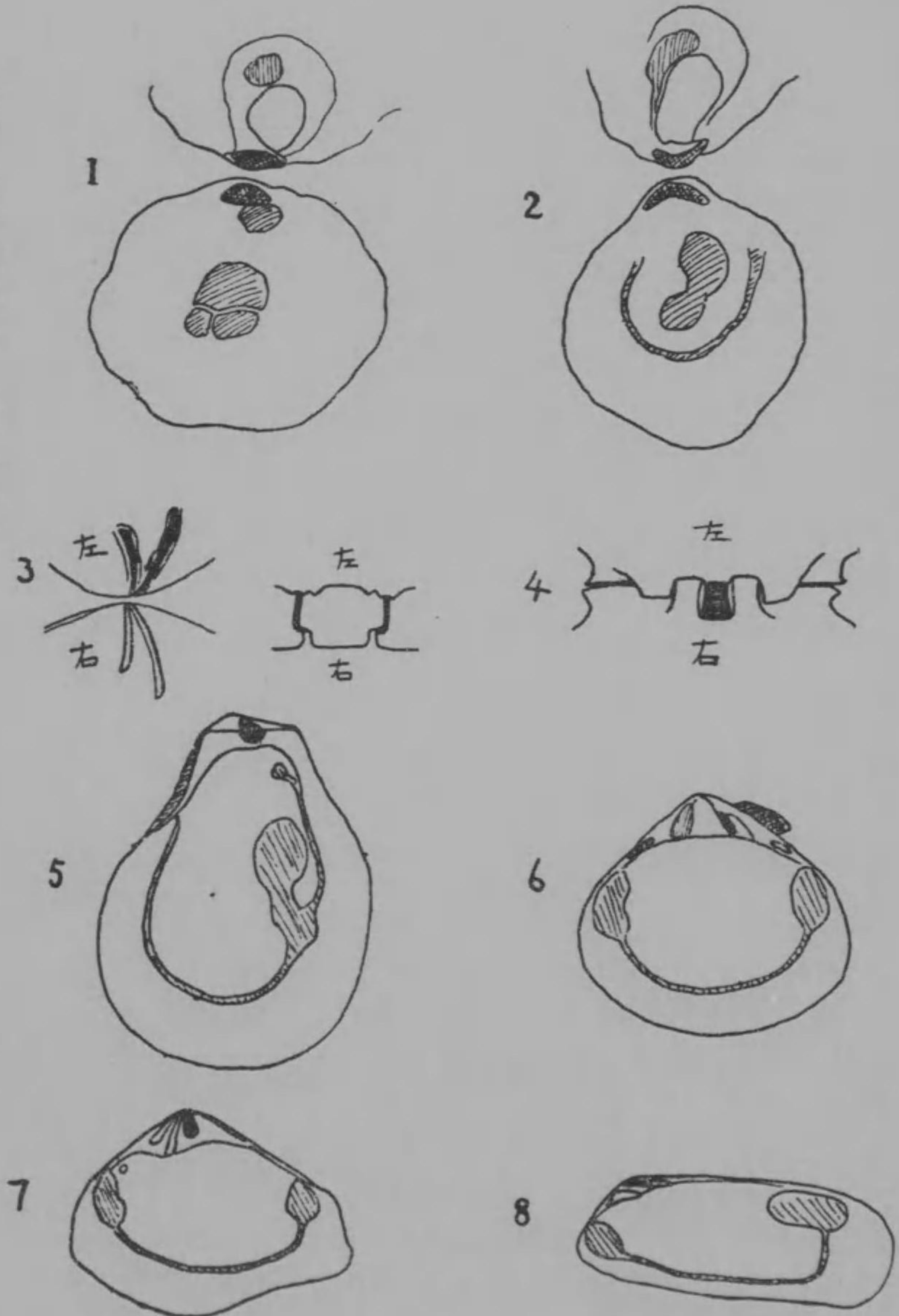
Trapezium.

殼薄く歪形橢圓形にして表皮滑か、不規則なる渦脈あり、殼頂前端に偏し外靱長  
し、主齒は水平にあり不明瞭なる後側齒を有す。(ウネナシトマヤガヒ)

Coralliophaga.

殼薄く圓筒形又は角橢圓形、殼頂前端に偏し、外靱、背縁は直線にして殆んど腹  
縁と並行す、曲折したる細放射脈を有し荒き渦脈の後方は皺を爲す、左殻の主齒は  
背縁に並行して長く前主齒は前端に接す、細き外靱に接して側齒を有す、後肉柱は  
大きく灣入は尠し、外套膜は前方にて開き後方に縫合二あり、多く珊瑚礁に潜入  
るが故に名あり。(サンゴクヒ) PL. 23, FIG. 8.

日本の辨鯰類 (一)



一 四七 はこまみな 二 五八 はこまみな  
二 四七 鉸蝶くきみう 三 六六 鉸蝶ひがごま  
三 五八 鉸蝶くきみう 四 六六 鉸蝶ひがごま  
四 六六 鉸蝶ひがごま 五 六六 鉸蝶ひがごま  
五 六六 鉸蝶ひがごま 六 六六 鉸蝶ひがごま  
六 六六 鉸蝶ひがごま 七 六六 鉸蝶ひがごま  
七 六六 鉸蝶ひがごま 八 六六 鉸蝶ひがごま

Isocardiidae.

キバガヒ科

Isocardia.

キバガヒ屬

殻薄く銀杏状を爲し膨る、殻頂前方に傾き旋回す、後端に走れる鋭隆起あり。前端丸く後端は尖る、荒き渦脈は皺を爲し茶褐色の薄皮を被る、外靱、靱帯に沿ひて屈曲したる主齒に接し前側齒一個を有し、後側齒は後方にあり、右殻の長主齒の末端分裂す。(キバガヒ)

Lucinidae.

イセシラガヒ科

Phacoides.

S. G. Lucinoma.

ツキガヒモドキ亞屬(新稱)

殻厚く正圓形、殻頂前方に傾き渦脈鋭く茶褐色の表皮を被る、外靱、主齒二個の内一個は分裂し、前側齒は小なり、前肉柱は長く大、外套膜は殆んど腹縁に近く灣入なし。(ツキガヒモドキ[新稱]) P. borealis annulatus Rve.) PL. 24, FIG. 1.



## S. G. Parvilucina.

殻は微小、圓形にして前後兩端は放射線と渦脈と交叉して籠目状を呈す、周縁は鋸齒状なり。(ツキガヒ属)

## Codakia.

## ツキガヒ属

殻厚く正圓形、殻頂前方に傾く、放射線と渦脈と交叉して荒き籠目状を呈し或は荒き放射脈のみを有するものとあり、外殻頑丈なり、左右主齒二個、前側齒は尖り後側齒不明瞭なり、前肉柱長く屈曲す、殻内黄色若くは紅色を呈し或は白色なるもあり、大小各種あり。ツキガヒ、クチベニツキガヒ、ウラキツキガヒ)

## Lucina. (=Loripes.)

## イセシラガヒ属

殻薄く球状にして脆弱なり、殻頂稍前方に傾く、蝶鉸殆んど直線にして齒を有せず内靱、茶褐色の表皮を被り渦脈は密、齒に放射線を有す、前肉柱は大きく灣入なし。(イセシラガヒ、カヅラツキガヒ)

## Corbidae.

## カゴガヒ科

## Corbis.

## カゴガヒ属

殻厚く類圓形、殻頂殆んど中央に在り、前端は圓く突出し後端には鈍角を有す、滑かなる渦脈と微かなる放射線とは前後兩端に近き部分にて互に交叉して籠目状を呈す。周縁は厚く斜に鋸齒状を爲し、二個の主齒と小さき側齒を有し外靱、兩肉柱殆んど同形外套灣入なし。(カゴガヒ) PL. 24, FIG. 2.

## Diplodontidae.

## シホガヒ科

## Diplodonta.

## シホガヒ属

殻薄く小形、殻頂殆んど中央に在り前方に傾く、前端稍突出し後端は丸し、左殼主齒二個あり前方は分裂し、右殼の主齒後方は分裂す側齒なし、前肉柱は長く灣入なし。(シホガヒ、ウツバヒ、ヤヘウメ)

## Fellania.

殻薄く微小、圓三角形、前方丸く後方突出す、左殻の主齒前方は分裂し右殻の主齒後方は分裂す、表皮滑か外靱。(ウメノハナガヒモドキ)

Leptonidae.

Kellia.

殻薄く小形、丸く膨れ黄褐色を呈し光澤を有し半透明なり、殻頂中央に在り、左殻主齒二個は殻頂下に接し八字形に開く、後側齒は稍隔りて突出し、右殻の主齒後方大きく突出し前方のものは小なり、外套膜は二箇所縫合して三個の孔を有す、前端のものは入水孔にして後端は排泄孔なり、兩肉柱は比較的大きく灣入なし。

(A. ドブシバミモドキ、B. コハリノツユ、C. Sp.) PL. 24, FIG. 3.

Galeommatidae.

Solecardia.

殻薄く脆弱小形なり、橢圓形、殻頂中央に在り尠しく突出す、後背縁は稍角張り

左右殻二個の齒あり、外套痕明瞭ならず外靱。

Kelliellidae.

Tellimya.

ヘノジガヒ屬

殻薄く脆弱小形なり、孤三角形を爲し殻頂は中央に在り、殻頂より左右斜に走れる隆起あり、渦脈を有し腹縁内方に灣入し、足絲を出して多くは死殻の殻軸の下部に附着するを以て貝殻はへの字形を呈す、三角形の側齒を有し内靱、肉柱は前後不同且つ歪形にして灣入なし。(ヘノジガヒ〔平瀬〕) PL. 24, FIG. 4.

Cyrenidae.

シレナシバミ科

Cyrena.

シレナシバミ屬

殻圓形厚くして膨る、緑褐色の表皮を被り老成したるものは漆黒色を呈す、殻頂は中央に在り前傾す、左殻主齒三個あり前二個は分裂す、右殻の主齒後二個は分裂し、側齒は長からず蝶紋線廣く外靱、兩柱同大、灣入なし、二水管は癒合し雌雄異

體半鹹水産なり、薩南及び琉球にのみ産す。(シレナシバミ PL. 25.)

Corbicula.

シバミ屬

殻卵三角形、漆黒の表皮を被り渦脈を有す、外靱突出し主齒三個の前二個は分裂す、兩側齒長く鯁狀の彫刻を有す、肉柱同大、僅か灣入。(マシバミ、外十數種)

Musculium. (= Sphaerium.)

ドゾシバミ屬

殻微小薄く且つ脆弱なり、圓形能く膨れ蒼褐色、殻頂中央に在り胎殻を存す、左殼の主齒は二個兩側齒は薄く鋭し、右殼の主齒後方は分裂す、稍長さ水管を有し癒合せり、肉柱は前後不同にして後肉柱大きく分岐し灣入なし、雌雄同體にして胎殻生なり、淡水泥土中に棲息す。(ドゾシバミ、マルドゾシバミ、ウゼンドゾシバミ)

Corneocyclas. (= Pisidium.)

マメシバミ屬

殻著しく微小、罌粟粒の如し、雙殼類中の最小種なり、排泄管を有するのみ。(マメシバミ)

日本の辨鰓類 (三)



*Cyrena fissidens*. Pils.  
(川岩) みゞとしなれと

Unionidae

ゾウガヒ科

Hyriopsis.

イケテラガヒ属

殻厚く長大、耳状突起を有す、殻頂前方に偏し殻頂より斜に後方に走れる隆起あり、漆黒の表皮を被る、前端に主齒と長さ後側齒を有するのみなり、外套膜は全殻を掩ひ短き二水管を構成し、前肉柱は小さく後柱は大なり、足は能く發達す。  
(イケテラガヒ)

Cristaria.

カラスガヒ属

長橢圓形、薄く脆弱にして大形なり、殻頂前方に偏し、前端丸く後端突出す、殻頂より後方に走れる鈍角隆起あり、蝶絞直線前方に傾き外韌、幼殻は耳状突起著しく蒼綠色の表皮を被り放射線を有すれども、老成したるものは耳状突起尠く、表皮漆黒色を呈するに至る。長き一個の側齒を有するのみにして兩肉柱は小さし。  
(カラスガヒ、モンカラスガヒ)

Anodonta.

ドゾガヒ屬

殻薄く脆弱、大、中形あり能く膨る、暗黒色の表皮を被り齒なく皮膚により結合せられ、蝶鉸は殆んど直線、水管は短く足は能く發達せり。(ドゾガヒ、タガヒ、ヌワガヒ)

Nodularia.

ワツカサガヒ屬

殻厚く中形、類橢圓又は細長なり、暗黒色の滑かなる表皮を被り、皺を有するものあり、殻頂は前端に偏し前端は丸く後端突出す、外靱帶、主齒と後側を有するのみ、真珠光澤麗はしく兩肉柱は略同大にして灣入なし。(ワツカサガヒ、イシガヒ、サ、ノハ)

Pseudodon.

カタハガヒ屬

殻薄く橢圓形を爲す、殻頂前方に偏し稍膨る、殻の中央部より後方に走れる鈍角隆起あり、其後方には背縁に向へる不規則なる數條の皺狀の小隆起を有す。

(カタハガヒ)

Margaritanae.

カハシンジュガヒ科

Margaritana.

カハシンジュガヒ屬

殻厚く長し、殻頂前方に偏し前端丸く後端は尖る、殻頂より後方に走れる鈍角隆起あり、殻の中央部は窪む、暗黒色の表皮を被り外靱は長し、右殻には一個の鋭主齒と側齒を有し左殻と噛み合へり、兩肉柱大きく灣入なし、北海道及び東北地方の特産なり。(カハシンジュガヒ)

Tellinidae.

ニツクワウガヒ科

Tellina.

ニツクワウガヒ屬

殻薄く略三角形、殻頂中央に在り、前端廣く丸し、殻頂上より後方斜に走れる隆起ありて後端は尖り右方に屈曲せり、渦脈を刻するものと滑かなるものとあり、外靱突出す、殻内は滑層を被り套痕灣入深く前肉柱附近に達す。

S. G. Tellina.

殻薄く長三角形にして後端尖る、

渦脈滑か美麗なる色彩を有するもの多し、主齒二個を有し左殻の側齒は明瞭ならず。(ニツクアラガヒ、ヒメニツクアラガヒ、ベニガヒ、ダイミヤアラガヒ) PL. 24, FIG. 5.

S. G. Pseudocarropagia.

殻丸形、明瞭なる渦脈と放射脈と密に交叉して籠目状を呈す、明瞭なる側齒を有し殻の前半の方大なり。(ヒラセザクラ)

S. G. Arcopagia.

殻丸三角形、渦脈は絞肌状又は襞状に反曲す、側齒左殻のもの明瞭ならず或は缺如す。(サメザラ、リウキサシラトリガヒ)

S. G. Angulus.

殻薄く圓三角形にして小なり、微かに渦脈を存し色彩美麗なり、主齒に接近して側齒を有す。(サクラガヒ、シホガヒ、カバサクラ)

S. G. Oudardia.

殻薄く橢圓形、光澤ある表皮を被り、渦脈を有す、美麗なる斑紋あり。

(シボリサクラ)

S. G. Peronidia.

殻厚く大形、殻頂尖り前端は丸く後端突出し、表皮乳白色を呈し褐色の薄皮を被る、外套痕内には黄色の滑層を有するを常とす。(サラガヒ)

Macoma.

シラトリガヒ屬

殻薄く圓三角形にして僅か膨る、殻頂中央より稍後部に偏し、前端は丸く後端は尖り或は切らる、後端左又は右に反曲し殻の前半の方大なり、灰鼠色の外表皮を被る、外靱、主齒左殻に一個、右殻に二個を有し側齒なし、外套灣入深し。

(シラトリガヒ、ヒメシラトリガヒ、オホモ、ノハナ、サギガヒ)

Metis.

殻厚く圓三角形、殻頂中央に在り尖る、後方に走れる鋭隆起あり後端は突出し左方に反曲す、不規則なる成長線を刻す、二個の主歯を有し側歯なし、外靱。

(シラトリガヒモドキ)

Semelidae.

サメザラモドキ科

Semele.

サメザラモドキ屬

殻歪形丸し、殻頂殆んど中央に在り前方に傾く、前端丸く腹縁の後部灣曲し、右殻の後部に隆起を作る、主歯は殻頂の直下に二個あり、兩側歯鋭し。靱帯は殻頂より後背縁に逆行せる内靱を具ふ、表皮渦脈の明瞭なるもの或は放射脈と交叉せるものとあり、外套灣入は後肉柱の末端より殻頂に向ひ橢圓形を爲して深入せり。  
(サメザラモドキ、アサチガヒ、フルヒガヒ)

Theora.

殻薄く脆弱半透明、後端に開き横長なり、殻頂略中央に位し僅に尖る、前端丸く突出し後端は尖る、右殻の主歯は殻頂の直後にあり側歯明瞭、左殻の側歯は明瞭ならず、内靱。(シヅクガヒ) 。

Donacidae.

フヂノハナガヒ科

Donax.

フヂノハナガヒ屬

殻小形、不等邊三角形を爲し、殻頂殆んど後端に偏し前端甚しく突出し後端は切らる。殻の外層滑か褐色の薄皮を被り、後端には放射脈と渦脈と交叉して鋭歯を刻す、外靱、右殻主歯一個兩側歯を有し、左殻主歯二個後側歯の方は明瞭ならず、外套灣入深し。本種は前半の方遙かに大きく、長き二本の水管を有し海濱砂中に潜入し跳躍するを以て知らる。(フヂノハナガヒ、ナミノコガヒ、リウキウナミノコ)

Amphidesmatidae.

Donacilla.

チドリマスホ屬

250

殻微小略橢圓形を爲す、殻頂後方に偏し突出す、外殻滑か、帶黄色の地に綠色の放射條紋を有す、二個の主齒に接し側齒鋭く、内靱なり、灣入直角を爲し稍深し。(チドリマスホ)

Caecella.

クチバガヒ屬

殻小さく略三角形、殻頂は中央に在り、暗褐色の表皮を被る、前端丸く後端僅か尖る。左殻中央に靱帶を藏し後接に主齒あり先端に溝を有し右殻の主齒は薄し、兩側齒は主齒に近く鋭し、外套灣入尠し。(クチバガヒ)

Atactodea. (= Mesodesma.)

殻厚く小形にて略三角形、荒き渦脈を有し殻頂は中央にあり尖端は後方に向ふ、前後兩端僅かに丸く腹縁の灣曲大なり、主齒大きく一個を有し側齒は薄く鋭し、内靱、前半の方少しく大なり、外套痕僅か灣入す。(イツハマヅリ)

Cardidae.

キサガヒ科

Cardilia.

キサガヒ屬

カセンチドリ (Capulus.) を合したるが如く殻頂斜に旋回し、表面滑か後部は數條の放射脈を有す、主齒一個を有し内靱なり、殻頂の内面下より後走せる薄板狀の隆起物を附屬す。(キサガヒ)

Mactridae.

バカバヒ科

S. F. Mactrinae.

バカガヒ亞科

Mactra.

バカバヒ屬

殻は略二等邊三角形を爲し能く膨る、殻頂は中央に在り、前方に傾き荒き渦脈と放射線條を有するものと然らざることあり。薄表皮を被る、主齒はハ形に分岐し其後部に接して靱帶を藏す、兩側齒は薄く鋭し、後方に少しく開く、足長く二水管癒合し外套痕灣入稍深し。(バカバヒ、リウキウバカバヒ、シホフキ、アリソガヒ)

251



Mactrinula.

252

不等邊三角形、殻薄く殻頂稍後方に位し、前端は丸く突出し後端は尖り、前半の方大なり、細密なる渦脈を有し殻頂より後端に走れる鋭隆起あり暗鼠色の薄皮を被る、主齒及側齒共薄く鋭し内靱。(M. sp.)

Spisula. (= Mactra.)

低き三角形、殻頂略中央に在り、荒き渦脈は助を爲し點紋を有す、左殼の後主齒は△形に分岐し前齒は薄く小、右殼の前主齒は垂直に並列して二個、後主齒は斜に上方にあり、内靱、兩側齒薄く微細なる齒を有す、灣入深く内面滑かなり。(ウバガヒ、ホクロガヒ)

S. F. Pteropsinae.

Anatina. (= Labiosa.)

S. G. Reta.

殻薄く小形脆弱半透明、略三角形を爲し殻頂中央にあり、前端丸く後端尖る、荒き渦脈隆起を有し、主齒、側齒共に小さく薄し、内靱。(チヨノハナガヒ)

S. F. Lutraliinae.

Eastonia.

シロヤスホガヒ屬

殻薄く脆弱、略橢圓形を爲し前端稍丸く、後端突出し切られ少しく反曲す、殻頂前方に偏し細き放射脈を有す、前後に開く内靱、外套灣入深し。(シロヤスホガヒ)

Tresus.

ミルクヒ屬

殻大きく橢圓形、殻頂前方に傾く、前端突出し後端隆起を有す、前後に開き特に後端は洞孔を有す、不規則なる渦脈と剝脱し易き黒色の外皮を被る、右殼に二個の主齒を有し後方のは分裂す、左殼の後主齒は△状を爲し、内靱後部にある主齒は長し、足は大きく水管癒合し外皮を被る、伸張したる時は體の二倍を超ゆ、收縮して殻内に藏するを得ず常に後端に突出す、外套灣入深し。(ミルクヒ)

253

Lutraria.

カモジガヒ屬

殻長く前後に開く、殻頂前方に偏し、後端は少しく反曲し、剝脱し易き暗鼠色の外皮を被る、殻内は白色にして滑層を有す、主齒二個あり右殻には八字形に開き前方分裂し、左殻は後方分岐す、外套灣入甚だ深し。(カモジガヒ、オホトリガヒ)

Veneridae.

ビノスガヒ科

S. F. Dosininae.

カバミガヒ亞科

Dosinia.

カバミガヒ屬

殻丸く正圓に近し、殻頂前方に偏傾し突出す、前後丘著しく外靱強硬なり、前丘下は角張る、滑かなる巾廣き渦脈を有し、背縁部にて皺狀を呈す、左殻には八字形の後方大なる二個の主齒と並行せる薄き側齒を有し、更に前主齒の基部に小側齒を存す、中齒と前主齒との間は溝を爲す、兩肉柱同大、外套灣入深く銳角を爲す。(カバミガヒ、ヒメカバミ、ヒナガヒ、ウラカバミ)

Cyclina.

オキシバミ屬

殻卵圓形、殻頂前方に傾き突出す、茶褐色の表皮を被り粗なる渦脈と曖昧なる放射脈を有し、稍幼なるものは腹縁に暗紫色を有すれども老成したるものは暗褐色を呈す、蝶紋線廣く三個の主齒は前方に偏し強硬なる外靱附着せり、周縁には粗なる齒を有し、肉柱大、外套灣入深く銳角を爲す。(オキシバミ)

Clementia.

殻薄く稍三角形を爲し能く膨る、殻頂前方に偏し旋回す、前端稍丸く後端は延ぶ、前二個の主齒は垂直に並列し後齒は斜に向ひ端は分裂す、渦脈は不規則に密接し皺狀を呈す、外靱、後肉柱は稍下位に在り外套灣入は深く殻頂に向ふ。(フスレガヒ)

S. F. Meretricinae.

ハマダグリ亞科

Sunetta.

フスレガヒ屬

殻厚く圓形に近し前端突出す、殻頂略中央に在り前方に傾く、前後丘を有し外靱

なり、外殻は滑か微に放射脈を有し黄褐色の剛き表皮を被る、二個の主歯と側歯を有す、周縁には細密なる齒を有し、外套灣入稍深し、(ワスレガヒ)

Gafrarium.                   イナミガヒ屬

殻重厚圓三角形を爲し、殻頂前方に傾き前丘明瞭なれど後丘は著しからず、放射状の荒き結節ある隆起を有す、三個の主歯及び側歯を有し外靱細し、前端及び腹縁に荒き齒を有す、外套灣入僅か。(イナミガヒ、ケマンガヒ、ヒメイナミガヒ)

S. G. Circe.                   シラオガヒ亞屬

殻厚く扁平に近し、殻頂尖り多く磨損す、外觀三角形を爲す、前丘明瞭、荒き渦脈を有し外靱は細く腹縁に齒なし、肉柱長く同大、外套痕太く灣入僅か。(シラオガヒ)

Lioconcha.

殻稍厚く圓三角形、外殻滑か斑紋美麗なり、前丘明瞭外靱、Pitaria. に似て後主歯分裂せず、外套灣入尠し。(サラサガヒ、チャイロサラサガヒ、マルオミナヘシ)

Macrocallista.               マツヤマラスレ屬

殻は略長三角形、殻頂前方に傾く、外殻滑か荒き渦脈を有し斑紋美し、前丘明瞭外靱、左殻薄き鋭主歯二個、前側齒突出後側齒細し、外套灣入細く深し。(マツヤマラスレ、エゾラスレ)

Meretrix.                   ハマヅリ屬

殻略三角形、殻頂前方に傾く、外殻滑か黄褐色の強き外皮を被る、外靱突出す、二個の主歯と前後不同の側齒を有し、後側齒の外邊と右殻の側齒溝には總目を刻す外套灣入僅か。(ハマヅリ)

Pitaria.                   ウスハマヅリ屬

殻薄く圓三角形を爲し膨る、殻頂前方に旋回す、外殻滑か前端突出し、前丘明瞭外靱、主歯三個を有し前側齒は主歯と接近し直角を爲す、後側齒は細く背縁と並行し外套灣入は深し。(ウスハマヅリ、イワウハマヅリ、オシチヘシ)

Antigona.

ヌノメガヒ屬

殻重厚、毬状或は圓三角形、殻頂前方に偏し荒き反曲を有する渦脈と放射隆起と交叉す、前端丸く後端は角張る、前後丘著し、前端及び腹縁邊には密鋸状の齒を有す、分裂せる二個の強主齒と一個の尖れる主齒を有す、殻内は滑か外套灣入深し。(サツマアサリ、ヌノメガヒ、アラヌノメ) Pl. 24, FIG. 6.

Saxidomus.

ウチムラサキ屬

殻厚く大形橢圓に近し、殻頂前方に傾き荒き粗粒なる渦脈を有し、外靱強硬、前端は丸く後端は角張る、二個の主齒及び側齒を有す、老成貝は殻内暗紫色を呈し、兩肉柱大きく外套灣入深く著明なり。(ウチムラサキ)

S. F. Venerinae.

ビノスガヒ亞科

Chione.

殻小形にて三角状なり、殻頂中央に在り前方に旋回す、放射隆と渦脈と交叉し又

荒き薄板状の渦脈を有するものあり、前後丘著し、二個の強主齒あり、周縁には粗なる鋸齒を有し、外套灣入深し。(カノコアサリ、ハナガヒ)

Callanaitis.

殻薄く小形、白色にして光澤あり、殻頂前方に偏し突出す、薄板状の反曲せる渦脈を有す、外靱、三個の主齒中央大なり、外套灣入深し。

Gomphina.

オキアサリ屬

殻厚く三角形、殻頂尖り前端は丸く後端尖る、前丘明瞭、背縁右殼稍大きく外靱小さし、外殼滑かにして不明瞭なる渦脈を有し斑紋美麗なり、主齒三個を有し右殼の後二個と左殼の中央齒は分裂す、外套灣入細くして深し。(フキアゲアサリ、オキアサリ、コタマガヒ)

Anomalocardia.

オモヒバ屬

殻厚く殻頂突出し膨る、強放射隆と渦脈と交叉す、前端丸く後端は尖り、鈍角隆

起を有す、前丘明瞭、二個の八字形に開ける主歯を有し、左殻の主歯は分裂す、周縁には荒き鑑齒を刻し、外套灣入深し。(オモヒバ、シホヤガヒ)

Venus.

ビノスガヒ屬

殻厚く大形、略三角形を爲し殻頂前方に偏し突起旋回せり、荒き粗なる渦脈を有し、前端は丸く後端稍突出す、殻頂より背縁を走れる鈍角隆を有す、前丘著しく外靱強硬なり、三個の強主歯を有し、腹縁には密齒を繞らす、外套灣入稍深し。

(ビノスガヒ)

Marcia.

殻厚く長三角形を爲し膨る、殻頂前方に傾く、前丘明瞭、前端丸く後端突出す、稍不規則なる渦脈あり外靱、三個の主歯中央は分裂す、外套灣入丸し。

(スダレハマザリ)

Paphia.

スダレガヒ屬

殻厚く長橢圓形、殻頂略中央に在り前方に傾く、前端突出し前後丘あり、滑かに並行せる渦脈を有す、三個の主歯右殻の後二と左殻の前二歯は分裂す、外靱、外套灣入深し。(スダレガヒ、サツマアカバヒ、ヒメスダレ、イヨスダレ)

S. G. Tapes.

殻薄く殻頂前端に偏し前端少しく突出し鈍角を爲す、背縁殆んど水平に近く、腹縁は緩き弧状を爲し貝殻は略橢圓形を呈す、主歯三個を有し外靱、外套灣入深し。

(リウキウアサリ、スリガハマ)

S. G. Ruditapes.

アサリ亞屬

殻薄く殻頂前方に傾き、前端突出し後端丸し、外靱、放射助密、斑紋美しきもの多し、主歯三個、外套灣入深し。(アサリ、ヒメアサリ)

Protothaca.

オニアサリ屬

殻厚く圓三角形、殻頂前方に偏し傾く、荒き放射助と渦脈と交叉し籠目状を爲し、

或は放射助のみ著しきものあり、右殻には二個に分裂せる強主歯と一個の薄き主歯を有し、左殻中央の主歯は分裂す、外靱長し、腹縁には密齒あり、肉柱後方は大、外套灣入は深し。(モノミアサリ、エゾモノメ、オニアサリ)

*Liocyma.*

ホッスデハヅリ屬

殻三角形を爲し小形、殻頂前方に向ふ、滑かなる渦脈を有し、前丘あり、三個の主歯を有し、右殻の中央歯と左殻の後歯二個は分裂す、外套灣入稍深し。(ホッスデハヅリ)

*Venerupis.*

マツカゼ屬

殻歪圓筒狀、殻頂前端に偏し、荒き渦脈は後端にて反曲し茸瓦狀を爲す、背縁水平、前端突出し後端は切らる、主歯三個、外靱外套灣入尖る。

(マツカゼ、セミアサリ)

*Petricolidae.*

*Petricola.*

イハホリガヒ屬

殻は小、歪形三角若しくは圓三形にして厚く、放射脈を有し殻頂前方に向ふ、外靱、主歯二個あり左殻の前主歯は大きく分裂し、右殻の前主歯は大なり。

(イハホリガヒ、クシケガヒ)

*Cardiidae.*

ザルガヒ科

*Cardium.*

*S. G. Trachycardium.*

ザルガヒ亞屬

殻厚く鶏卵狀を呈す、殻頂中央に在り、外靱小さく突出す、角ある放射隆、滑かなるあり鱗狀をなせるあり、齒丘面廣く著しく突出せる主歯及び側齒を有し、周縁は鋭き鋸齒狀をなし、殻内帯黄色美麗なり、兩柱大、外套灣入なし。

(ザルガヒ、キヌザル、ナガザル)

*S. G. Cerastoderma.*

イシカケガヒ亞屬

殻圓形に近く、殻頂中央に在り前傾す、結節ある又は滑かなる放射隆を有し、外靱突出す、殻頂下に突出したる主齒一個と隔りたる兩側齒を有し、腹縁は荒き鋸齒状を爲し外套灣入なし。(イシカケガヒ、エゾイシカケガヒ) PL. 24, FIG. 7.

S. G. Fragum.

カハラガヒ亞屬

殻頂中央にあり突出す、前端丸く背縁水平に近く前方下降し、後端は直角に切斷せらるゝを以て方形の如き觀を呈す、外靱小突出す、殻頂より後方斜に走れる鋭隆起あり、角張りたる放射脈上には滑かなる小薄板を附着せる様、屋根瓦の如く美麗なり、二個の主齒と側齒を有し、周縁鋸齒状の鋭齒を繞らし、外套灣入なし。(カハラガヒ、ヒシガヒ)

S. G. Hemicardium.

殻厚く前種に似て小、殻頂突出し且つ鋭角隆を有するを以て嘴の如し、荒き放射溝上に彫刻を有す、幅は長さよりも廣く前後より見る時はハート型を爲す、前丘は

深く窪み前端丸く後端は切らる、外靱小、周縁には荒き齒を有す、鋭き一個の主齒及び側齒を有し、後側齒は主齒と並列す、外套灣入なし。

S. G. Papyridea.

トリガヒ亞屬

殻薄く脆弱圓に近し、放射線に剛毛を有す、殻頂略中央に在り膨る、鋭き主齒及び側齒を有し、殻内微紅色を呈し、外套線太く灣入なし。(トリガヒ、ボタンガヒ、マダラチゴトリガヒ)

S. G. Laeviscardium.

殻小形倒卵形を爲し、殻頂中央に在り外殻滑かにして彫刻ある放射隆を有し斑紋を有す、外靱小さく突出す、主齒一個及び側齒を有す。

S. G. Discors.

ギンギョガヒ亞屬

殻毬状、殻頂膨れ突出す、細密なる放射隆あり、其前半は消滅して斜に荒く後方に走れる絲状隆起を有す、外靱小さく突出す、鋭き一個の主齒と側齒を有し腹縁に

は鋸齒を有す。(キンギョガヒ)

266

S. G. Neocardium.

キンギョガヒ亞屬

殻薄く毬狀、殻頂膨れ突出す、殻の前三分二は密放射線あり淡紅色を呈し、茶褐色の表皮を被り、後部は鋭き反曲針ある放射隆を有す、外靱小さく突出す、鋭き主齒一個と兩側齒を有し、周線には微細なる銳齒を有し後方のは荒し。  
(キンギョガヒ)

Serripes.

ウバトリガヒ屬

殻薄く圓三角形、殻頂前方に傾き膨る、前後兩端には微かに放射隆を有す、外靱細く背線に沿ふて灣曲す、前端丸く後端角張り前端には齒あり、主齒及び側齒銳し。  
(ウバトリガヒ)

Corculum.

リウキウアノヒ屬

殻前後に扁平、殻頂突出旋回し左殻の殻頂は右殻々頂直後に重り、銳刺を有する

助骨は膨らみて幅を郭大せしめ、前方より見ればハート型を呈す。前端は稍丸く腹線に至りて窄み、後端上部は突出すれども下方屈曲して腹線に窄み、前後兩狹窄部は助骨を構作す、前半には殻頂より走れる十數條の結節ある放射線は斜に前端に達し、後端の放射線は滑かなり、外靱は殻頂直後に在りて小顆粒形を爲す、主齒一個及び側齒を有し殻内は光澤あり雙殼類中の畸形なり。  
(リウキウアノヒ)

Tridacnidae.

シヤコガヒ科

Tridacna.

シヤコガヒ屬

殻重厚、大なるものは二尺餘重量十貫匁を超ぬ貝類中の最大種なり、殻頂後方に傾き靱帶強硬、前端著しく突出し前半は後半よりも大なり、殻頂より腹線に走れる數條の隆起ありて荒き葺瓦狀の末端反曲して鱗狀を爲せる薄板を有し、腹線は浪狀に曲折して噛み合へり。幼貝の前背線には足絲孔を作る、斜に向へる主齒一個、側齒一

267



個を有す、中央大肉柱一個を有し外套灣入なし。(シヤコ、ヒレシヤコ、ナガシヤコ)

Hippopus. シヤコウ属

殻重厚、前種と同じけれども、前丘を有し、放射強助に暗紫斑點を有すと周縁の突起菊花瓣状を爲せるを異れりとす。(シヤコウ)

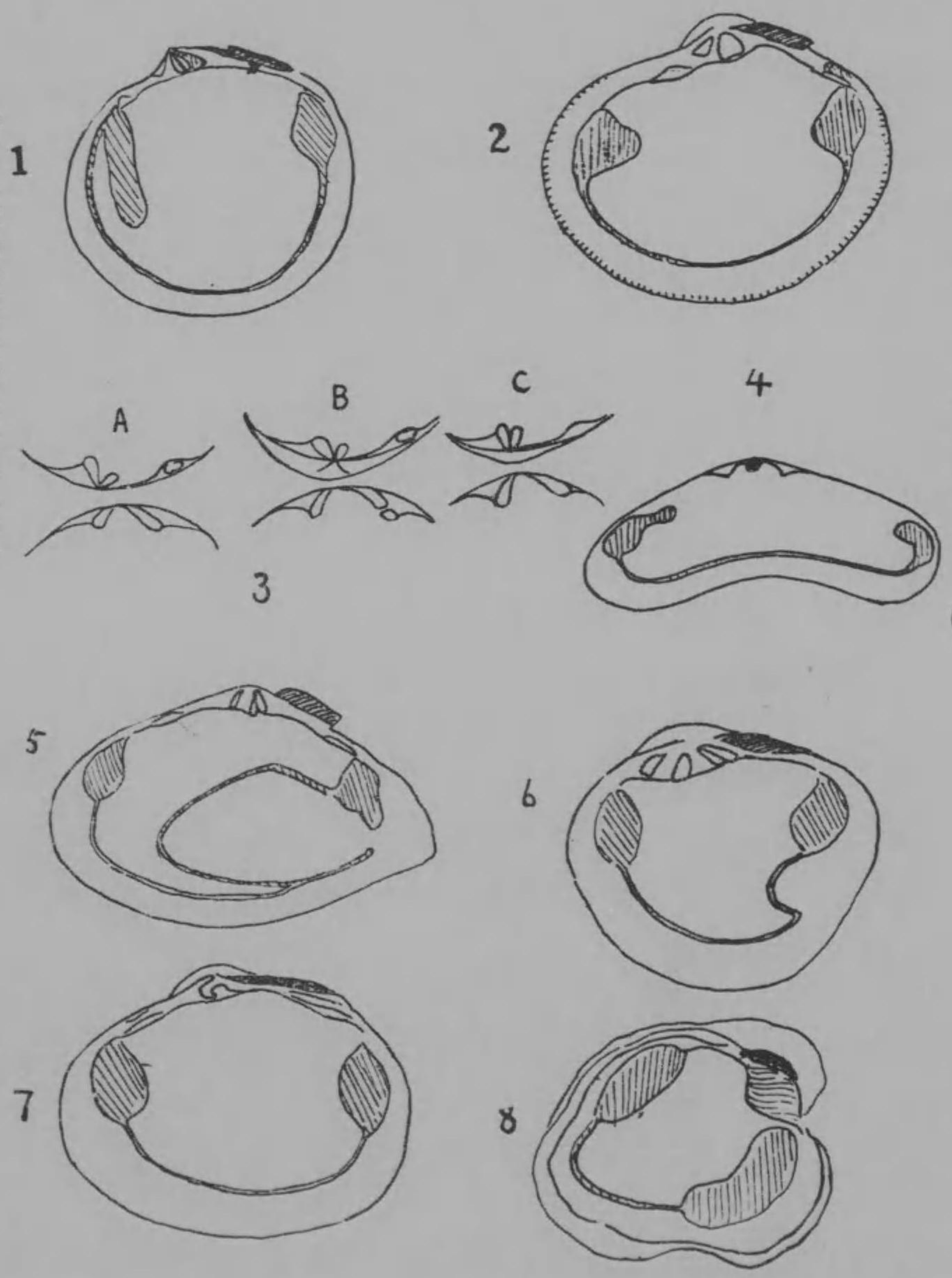
Chamidae. キクザル科

Chama. キクザル属

殻重厚丸く歪形に發育し、兩殻不同なり、左殻を下にし岩石に固着し、殻頂著しく突出して右旋又は左旋す、後端延長して外壁の如く、右殻は小さく蓋の如し、主齒大きく斜に嚙合へり、外皮密刺を有すると刺荒く反曲せるもの等あり、肉柱は甚だ大きく外套灣入なし。(キクザル、ソメウケガシラ、サルノカシラ、ヒトヘギク) PL. 24, FIG. 8.

Garidae.

日本の辨鯉類 (二)



一 つきもひがきつ き 二 かこかひか 三 A じぶまみもき  
 B こはくのつゆ 定未 C 四 へじのひか 五 つにわうひか  
 六 あらめ の 七 ねぞい 八 ひか 九 へき

矢倉一貝類叢話圖版一第二十四版

Gari (=Psammobia.)

S. G. Psammobella.

殻薄く長楕圓形、前端丸く後端角張る、滑かなる渦脈を有し其前三分二は更に光澤あり、斜線を有する表皮を被る、前後に開き外靱、殻頂は中央に在りて後方に向ふ、左殻に分裂せる一個の主齒と右殻には二齒を有し、齒丘廣く滑か、相隔離たる後側齒を有す、肉柱前後不同、長き分離したる水管を有し、外套灣入は深し。  
(ベニマスホ、キヌタガヒ)

Psammotaeca.

マスホガヒ屬

殻薄く長楕圓形、殻頂稍中央にあり、前端尖り後端は角張り突出す、滑かなる表皮を被り前後に開く、主齒二個を有し、外套灣入深し。(マスホガヒ)

Asaphis.

リウキウマスホ屬

殻膨れ殻頂前方に傾く、前端丸く後端突出す、彫刻ある放射隆を有し、前後に開

く外靱、殻内の前後は暗紫色を彩る、外套灣入深し。(リウキウマスホ)

Solenotellina.                      フヂナミ属

殻薄く長橢圓、殻頂略中央にありて後方に向ふ、耳状突起あり外靱突出、薄き滑かなる表皮を被り前後に開く、小齒粒状の三個の主齒(二個は密接せり)を有し齒丘廣く滑か、殻内暗紫色を呈し、外套灣深入く gari. に似たり。(ムラサキガヒ、フヂナミ、イソシバミ) PL. 26, FIG. 1.

Novaculina.                      アゲーキ属

殻薄く脆弱、圓筒状を爲し前後に殆んど開く、殻頂前方に偏し剝脱し易き表皮を被る外靱、左殻に三個右殻に二個の主齒を有す、兩柱不同外套灣入深し。(アゲーキ)

Myacidae.                      オホノガヒ科

Mya.                              オホノガヒ属

殻不等邊三角形、殻頂中央に在り旋回す、前端丸く突出し、殻頂より前方に走れ

る鈍角隆ありて殻膨る、後端は殻頂より傾斜せる線と腹縁よりする傾斜とにより著しく突出し前後に開く、不規則なる渦脈を有し剝脱し易き灰鼠色の表皮を被る、右殻々頂下に内靱を藏する窪みを有し、左殻々頂下には茶匙状の軟骨支持物を有す、内面白色、肉柱小、足は退化し水管甚だ長く癒合し表皮を被れり、萎縮して尙殻内に收退するを得ず、觸唇は大なり外套灣入深し。  
(オホノガヒ)

Cryptomya.

殻薄く脆弱小橢圓形なり、殻頂中央に在り前方に向ふ、緻密なる放射隆を有し薄き表皮を被る、前端丸く後端稍角を爲す、内靱、外套灣入僅かなり。

Corbulidae.                      クチベニガヒ科

Corbula.                        クチベニガヒ属

殻重厚小形、右殻は大、左殻は著しく小なり、略三角形を爲し前端丸く後端は尖

る、荒き渦脈を有し外表を被る、殻頂は中央に在り膨る、右殻内靱の前方に大突齒を有するのみなり、肉柱丸く外套灣入僅か、足大きく水管短く癒合す。  
(クチベニガヒ、コダキガヒ、クチベニデ)

Solenidae.                      ヲラガヒ科

Psammosolen. (= Solecurtus.)

殻圓筒狀前後に開口す、殻頂前方に偏し、外靱、前端稍角張り腹線に向へる荒き放射彫刻を有す、殻内淡紫色を彩り外套灣入甚だ深く gari. の如し、肉柱異形、足は大きく舌狀、水管長く一部癒合す。(キヌタアグロキ)

Azor.

殻薄く小形、長橢圓形にして外皮を被り兩端開く、殻頂中央に在り腹線に向ふ凹線を刻し、腹線部は少しく灣入す、左殻に一個、右殻に二個の主齒を有す、外靱、外套灣入深く圓狀を呈す。(アグロキモドキ)

Cutellus.

ユキノアシタ屬

殻薄く長し、殻頂著く前方に偏し、前端は丸く僅か反曲、後端突出し上方に屈曲し兩端に開く、帯黄青色の光澤ある表皮を有す、右殻には八字形に開ける鋭齒と左殻の後齒は入狀を爲し外靱、外套灣入僅か。(ユキノアシタ、タカノハ)

Siliqua.

ミゾガヒ屬

殻薄く脆弱小形、細長く扁平、殻頂前方に偏し、前後兩開端く、紫褐色の表皮を被り密なる渦脈を有し、微かに放射線と交叉す、外靱、右殻にはハ形の齒ありて左殻と嚙合ふ、殻頂より斜に腹線に向へる隆起物を有し、外套灣入稍深し。

(オホミゾガヒ、ミゾガヒ) PL. 26, FIG. 2.

Solen.

ヲラガヒ屬

殻圓管狀を爲し脆弱、殻頂は前極端に位し斜に後方に向へる微隆起線あり、前端は斜に切られ後端は直角に切らる、表皮を被り殻頂下にある小さき一個の鋭齒は互

に噛み合へり、外靱長し、兩柱長く背縁に並行し、特殊の形狀を爲す、外套灣入僅か、足長く圓筒狀を爲し先端膨る、水管短く外套膜口開く。(マラガヒ、アカマラ、オホマラガヒ、エゾマラ) PL. 26, FIG. 3.

## Saxicavidæ.

キヌマトヒガヒ科

## Saxicava.

キヌマトヒガヒ屬

殻薄く歪三角形、雙殻不整なり、殻頂前方に傾き外靱小さく突起す、不規則なる渦脈と後隆起を有し外皮を被る、右殻に一個と左殻に二個の主齒を有す、外套灣入なし、足退化し足絲を出す、水管癒合し先端分岐す、岩石の凹所に潜入す。

(キヌマトヒガヒ) PL. 26, FIG. 4.

## Panope.

殻大形長橢圓形、殻頂略中央に在り前端は廣く後端突出し切られ反曲す、皺を爲せる渦脈を有し薄き外皮を被る、前後に開く、一個の主齒を有し外靱粒狀、兩肉柱

小、外套痕太く灣入深し。

## Gastrochaenidae.

ツクエガヒ科

## Roccellaria.

ツクエガヒ屬

殻薄く、殻頂殆んど前端に偏し斜に鋭き渦脈を有す、前端突出し後端の方丸く大なり、前端下より腹縁に向ひ斜に開口す、外靱細く主齒微かに存す。前肉柱は甚だ大きく前端より腹縁の殆んど全部を占め、後肉柱は約三分一にして特殊の形狀を有す、岩石に穿孔して棲息するを以て足は退化せり、水管端は少しく癒合す。

(ツクエガヒ) PL. 26, FIG. 5.

## Pholadidae.

カモメガヒ科

## Pholadinae.

カモメガヒ亞科

## Barnea (=Pholas.)

ウミタケ屬

殻薄く雙殻類中の脆弱なるものなり、白色橢圓形にして能く膨れ前後に開口す、

殻頂略中央に在り、荒き渦脈隆に刺針を具へ、外靱主歯なし、殻頂内部に灣曲せる副齒と前背縁に沿ひ筵状の遊離せる副齒を具ふ、肉柱灣入共なし。足丸く發育し水管は甚だ長く癒合し外皮を被る(ウミタケ)

S. G. Anchomasa.

ニホガヒ屬

殻長く脆弱、殻頂前端に偏し、前腹縁は灣曲し後端長く突出反曲す、前後に開く、鋭き渦脈は放射状に刺を有し、主歯なく副齒を有すること前種と同じ、外套灣入深し、足は退化し水管長く癒合し岩石に穿入す。(ニホガヒ)

Zirfaea.

ニホガヒモボキ屬

殻薄く脆弱、殻頂前方に偏し殻頂より腹縁に斜走せる溝を有し前半は鋭き渦脈に放射状の齒を具へ開口す。後半は渦脈のみを有し後端は尖る、主齒を缺き長さ副齒を有すること前種と同じ。(ニホガヒモボキ)

S. F. Jouannetinae.

スバガヒ亞科

Pholadidea.

カモメガヒ屬

殻薄く脆弱、殻頂前方に偏し旋回す、殻頂より腹縁に斜走せる溝を有し、前半は球状を爲し鋭刺を有す、前背縁は隆起を爲し殻頂の前半を掩ふ、前端より腹縁に沿ふて鋭刺を缺く、後半は荒き渦脈を有し尖る、前後に開く、主齒を缺き副齒を有すること前種に同じ、外套灣入深し。(カモメガヒ) PL. 26, FIG. 6.

Parapholas.

モ、ガヒ屬

殻球根状脆弱、殻頂前端に偏し殻頂より斜に腹縁に走れる線を劃し、前半上部は細鋭刺を有し、下方は滑かなり後部の渦脈には薄板状の反曲を有し尖る、後端のみ開口す、前後背縁には附着物あり一個の主齒互に噛み合ひ副齒を有す。(モ、ガヒ)

Jouannetia.

スバガヒ屬

殻毬状脆弱、右殻は小にして左殻に抱かる、殻の前半は平面を爲し後半には放射鋭齒線を有し、後方には突起物半片なると兩片を有するとありて開く、殻頂の内面

には隔壁状の薄板を有し齒なし、岩石に穿孔して棲息す。(スバガヒ、ナルスバガヒ)

Teredinidae. フナクヘムシ科

Teredo. フナクヘムシ屬

殻微小脆弱、殻頂より腹縁に溝を有し前半には鑿目を有し後半は平滑なり、主齒及び副齒あり腹縁には突起灣曲物あり、動物の體は長く水管の末端には石灰質の矢筈形を爲せる突起物二個あり、常に木材に穿孔して棲息し、殊に木造船船は其害を蒙むること多し。(フナクヘムシ)

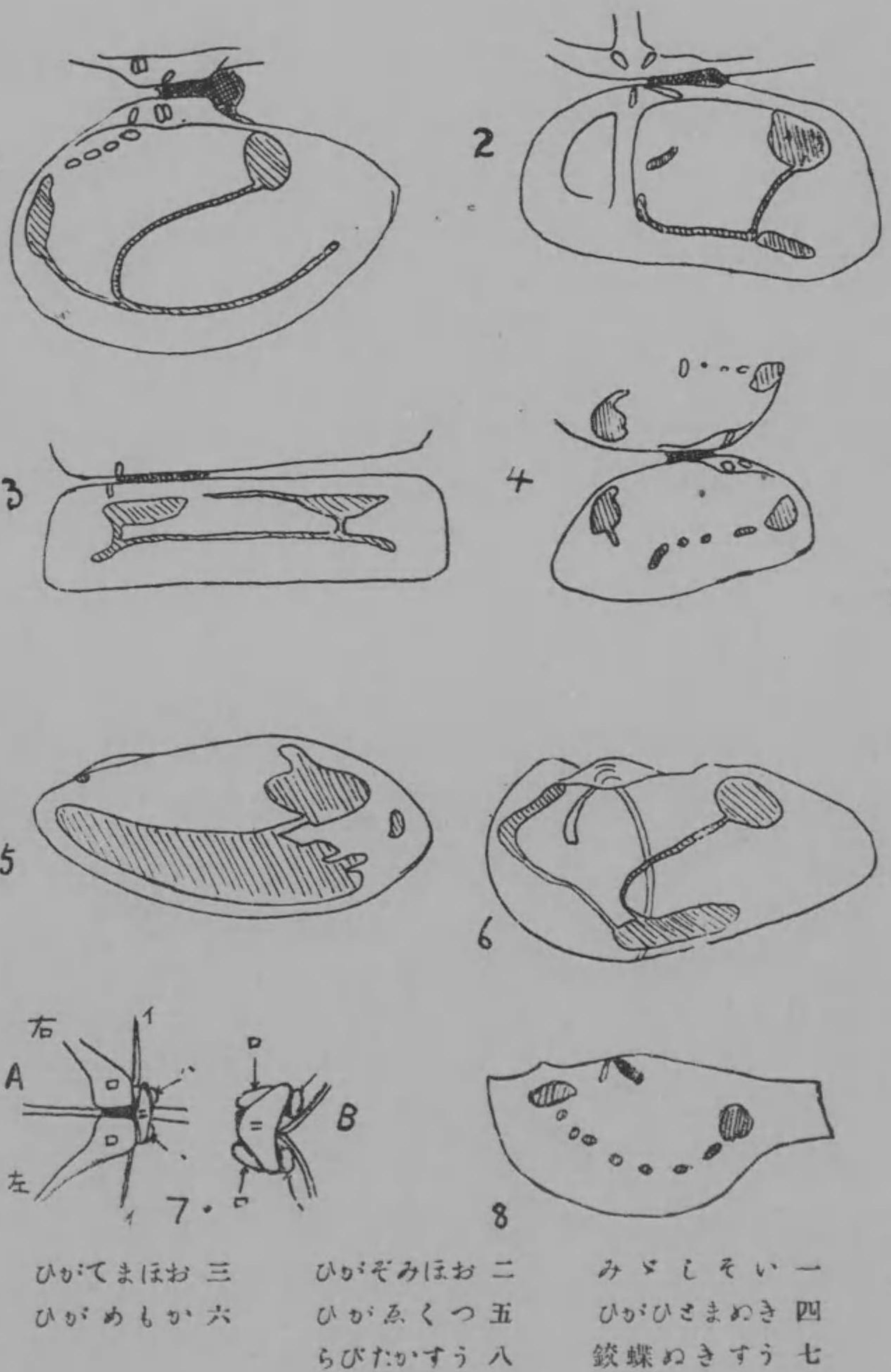
Xylotria. キシロトリア屬

前種より大形、突起物に孔なし、水管口の末端には鋭齒を有する漏斗を重ねたるが如きバレット一對を有するを異れりぞす。

Laterulidae. オキナガヒ科

Laterula. (=Anatina.) オキナガヒ屬

日本の辨鯉類 (四)



一 磯しそい 二 おほほみぞひ 三 おほまてひ  
 四 きめさひひ 五 つくあひ 六 かめまひ  
 七 すうきめ蝶 八 すうかたひら

殻薄く脆弱なること Barnea. に次ぐ、圓管状を爲し前後に開く、殻頂中央に在り  
破れ目あり細渦脈を有して薄き外皮を被る、内靨を藏すべき突起物は薄板状の支柱  
を形成して斜に後方に向ふ、此突起物の下部には更に前方に向へる分岐を有し、此  
分岐上にも靨帯を有して更に兩殻に跨れる凸形附屬物を支ふ。水管長く癒合し兩柱  
不同、外套灣入僅か。(オキナガヒ、ウスギヌ) PL. 26, FIG. 7. A. B.

Pandoridae.

ウスカタピラ科

Pandora.

ウスカタピラ屬

殻薄く脆弱、背縁水平、殻頂稍前方に偏し前背縁は少しく傾く、右殻は扁平左殻  
は稍膨れ放射溝を有し、前端は尖り後端は嘴状に突出し幾分か開く、内靨細く、一  
個の主齒と八字形を爲す、外套膜痕數個の點を爲す、足長く水管短し。

(ウスカタピラ) PL. 26, FIG. 8.

Myochamidae.



Myodora.

カタヒラガヒ屬

殼微小三角形、殼頂尖り不規則なる渦脈を有し雙殼殆んど扁平、内靱、一個の微齒を有す、外套灣入僅か。(ミツカバカタヒラガヒ)

Thracidae.

Thracia.

外套膜四孔あり、後孔は長し、水管稍長く分離す、殼薄く脆弱小形なり、殼頂稍後部に偏し、前端丸く突出し後端は切らる、内靱突起物を有し、白色表皮滑か、外套灣入稍深し。

Clavagellidae.

ハヤユフ科

Clavagella.

ハヤユフ屬

殼筒狀を爲し下部少しく膨る外面に左殼を融着す、肉柱發育し外套痕灣曲す、基部には樹根狀の管殼を出し、肉を出して周圍の砂泥に附着す。

280

本種は圓筒狀の怪物にして所屬不明瞭のものなりしか、基部に雙殼の痕蹟を附着せるが爲め雙殼類に編入せらるゝに至りしものなり。(ハヤユフ)

Penisillus (=Aspergillum.)

ツ、ガキ屬

殼圓筒狀にして前種より大きく一尺に餘るものあり、後端開口縁を繞りて襞を爲せる反曲薄板四乃至五重を附着す、後肉柱なく前柱は退化して外套痕を印す。(ツ、ガキ)

Lyonsiidae.

オビクヒ科

Lyonsia.

オビクヒ屬

殼薄く最も脆弱にして半透明なり、殼頂突出前端は丸く後端は上方に反曲し切らる、表皮歪放射線を彫刻す、内靱、中央に骨片を有す、外套膜閉ぢ四孔あり、水管短く足絲を出す、外套灣入は僅かなり。(オビクヒ)

Entodesma.

ウキフネ屬

281

殻歪橢圓形にして膨る、殻頂前端に偏し、前端少しく突出し後端は直角に切らる、鈍角隆を有し、背縁と腹縁とは殆んど並行し、剝脱し易き外皮を被る、中央肉片を有し内靱、兩肉柱斜に相對し後部の方大なり、外套灣入僅かなり。(ウキフネ)

4. ORD. SEPTIBRANCHIA. 隔 鰓 目

外套膜開き二個の縫合及び水管二を有す、足細長く足絲機能を失ひ或は缺く。

Cuspidariidae.

シヤクシガヒ科

Cuspidaria.

シヤクシガヒ屬

殻薄く渦脈を有し、殻頂は後方に向ふ、前端丸く突出し後端は長く末端反曲して嘴狀突起を爲す、内靱を藏する茶匙狀突起と後側齒を有す、足小さく足絲機能を失ふ、水管長く癒合し末端は觸手狀を爲す。(シヤクシガヒ)

(大正八年三月十日稿)

圖 版 解 說

第二十三版

- 1. アラナミヤカシハ 左殼及び右殼
- 2. ナミヤカシハモドキ 左殼及び右殼
- 3. ヤドガヒ 主齒及び靱帶の郭大圖
- 4. ウミギク 蝶紋及び靱帶を腹縁より見る
- 5. カホハネガヒ 右殼
- 6. エゾシラガガヒ 右殼
- 7. モシホガヒ 右殼
- 8. サンゴクヒ 右殼

第二十四版

- 1. ツキガヒモドキ 右殼
- 2. カゴガヒ 右殼
- 3. ドアラシバミモドキ 蝶紋郭大圖
- A. ドアラシバミモドキ
- B. コハクノツユ
- C. 和名未定
- 4. ヘノシガヒ 左殼

5. ニヅクラウサガヒ 右殻

6. アラヌメ 右殻

7. ナホイシカケガヒ 右殻

8. ヒトヘギク 左殻

第二十六版

1. イソシバミ 右殻及び左殻

2. ナホミゾガヒ 右殻及び左殻

3. ナホヤチガヒ 右殻及び左殻

4. キヌヤトヒガヒ 左殻及び右殻

5. ツクエガヒ 右殻

6. カモメガヒ 右殻

7. ウスギヌ 蝶紋部大圖

A. 靱帯部を腹縁より見る

イ. 殻頂にある破れ目

ロ. 靱帯に接する突起物

ハ. 突起物の分岐(=の下にあり)

ニ. 凸状附属物(上部より見る)

B. Aの構造を前方より見る

8. ウスカヌベラ 右殻

第五群 貝類と人生

總説

吾人日常に最も密接の關係を有するものは食用に供する貝類であるは云ふ迄もなく、其滋養に富みたるその他の食品の追従を許さざる獨特の風味を有することにより多く嗜好せらるるのである。又貝殻に在りても一種微妙の美しさを有するが故に、昔より古美術品に利用せられ、装身具或は日常生活に必要な物品をも製作せらるゝ事も尠くない。凡そ貝類と人生との相關聯する範圍は頗る廣く、地史學(化石)考古學(貝塚)人種學、土俗學(貝類利用研究)歴史(古美術、傳説等の關係)地理(產地、分布)錢貨學(貨幣)商品學(商品としての貝類)等の外一般圖案として應用せらるゝことも多く、學究と趣味と兩ながら興味津津々として盡くる處を知らぬ有様である。

以下尠しく通俗方面のみを略記することゝした。

貝の化石は全國に亘り廣く分布して居るが北海道石狩、天鹽、日高、陸中金田一、下野鹽原附近、下總大竹附近、相模三崎半島、美濃赤坂、月吉、淡路の南部等は研究上有數の産地である。貝塚は關東地方に最も遺蹟多く、千葉縣下總、東京市附近は密集地である、關西では遠江西貝、蜆塚、尾張熱田、備中津雲、肥後轟、薩摩出水及び近年の發見に係る陸前宮戸島、琉球伊波、萩堂貝塚等は著名である。

轟、出水及び津雲、宮戸島は人骨の發掘により、特に後二者は多數の人骨を包含し、津雲の人骨には數個の貝腕輪(赤貝の一種)を挿嵌せるものあり、琉球伊波、萩堂の貝塚よりは南洋式の貝製器具を多く採掘した、共に新事實を學界に紹介したことは愉快とするところである。

### 神宮と鮑熨斗

垂仁天皇二十六年(六五七)景行帝の第二妹、倭姬命志摩國へ御巡遊の際、國崎島鳥石一ツ島附近に御着船遊ばされ、偶々蟹婦等が鮑、榮螺等を捕獲せるを御覽あり蟹婦某が鮑、榮螺を炊ぎて命に上つたのを御嘉納遊ばされた。茲に國崎を神戸の地と定め給ひ、爾來年々兩神宮へ御饌物として進獻することゝなつた、此年は實に神器を大和より五十鈴川の地に遷御し奉つた翌年に當り、畏くも神威烈々たる兩神宮を、此萬古動きなき神域に御撰定相成つた、倭姬命の御功績は特筆すべきことであつて、今回倭姬命の御靈代を別宮として、兩神宮の地に奉祀することゝなつたのも誠に故あることゝ拜祭するのである。

却說中世延暦の朝に至る迄の事蹟は古文書逸散して知ることが出來ない、(中略)

永制止

永制止

大津國崎神戸四方堺之事

四至

限東大海中

限南奈久佐濱

限西黒石瀬滑石

限北海鳥石一島

右宮神戸者

忝二所太神宮朝夕御饌領也御鮑みどり、たまねき御取玉貫漁進神領也北堺者自往古島石一島有毛島黒島者神戸之四至内也任則吉例永停止大吹左衛門頼光之狼籍任先例每年御加津不以前甲乙人等更不可入漁筈比志等大吹左衛門之越界事自今以後今停止在限所行神宮解謝罪科也大津國崎神人任先例朝夕御饌御取玉貫無懈怠可令勤仕者也仍爲未代狀如件

正中元年十二月 日

二宮使官符權福宜

註 大吹左衛門なるもの數々神戸の地に浸入した  
天永二年の古文書に

二宮供進御厨御齒神戸島々之事

二所太神宮神主

依官旨次第下知旨重注進諸國神戸御厨立奏(?)年紀並四至田島本數及供祭物等之事

一伊勢國 以下略之

一志摩國 坂手御厨 以下略之

國崎神戸國造貫進

四至 東限海 南限奈久佐濱

西限山 北限一松竝磯濱

田 捌段二百四十步

島

供祭物 内宮方每年三度御祭由貴御饌料水取鮑二十七束玉貫鮑二十七束甘撥鮑百二十貝榮螺百二十貝津布十二籠荒蠣十二籠鹽六斤直會料鮑六束又六節御賞定丁部十八度別鯛十隻鮑五十貝榮螺五十斤(?)所供進也

外宮方三度御祭由貴御饌料水取鮑二十一束玉貫鮑二十一束甘撥鮑百二十貝津布十二籠荒蠣十二籠鹽六斤並二宮朝夕御饌勤料定丁部二十人備進魚貝又六節御賞同内宮矣

享保六年四月十九日國崎村よりの願書に

内宮御饌料

御 鮑(水取落前) 合四千五百 三祭禮

御榮螺前 合千三百五十 同

上熨斗 合二把 濱出

若布 十貫目 政所尾崎善左衛門へ納

米 一石 檜籠料岡本八郎太夫へ渡

以上三祭禮納申分御祭禮並御饌料

米 三石五斗 代銀五百二十五匁  
右は鮑取上の勞として七ヶ村の者へ遣す  
文化天明の頃、三祭禮、十五日兩神宮へ奉る數

内宮へ

鮑 千五百 榮螺 四百五十  
檜籠 四十八 熨斗 二 把(濱出料)  
若布 十貫目(政所)

外宮へ

鮑 百三十 榮螺 二千九百五十  
檜籠 四十八 長鮑 十二連  
若布 十貫目(政所) 米 三斗三升三合(岡本八郎太夫)

右三度二宮料總高鮑二千四百十八榮螺一萬二千檜籠三百六十八料米九斗九升  
三合

明治五年神宮規定改正と共に御贄調進の事は廢されたが、其當時調進した御料は  
左の通りであつた。

九千鮑 五十個 大身取 三百三十連  
小身取鮑 三百三十連 玉貫鮑 三百三十連

御潜神事 其起源は不明であるが、毎年六月朔日國崎村民の中漁夫蟹婦とも、一切不淨なきものゝみ集り。倭姫命御巡遊當時の故事に鑑み、御贄調進の鮑を捕獲する壯嚴なる儀式を用ひ、五月晦日は荒海神事、六月朔日は御贄神事、二日を榮螺神事と稱へ、國崎村民の榮譽と爲し、他村蟹婦の羨望する所であつた。此日は殊に他の六ヶ村即ち神島、答志、菅島、石鏡、相差、安乗の蟹婦は請ふて國崎の蟹婦中に交

り、御贄の鮑を捕獲するのである。然るに明治五年神宮改正と共に御贄調進の事は廢されたが、古來の恒例により國崎より熨斗を供進すること、依然今日に及んで居る。現今は、毎年六月(月次)十月(神嘗祭)十二月(月次)の三回供進することになつて居る、而して十二月は恰も同縣令による鮑禁漁間に相當するも御贄料の鮑に限り漁獲を許されて居る。

右三節祭に國崎より上納する毎回の神饌品の數量は左の通りであつて、白木唐櫃二個に分納し、神宮司廳へ祭禮の前月末に上納することになつて居ると云ふことである。

大身取鮑	百十連	小身取鮑	二百四十連
玉貫鮑	百十連	干鮑	五十個
干榮螺	二百個又は三百個		

三節祭 神饌品目を左に掲ぐるゝこととした、

(明治六年改正現行)

月次祭(六月)

豐受大神宮六月十五日夕大御饌(十六日朝大御饌同じ)

御箸、白酒、黒酒、醴酒、清酒、玉貫鮑、身取鮑、乾鯛、鹽、水、飯、乾鹽、鯉、乾栗、鱈、乾梭魚、大根、乾鰻、乾陸、海松、餅、鯛、乾鮫、海苔、乾榮螺、乾伎須、牛蒡、乾烏賊、香魚、枇杷、(以上正宮)

東西相殿は各乾栗、海苔の二品を缺く、

皇大神宮六月十六日夕大御饌(十七日朝大御饌同じ)

豐受大神宮に比し海苔、鯛の二品を加ふ、

東西相殿は各乾栗、海苔、海參、鯛の四品を缺く、

月次祭(十二月)

豐受大神宮十二月十五日夕大御饌(十六日朝大御饌同じ)

御箸、白酒、黒酒、醴酒、清酒、玉貫鮑、身取鮑、乾鯛、鹽、水、飯、乾榮螺、乾鹽、乾柿、野鳥、胡蘿蔔、鰻、鯉、海松、餅、鯛、青海苔、鯛、水鳥、大根、蠟、乾陸、香橙、(以上正宮) 東西相殿は各青海苔、香橙を缺く

皇大神宮十二月十六日夕大御饌(十七日朝大御饌同じ)

豐受大神宮に比し海參、乾鮫の二品を加ふ、

東西相殿は各青海苔、香橙、海參、乾鮫の四品を缺く、

神嘗祭

豐受大神宮十月十五日夕大御饌(十六日朝大御饌同じ)

御箸、白酒、黒酒、醴酒、清酒、玉貫鮓、身取鮓、乾鯛、鹽、水、飯、鰯、乾鱈、梨、梭魚、野鳥、

蓮根、鯉、海松、餅、鯛、乾香魚、紫海苔、伎須、水鳥、大根、乾榮螺、乾鰯、柿、(以上正宮)

東西相殿は各梨、紫海苔の二品を缺く、

皇大神宮十月十六日夕大御饌(十七日朝大御饌同じ)

豐受大神宮に比し海參、乾鮫、二品を加ふ(正宮)

東西相殿は各梨、紫海苔、海參、乾鮫の四品を缺く、

以上

各別宮、攝社、末社の分略す、

常典御饌の神饌

酒、飯、鹽、水、海藻(昆布、鹿毛菜等)野菜(大根等)、果物、魚類二品(鰯節、乾魚)等を供へ、兩神宮同様で、相殿、別宮以下は果物を缺く、

神饌料品名の解

一、甘撥鮑あまがきはび 形態、用途とも不明、

一、御榮螺前さくらひらき 榮螺の肉を乾燥したるもの、

一、御前鬘斗前 鮓の肉を乾燥せしもの、身取鮓、玉貫鮓の類、

一、長鮓 鬘斗鮓のこと、

一、若布わかひ 志摩坂手島の若布が精良にて坂手布さかてりと稱へるよし、

一、檜籠ひこ 檜を薄く削り、口徑約六寸、深さ約三寸に編みたる籠で共蓋を附し、鶏卵十個を納め、遷宮に

關する諸祭に用ふ、

一、津布つづ、細螺したまひの事?スガヒ、イシダ、ミの類なるも今は供進せぬと云ふ、

一、大身取鮑 鮓鬘斗と同名、長さ四寸五分、幅八分短冊形のもの十枚を重ね、上部に穿孔して藁にて綴

たるもの二綴を繋ぎ合せて一連と云ふ、

一、小身取鮑 右同品の長さ四寸五分、幅四分のものを三枚綴りのものと二枚綴りのものを繋ぎ合せて一連

とす、

一、玉貫鮑 右同品の長さ二寸二分、幅三分のもの二枚を交叉して十一組を藁にて綴りたるもの二綴を繋

ぎ合せて一連とす、

三節祭に、兩宮止殿、東西相殿及び別宮荒祭宮、高ノ宮へは大身取鮑、玉貫鮑各三連を。荒祭宮、高



ノ宮以外の別宮（瀧祭神之に準ず）へは大身取鮑、玉貫鮑各二連を。土器に盛り、尾州篠島より供進する干鯛を中央に並べて供へ。四至神（兩宮、端籬四隅）及攝末社へは小身取鮑一連と干鯛を一器に盛りて供へる。

此玉貫鮑、大身取鮑、干鯛は神饌中最も重要なものであると云ふことである。（圖版第二十七版）



按ずるに上古は鮮鮑即ち生きたる鮑を貝殻の儘進獻し、中世干鮑を併せ獻じたるもの、如く、御取取<sup>みどり</sup>玉貫<sup>たまぬき</sup>とは貝殻より肉を取り離したる儘のものを貫きたる義であつて、十個繋ぎて之を一連と云ふた。即ち乾鮑の事で現今の明鮑の様なるものである、近世身取、玉貫の名のみ残りいつしか熨斗製となつた様である。

熨斗とは又長鮑とも稱へ、鮑の肉を伸して作つたものである、夫れ故に鮑熨斗を略して熨斗と云ふ様になつた。熨斗は伸す、のばす、長くす、地位を進ます、身代を豊にす、壽命をのす等總て幸運を祝福する意味に於て、昔出陣に際し、打あわびとて門出を祝し且つ精氣を整へると云つて食ひ、貴人へ御目見得の時、將軍家へ正

大 熨斗 (賢所奉獻)

(上部を示す)

五分一縮小

(下部を示す)

貫 玉 鮑 (神宮神饌)

三分一縮小

大身取鮑 (神宮神饌)

小身取鮑 (神宮神饌)

大良車舖 (輻宮輻器)

小良車舖 (輻宮輻器)

貫王舖 (輻宮輻器)

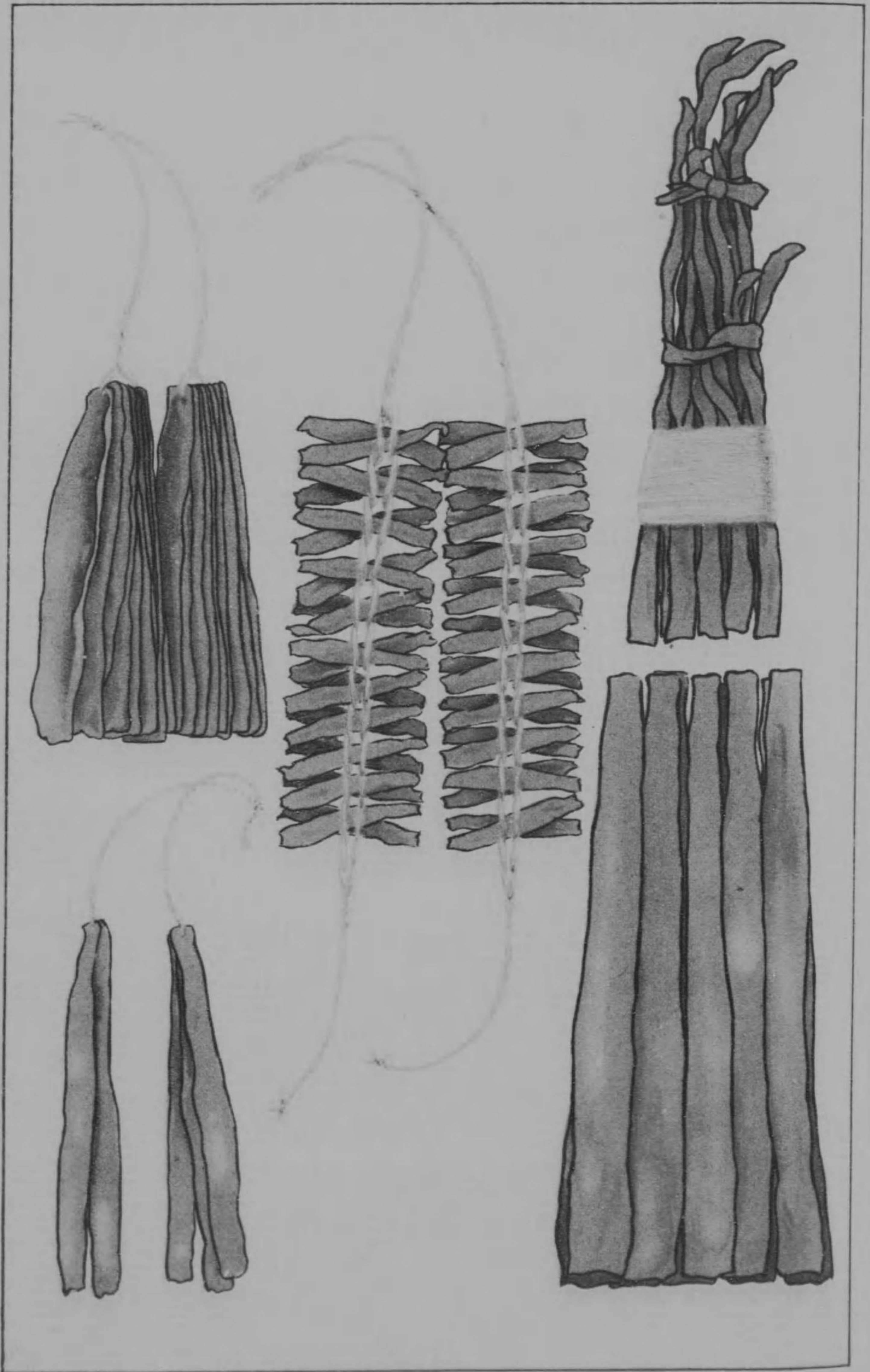
三衣一舖小

(土階式示)

(才階式示)

大 堤 半 (寶 兩 奉 攝)

正 衣 一 舖 小



月の祝言の時などには先づ結び熨斗を取つて下さつたといふ事である。婚禮の結納には必ず包み熨斗を添へて贈り、近代一般の贈答品に熨斗を添へる様になつた、何れも不老長生を壽く爲である。

包み熨斗は檀紙を用ふるを本式とし、奉書、杉原は稍略式である、後簡略したる折熨斗を案出する様になつた。折熨斗も素と大形の切熨斗を檀紙にて包み紅白又は金銀の水引を掛けたものであつたが、追々形も小さくなり用紙も和紙より西洋紙に移り、無地物より木版、銅版、石版刷等に變化し、形式も多種多様に亘り切熨斗を節約して色紙を張りて熨斗に擬へ、一層簡略したるものは熨斗の形を印刷し、尙折熨斗の形を印刷したるを切り取つて貼附するものもある、更に簡略して東熨斗の形、又はたはれのしの版木を押捺し、水引に熨斗を配したる様式の包紙を使用する様になつた。近來は商店の廣告を熨斗に利用する事が盛んになつた、商號を巧に圖案化したるものは兎に角、内外に商標、商店名等を麗々しく印刷するに至つては、全然熨斗本來

の意義を没却するものであつて、要するに、餘り形式に過ぎた缺陷であると思ふのである。

△折熨斗の分類的考察

一、寸法による分類

長さ七寸以上のもの、

同 五寸以上のもの、

同 三寸以上のもの、

同 二寸以上のもの、

同 一寸以上のもの、

二、折方の型式

イ、包熨斗式 包熨斗の様式に準らへたもので上下の幅等しき模範的のもの、

ロ、江戸のし 上方廣く下方狭く折目兩方に折返したるもの、

ハ、上方のし かみがた 折目右方にのみ折返したるもの、

三、結束の仕方

イ、包熨斗に準らく金銀の水引を掛けた模範的のもの、

ロ、細き金紙を纏ひ水引に擬へたるもの、

ハ、折り放しのまゝのもの、

四、折熨斗の用紙

甲日本紙使用のもの、

(一) 無地紙

イ、檀紙の紅白を重ねたるもの、

ロ、仙花の類紅白を重ねたるもの、

(二) 印刷紙

イ、手刷木版極彩色のもの、

ロ、銅版又は石版印刷のもの、

乙西洋紙使用のもの、

(一) 無地紙

イ、印刷紙又はザラの紅白を重ねたるもの、

ロ、艶紙の色を重ねたるもの、

ハ、艶紙の地紋あるものを重ねしもの、

(二) 印刷紙

イ、艶紙に模様を金刷せるもの、

ロ、手刷木版の粗製品、

ハ、銅版又は石版印刷のもの、

五、熨斗の用ひ方

(一) 長き熨斗を使用せるもの、

イ、包熨斗の形式に準じて包紙の上下に長く熨斗を出せるもの、  
ロ、熨斗を稍節約して包紙以内に限れるもの、

(二) 熨斗を半減せるもの、

イ、上部へ長く突出せしめたるもの。少しく折返しより覗かせたるもの(普通)  
ロ、下方へ長く突出せしめ上部は糸綿を覗かせたるもの、多分束ね熨斗を包たるを利かせたものであらう、

(三) 熨斗に擬ひしもの、

イ、茶色の紙を熨斗に擬へて貼付せるもの、

ロ、熨斗を貼付したる如くに見せ印刷したるもの、

六、熨斗を使用せざるもの、

折熨斗に水引を通したるもの(水引を掛け熨斗を狭みたる状態を抽象的に簡略したるものである)

折熨斗の分類的考察

五ノ一 (イ)

檀紙紅白(本式)

五ノ二 (ロ)

洋紙(熨斗は紙製)

五ノ一 (イ)

洋紙紅白

五ノ一 (イ)

檀紙

五ノ三 (イ)

艶紙金刷(熨斗は紙を貼る)

五ノ一 (ロ)

洋紙紅白(檀紙擬)

五ノ一 (イ)

洋紙色刷

五ノ三 (ロ)

洋紙銅版(熨斗は印刷)

五ノ二 (イ)

日本紙紅白

七 日本紙切貼

八(イ)

日本紙木版(熨斗は印刷)

五ノ二 (イ)

日本紙木版

八(ロ)

日本紙木版(廣告熨斗)

八(ハ)

洋紙石版(廣告熨斗)

八(ニ)

洋紙石版(廣告熨斗)

矢倉一貝類叢話圖版—第二十八版

正ノ二(下) 日本藤木端

八(口) 日本藤木端(觀音變半)

八(八) 羊藤苧端 (觀音變半)

八(二) 羊藤苧端 (觀音變半)

正ノ二(下)

日本藤珠白

廿 日本藤苧胡

正ノ三(下) 體藤金團

八(下) 日本藤木端 (觀音變半)

正ノ一(口)

羊藤珠白(對藤珠)

正ノ一(下)

羊藤苧團

正ノ三(口) 羊藤藤端 (變半) 苧團 (觀音變半)

正ノ一(下)

羊藤珠白

正ノ一(下)

對藤

正ノ三(下) 體藤金團 (變半) 藤端 (觀音變半)

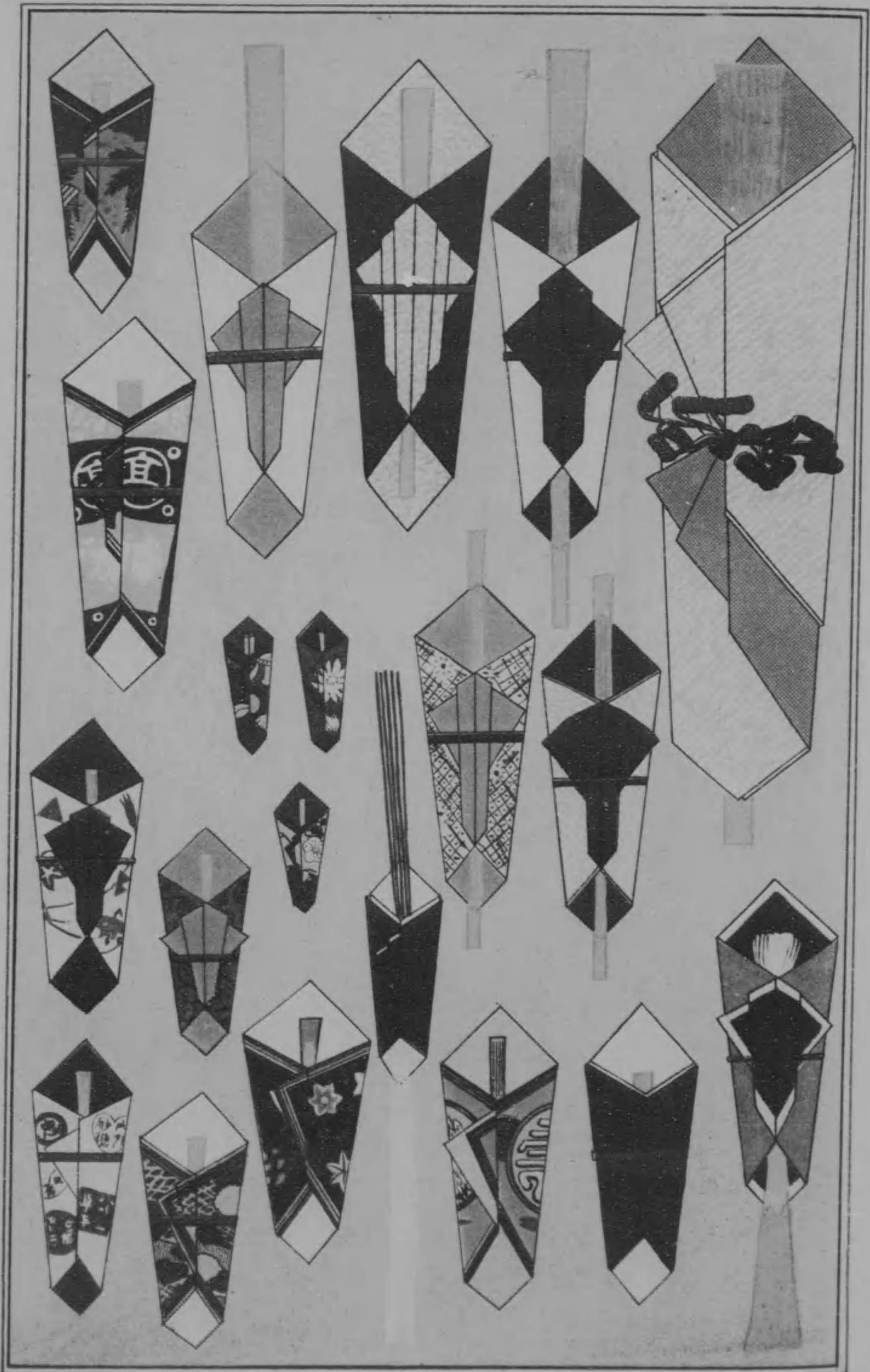
正ノ一(下)

對藤珠白(木灰)

正ノ二(口)

羊藤(變半) 苧端

洋製平の長藤苧苧察



七、簡略したる折熨斗

折熨斗の形を印刷したるを一々切抜いて貼用する。

八、廣告に利用せる折熨斗

用紙形式共一定せず、日本紙に古風なる木版極彩色手刷を用ひ、商號又は商標を巧に圖案化したる優美のもの、客觀的に廣告を表示したるもの。銅版石版刷の稍高尚なるものも、露骨に自家廣告を爲せる劣悪なものもある、其様式を區別するに左の數種に過ぎない、

- イ、表紙に商號或は商標を圖案化し、内外の一部に店名又は商標を印刷せるもの、
- ロ、表紙に商標を、内部に店名を印刷せるもの、
- ハ、表紙にのみ店名、商標を印刷せるもの、
- ニ、表紙に販賣商品名、店名等を盡く印刷せるもの、（圖版第二十八版對照）



鮑熨斗の製法 盛夏の候、蟹婦をして鮑貝を採集せしめ、大形なるものを選び、

鮑のみと稱する長さ六寸七分、幅六分、厚さ三分、先端稍開き緩く上方に反曲せる鐵製槓杆狀の筥に、長さ三寸五分餘の木製圓柄を附けたもので、貝殻と肉とを離し

内臓及外套膜を去り、熨斗鎌と稱する刃の長さ五寸五分、幅一寸五分、半月形を爲せる鋭利なる薄刃を長さ三寸の鐵柄に取附けたもので、恰も果物の皮を剝ぐが如く薄き條となし竿に懸けて陰所に置き、所要の寸法に伸長せしめ、取卸して日向水にて能く洗ひ、再び竿に懸けて乾かし箱中に密閉して十一月まで貯へて置く、之れをつかみのしと云ふ。秋是れを取出し淡水中に約十分計り浸し、柔軟となつたのを取揚げ、盥中に入れて布巾を覆ひ置く。然して直徑一寸八分、長さ四寸五分の竹管に、前の肉條を巻き附け、平滑かなる板面上で竹管を回轉しながら能く伸展せしめ、二條を重ねたるを五組竝べて一束とし、十束を一把とする。

扨て晴天を見定め莖を天日に曝して温熱を含ましめ之れを室内に移し、結束せる熨斗を竝べ、更に他の温熱ある莖にて掩ひ、徐々に水分を蒸發せしめ、翌朝是れを室外に取出し、莖上に竝べ替へ、更に莖を掩ひて日光の直射を避け徐々に乾燥せしめ、約十分間の後室内に取入れ、床上に莖を敷き其上に熨斗を竝べ、新聞紙を覆ひ

重錘にて輕壓を加へ扁平を保たしめる、斯の如きを四日間反覆して最後に仕揚を爲すのである。

熨斗を大熨斗と中熨斗とに分ける、

大熨斗は結束以上一尺、以下四尺總長五尺、條の中一寸あるもので、鮑三百五十匁以上のものを用ひ一箇四五條を得。

中熨斗は結束以上四五寸、以下二尺六七寸總長三尺内外、條の中六分位のもの、で鮑二百匁以上のものを用ひ五條を得。

以上は志摩國越賀村の製造法

宮中賢所へ進獻のものは、全長五尺の大熨斗六把を一束と爲したるもの三束（以前は十把一束を十束上納した）を毎年越賀村より上納する事になつて居る。（圖版第二十七版） 神宮へ進獻のものは前記の熨斗を所定の寸法に切斷せると見れば大差なく、其工程も略同様であるが、只剝肉作業は六十歳以上の婦女之れに當り、



伸展作業は五十歳以上の男子擔當する事となつて居るのが違ふのみである。

元來鮑熨斗は、神宮及び賢所へ進獻する外、製造業者なき故、うみたけ(貝の名)及び布海苔製の擬熨斗を以て代用とする、吾人の日常使用せるものは即ちうみたけのしである。

海茸熨斗の製法 暖海の泥土中に産する水管長さ二枚貝である、採集したる貝を籠に入れ、淡水の流通する溝渠中に一夜浸し置き、肉の外表皮が白くなるまで能く踏み晒し、肉を切開して更に四斗樽に投じて淡水を注入し、時々攪拌し十時乃至十五時間を経過し、肉が糊汁状となつた時、取出して疊莫座の上に杉の四分板に熨斗型を穿ちたるものを置き、之れに肉汁を注ぎ込み、順次に能く乾燥せしめ左右各二枚重ねを一連と云ひ、五連宛藁にて結束し更に十個を纏めて一束とする。

### 蛤と貝覆の遊戯

景行天皇五十三年(七八三) 天皇安房の浮島の行宮に御駐輦の

砌、磐鹿六膳命(孝元帝曾孫)は皇后の命を奉じ、がくと、鳥を捕へんとて船出せられたが遂に見失ひ、船は却つて干潮の爲めに座洲して仕舞つた。命は砂を掘つて船を卸さうと思つて、八尺の白蛤を得たので大に喜び、歸り調理して天皇に献上した。天皇より大層譽詞を賜はつて命を膳夫の長に仰付けられた。夫れより以後祝事には必ず蛤を使用することゝなつた。

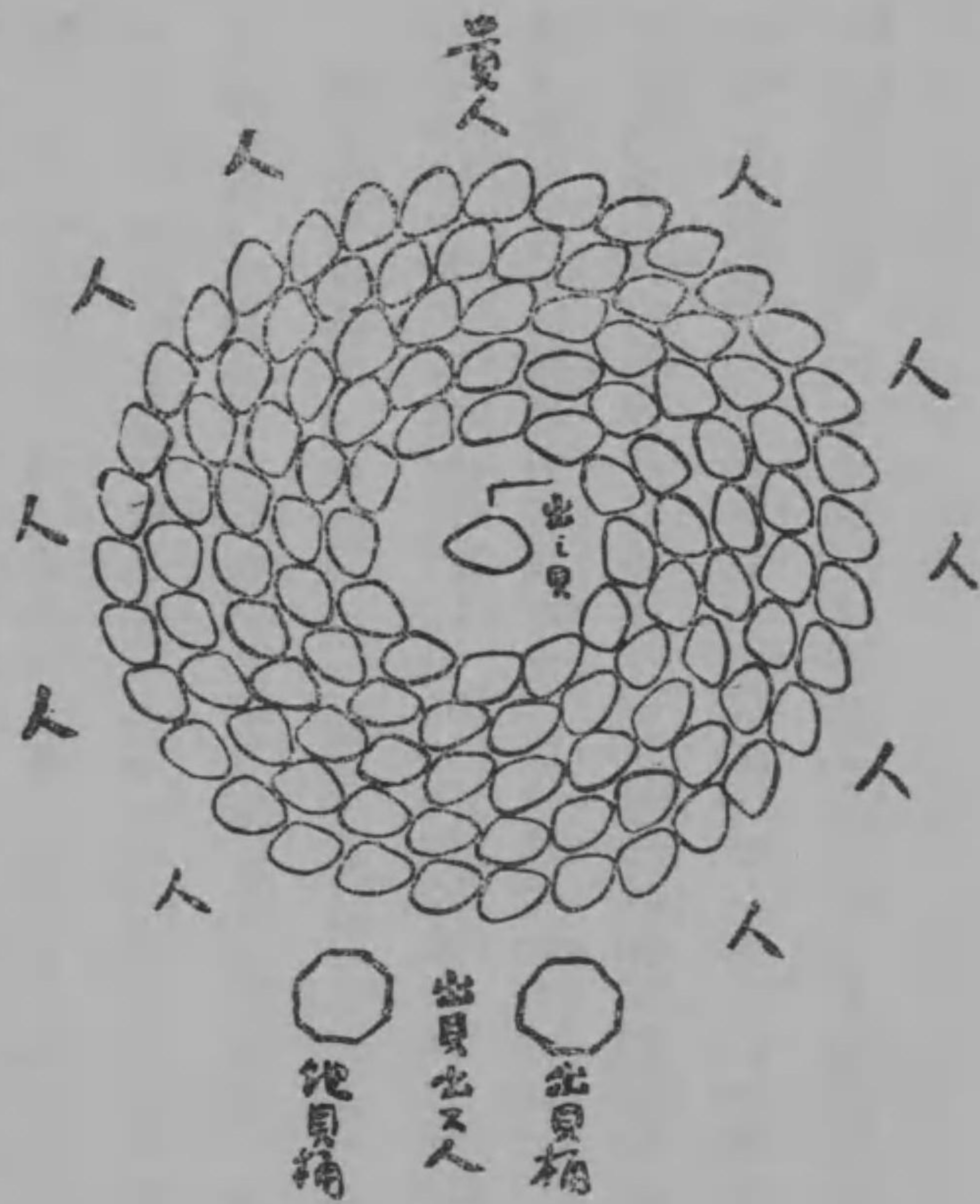
元祿頃の遊戯に貝覆かひおほひと云ふものがあつた、俗に貝合せと云ふて居るが夫れは誤りである、貝合せと云ふのは美しき種々の貝を持寄り、互に美貝を競ふものであつて貝覆とは全く異つた仕方のものである。

貝覆とは耳白蛤(後背縁に黒斑なきもの)の文様成丈け尠く且つ掌にて漸く握れる位の大きさの揃ふたものを選び、三百六十個が一組である。先づ貝殻は石灰水に浸して薄皮を剥ぎ能く磨いたものを用ひ、内面には紙を張り源氏五十四帖、伊勢物語又は花鳥等を極彩色にて雙殻同一に書き、左殻(陽殻)を地貝ぢがひと云ひ、右殻(陰殻)を

出貝だしがひと云ひ別々の貝桶に納れるのである。貝桶は八角形に作り徑り深さ共各一尺、野郎蓋の深さ二寸計りなるをかぶせて紙を張り、外面には極彩色の家屋人物を畫き内面は金砂子である、又別に高さ二寸、椽のある八ツ足附きの臺に載せ、足の四ヶ所には孔を穿ちて太き總附きの紐を懸ける、地貝桶は男とんぼ結び、出貝桶の方は女とんぼ結びとする。又黒漆塗蒔畫の貝桶に八角と圓形とがある。

遊戯の方法は先づ席に毛氈二枚を敷いて中央に壇紙一枚を敷く、定員を十二人又は十人とし環狀に居列ぶ、下座しもざの一人は出貝を出す役を引受ける、其右手には出貝桶を置き左手には地貝桶を置く、扱て地貝桶より地貝十二個取出して壇紙の上に丸く伏せる、之れ十二月に象とり潤年は十三個を列べる、此貝を並べることを貝をたつと云ふ、而して他の地貝は適量づゝ取出し、貝桶の蓋に盛り分けて廻はし、順序よく互に貝をたて終る、其時主人の差圖に従ひ出貝一個を取つて地貝中央の空所に置く、席に貴人あらば出貝の頭(殼頂)は貴人に向ける。

下へ入れかけ、更に薬指と小指にて出貝を地貝の上に搔き寄せる様にしながら手の内に入れて貝を合はすのである、貝合ふたらば其儘我膝の上に持ち來り、頭を下に



出貝と同じ文の半片を地貝中に見極めたるときは左手は疊につきたるまゝ右手にて靜かに地貝をおほひ取る、其時拇指、人差指、中指にて貝を仰向けながら、出貝の所へ持ち來り、薬指、小指にて出貝の頭を左方に向け替へ、地貝を出貝の頭の

して少し揺れば貝は自ら開くから左右に分けて膝の前に並べて置く、扱又出貝のあとへは代りを出し、地貝の空所はソト填めて置く、斯様の方法を繰返して多く貝を合はしたる組を勝とするのである。

今ぞしる二見の浦のはまくりを

貝合せとておほふなりけり

西行

此遊戯の起源は蛤の雙殻は一個の外幾千の半片と合はすとしても決して合ふものではない。之を夫婦の貞操に準らへたのから始まつたものである。後世婚禮の調度品に貝桶の一對を加へる様になつた、現今尙婚禮の獻立に相合蛤（雙殻に肉を入れたる羹）を使用するのも前條の故事から傳はつたものである。又此貝覆から歌貝とて紙に和歌の上、下の句を書したるものを並べる遊戯が出来た、上の句を出貝とし、下の句を地貝とした、後轉じて歌がるたとなつた。

貝類の蒐集 元祿年間以降貝類の蒐集は甚だ流行を極め、著述も多く大部のものもあつた、殊に天保の前後は最も盛期であつた。明治維新の際は蒐集も、研究も全く忘れられて仕舞つたが泰西の文物輸入と共に貝類の蒐集は後年科學的に研究せらるゝ様になつて現今に及んで來たのである。

伊太利式彫刻 奈良朝時代に著しく發達せる藝術に螺鈿がある、螺鈿とは貝殻と金銀等にて華章を作り、器物に嵌入する技術である、貝には夜光貝又屋久貝、青螺等と稱し琉球、臺灣、南洋等に産する貝を用ひ、金、銀、珠玉、玳瑁等を配し、琵琶、琴、古鏡其他に嵌ませられ、彼の有名なる中尊寺、鳳凰堂の殿堂内にも利用せられたのであつた。

後元和年間長崎の工人長兵衛なるもの、専ら鮑貝を嵌入する法を傳へた、之れを

青貝細工と云ひ支那の技法である。安永年間芝山専藏なるもの、在來の單調なる嵌  
入法を改良し、貝殻の色彩を巧に利用する法を考案した、之れを芝山象嵌と云ひ大  
に世の嗜好に投じ、貝殻彫刻術も著しく進歩した。

伊太利式彫刻とは前述の如き只貝の色彩を配合する法とは異り、貝殻を構成せる  
層中にある自然色彩を巧に利用し、或は淺く或は深く削りて人物、草花、風景等を  
現はす法であつて、要するに一枚の貝殻より多數の色彩を出し、圖案を仕揚げると  
云ふのが伊太利式彫刻の特長である。

彼の有名なる伊太利の噴火山ヴェスピアス山の南麓にトラデルグレッツコと云ふ小  
さき町がある。此町には國立彫刻學校が有つて徒弟を養成し、卒業者は土地の彫刻  
業者の技術員となつて、貝殻、大理石、珊瑚等の彫刻品を製作し、伊太利漫遊の旅  
客に賣つて居るのが此土地の名物である。

東京水産講習所では、去明治四十一年二月貝殻試験部を置き、専ら伊太利式彫刻

法により技術を傳習せしめ、四十三年に四名、四十四年に六名の卒業生を出したの  
が我國に於ける伊太利式彫刻の始めである。近年同式による珊瑚彫刻を傳へ、流行  
を來たしつゝある、此珊瑚彫刻は在來玉しか製作しなかつた我國にては珍らしき方  
法である、假令ば玉に製するには中心に缺點があるとか、又は不適當だとか云ふ様  
な材料を使用して、之れに各種の彫刻を施し裝身具を作るに在る、場合によれば瑕  
瑾を巧に利用して却つて面白き彫刻を得る事がある。

前述の如く伊太利は彫刻の本場であるが、使用する貝殻の原料は遠く我邦及び南  
洋、西印度等に仰ぎ、珊瑚の大部分は我邦より供給を受けつゝあるのである、而し  
て我珊瑚當業者は如何と云ふに、一部彫刻を爲すものもあるも、技術は尙幼稚なるを  
免れず、大部分は原料の儘輸出し、劣等なる材料も古渡と稱する高價品となつて逆  
輸入を爲す奇觀を呈しつゝあるのである。

今伊太利式彫刻に使用する貝殻の種類と製作品の種類を略記すれば左の如きもの